

# 名城大学FD・SD活動報告書

令和7年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

# 目 次

## 1. はじめに

- 令和7年度のFD・SD活動を振り返って ..... 1  
大学教育開発センター委員会委員長 村本 裕二

## 2. 令和7年度大学教育開発センター委員会

- 委員構成 ..... 5
- 活動記録 ..... 7

## 3. 令和7年度大学教育開発センターにおけるFD・SD活動報告

- 第27回FD・SDフォーラム 実施報告 ..... 11
- 第21回FD・SD学習会 実施報告 ..... 40
- 新任教員FD・SD研修 実施報告 ..... 55
- 科目別学修振り返りアンケート 大学全体の結果 ..... 59

## 4. 令和7年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告

- 法学部・法学研究科 ..... 62
- 経営学部・経営学研究科 ..... 67
- 経済学部・経済学研究科 ..... 78
- 理工学部・理工学研究科 ..... 83
- 農学部・農学研究科 ..... 105
- 薬学部・薬学研究科 ..... 117
- 都市情報学部・都市情報学研究科 ..... 125
- 人間学部・人間学研究科 ..... 130
- 外国語学部 ..... 136
- 情報工学部 ..... 140
- 総合学術研究科 ..... 142
- 教職センター ..... 144

## 5. 大学教育開発センター要項 ..... 147

## 6. おわりに

- あ と が き ..... 149



# 1. はじめに



# 令和7年度のFD・SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 村本 裕二

## FD・SD活動の意義とミッション

本学におけるFD (Faculty Development) およびSD (Staff Development) のミッションは、教育理念と目標を達成し、教育および大学運営の質を向上させ、持続可能な教育環境を構築することにあります。その実現には、教員と職員の協働が不可欠であり、特に、カリキュラムやプログラムの再構築に関する提言、さらには「学位の質保証」を目指した学修環境の整備を通じて、直接的・間接的な貢献を果たすことが重要です。

本学では、学部や組織の自主性を尊重した「ボトムアップ型」として展開されています。これらの活動は、教育の質的改善や学生の成長を支える人材育成において中心的な役割を果たしており、活動の過程を可視化し成果を全教職員で共有することで、さらなる改善に向けた実践的な活用が可能となります。具体的には、ダッシュボード分析や学修成果の可視化、外部評価の実施などを通じて、ミクロ（個々の授業）、ミドル（学科・学部単位）、マクロ（大学全体）の3つのレベルで質保証を行っています。

こうした取り組みを支える総合企画部、大学教育開発センターおよび関連部署の職員の皆様には、質保証システムの提案・整備、自己点検・評価報告書の作成など多岐にわたる膨大な業務にご尽力いただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

## 今年度の主な取り組みと成果

大学教育開発センター委員会では、授業改善アンケートや学修成果の可視化・分析、現状における問題や今後益々重要となる数理データサイエンス・DX人材育成を見据えたFD・SDフォーラム・学習会の開催、入学前教育および名城サプリメント教育の教材見直し、FD・SD NEWSの発刊など、各種取り組みを可能な限り行いました。以下に、今年度の取り組みについて省察します。

### 1. 科目別学修振り返りアンケートの実施

授業改善アンケートに関しては、本年度より「学修者本位の教育」の観点から、学生が自身の学修状況を省察する設問を追加した新たなアンケート（科目別学修振り返りアンケート）を導入しました。この改善により、学生自身が省察できるようにし、学生の自律的な学びを促進する仕組みを構築しました。

### 2. 学修成果の可視化と外部調査

学修成果の可視化を目的に、全学部・全学科でPROGやGPS-Academicを活用した調査を試行して頂いています。この取り組みは、学生個々の学修行動や成果を定量化し、教育プログラム

の効果を測定することを目的としています。特に、複数年次にわたるデータを収集・分析することで、学修成果の年次推移や教育施策の効果を分析できるようになります。現段階では、PROGやGPS-Academic等の外部団体提供による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。今年度も多くの学部・学科において、複数年次を対象とした調査が実施され、学修成果の可視化に関する重要性の認知とその活用が進んでいることが伺えます。本調査の実施に関しては、引き続き実施費用の援助の準備を進めていますので、継続的な実施と活用について、ご協力の程、よろしく申し上げます。

### 3. FD・SD フォーラムと学習会

今年度の第27回FD・SDフォーラムは、メインテーマを「コンピテンシーを育成するアクティブラーニング」としました。愛媛大学 教育・学生支援機構 中井 俊樹 教授、お茶の水女子大学 総合知開発機構 押尾 恵吾 特任助教を講師としてお招きし、学生が身につけるべき具体的能力（コンピテンシー）を明確化し、教育理念に沿って体系的に育成していくことの重要性の説明と先進的な取り組みを進める両大学の実践例や、カリキュラムへの組み込み方、学修成果の可視化など、具体的な事例を交えてご講演いただきました。さらにコンピテンシーを育成するためのアクティブラーニングの実例等も詳細に示して頂きました（1月8日（木）、Zoom ウェビナーによるオンライン開催）。当日は多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ、如何に分析し、その結果をいかなる手段で教育に反映させるかについて、関心の高さが伺えました。

お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には、心より御礼申し上げます。

また、第21回FD・SD学習会は、筑波大学の田中 正弘 准教授を講師としてお招きし、「学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」のテーマで開催しました（9月9日（火）、共通講義棟東 E304講義室 対面開催）。本学では今年度より、学生アンケートの内容を「学生自身が学修を振り返ること」を目的としたものへ見直しました。学生の回答内容、科目ごとの集計結果、さらにそれらを踏まえた教員からのコメントを学修ポートフォリオに蓄積することで、ポートフォリオを学生と教員のコミュニケーションツールとして活用する取り組みを開始しました。この変更に伴い、学生の自己省察の意義および学修ポートフォリオの活用方法について理解を深めることを目的として、本学習会を企画しました。学習会では、学修ポートフォリオが学生の主体的な学びを促進する点や、自己省察を支援するための具体的な活用方法について、豊富な事例を交えながらわかりやすい解説が行われました。特に、学生が自身の学修過程を可視化し、教員との対話を通じて学びを深化させる仕組みづくりの重要性が強調されました。多くの参加者から本テーマに対して高い関心と好評を博し、活発な意見交換が行われました。

### 4. 新任教員向け研修

令和6年度より対面形式で行っていた新任教員FD・SD研修を見直し、全国私立大学FD連携フォーラム「実践的FDプログラム」のオンデマンド教材を導入しました。このプログラムは「高等教育論」「教授学習理論」「授業方法論」「教育評価論」「心理学」「研究のアウトリーチ活動」な

ど、多岐にわたる分野をカバーしており、新任の先生方には教育経験の有無にて推奨する講義を示し、学内教職員も希望者があれば、自由に受講可能としました。また対象講義を「FD」区分から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上ともしました。

#### 5. 名城サプリメント教育と学習支援の強化

入学前教育と名城サプリメント教育では、紙ベースの教材をオンライン化し、学習効率や質問対応の即時性を向上させました。さらに、学習サポートルームでは、対面・リモートのいずれの方法でも相談を受け付ける体制を整え、学生の多様なニーズに応じています。

#### 6. FD・SD NEWS の発刊

令和8年3月にVol.20を発刊し、「認証評価制度の見直しについて」を特集テーマとしました。FD・SD NEWSは、FD・SD活動や高等教育改革の最新動向を教職員間で迅速に共有するための重要な情報媒体として、引き続き活用を強化していきます。

### **今後の展望と期待**

本学のFD・SD活動は、教職員が主体的に取り組む、現場の実感に根ざした実践的な取り組みを中心に展開してきました。「After コロナ」時代には、オンライン教育やハイブリッド型授業を含むICT活用を軸とした「学修者本位の教育への転換」が強く求められ、それに伴い、FD・SD活動も新たな段階へと進みつつあります。

また、数理データサイエンス・AIやDX人材の育成といった新たな社会的ニーズへの対応も急務であり、これらの領域における教育体制の再構築と強化が急務です。

教職員の皆様には、引き続き、本学の教育の質向上に向けた積極的なご協力をご理解をお願い申し上げます。



## **2. 令和7年度**

### **大学教育開発センター委員会**



## 令和7年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏名	職名	氏名
大学教育開発センター長	委員長・教授	村本 裕二	/	
学務センター長・薬学部	教授	大津 史子	/	
法学部	准教授	滝谷 英幸	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	瀬川 新一	教授	田代 樹彦
経済学部	教授	谷村 光浩	教授	名和 洋人
理工学部	教授	富田 耕史	准教授	村上 祐一
農学部	教授	林 義明	教授	山口 秀明
薬学部	准教授	黒羽子 孝太	/	
都市情報学部	教授	杉浦 真一郎	教授	張 昇平
人間学部	教授	岡戸 浩子	助教	高橋 香苗
外国語学部	教授	鈴木 裕輔	教授	豊田 周子
情報工学部	教授	鈴木 秀和	教授	田中 敏光
総合学術研究科	准教授	香村 恵介	/	
教職センター	教授	木村 美奈子	/	
学務センター	事務部長	中内 達郎	/	
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹	/	

## 令和7年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

### 【教育支援専門委員会（13名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	村本 裕二	座長
法学部	准教授	滝谷 英幸	
経営学部	教授	瀬川 新一	
経済学部	教授	谷村 光浩	
理工学部	教授	富田 耕史	
農学部	教授	林 義明	
薬学部	准教授	黒羽子 孝太	
都市情報学部	教授	張 昇平	
人間学部	助教	高橋 香苗	
外国語学部	教授	鈴木 裕輔	
情報工学部	教授	田中 敏光	
学務センター	事務部長	中内 達郎	
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹	

### 【FD・SD 専門委員会（14名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	村本 裕二	座長
学務センター・薬学部	センター長・教授	大津 史子	
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	田代 樹彦	
経済学部	教授	名和 洋人	
理工学部	准教授	村上 祐一	
農学部	教授	山口 秀明	
都市情報学部	教授	杉浦 真一郎	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	教授	豊田 周子	
情報工学部	教授	鈴木 秀和	
総合学術研究科	准教授	香村 恵介	
教職センター	教授	木村 美奈子	
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹	

# 令和7年度 大学教育開発センター委員会活動記録

[第1回 令和7年4月3日(木)]

## 【はじめに】

1. 大学教育開発センター委員会について
  - (1) 令和7年度委員について
  - (2) 令和7年度開催日程について
  - (3) 令和7年度委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)

## 【確認事項】

1. 議事要旨(案) 令和6年度 大学教育開発センター委員会(第11回)

## 【審議事項】

1. 令和7年度副委員長の選出について
2. 令和7年度委員会活動について
  - (1) 令和7年度 MS-26戦略プラン及び事業計画(大学教育開発センター)について
  - (2) 令和7年度専門委員会の設置について
3. 院高度化費について
  - (1) 令和7年度院高度化費の使途及び予算配分額について
  - (2) 令和7年度大学院生研究助成(A)・(B)の募集要項、申請書等について
  - (3) 令和7年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査方法・項目について
  - (4) 令和7年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当及び審査スケジュールについて
  - (5) 令和7年度大学院生のプレFD企画参加支援について

## 【報告事項】

1. 令和7年度 学習サポートルーム相談員 一次募集結果について

[第2回 令和7年5月1日(木)]

## 【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第1回)

## 【審議事項】

1. 令和7年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当について
2. 令和7年度FD・SD活動の刊行物の発刊について
3. 令和7年度名城大学教育年報(教育実践報告)募集要項について
4. 令和7年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動の実施について
5. 令和7年度FD・SDフォーラム/FD・SD学習会/新任教員FD・SD研修の年間予定について
6. 令和7年度前期科目別学修振り返りアンケートについて
7. GPS-Academic 受検者向けのオンデマンド解説動画について

**【報告事項】**

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
2. 令和7年度 学習サポートルーム相談員（二次募集）結果について
3. 令和7年度「スタディサプリ」の申し込み結果および後期募集について

[第3回 令和7年6月5日（木）]

**【確認事項】**

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第2回）

**【審議事項】**

1. 令和7年度院高度化費の用途及び予算配分額について
2. 令和7年度大学院生研究助成の採択者決定等について

**【報告事項】**

1. 令和7年度「大学院生プレFD企画参加助成」募集要項について
2. 令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションの報告について
3. 令和7年度入学者向け MEC プログラム最終報告
4. 入学前自校教育の報告について
5. レポートの書き方講座

[第4回 令和7年7月3日（木）]

**【確認事項】**

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第3回）

**【審議事項】**

1. オープンバッジの発行について

**【報告事項】**

1. 各学部・研究科におけるFD・SD活動報告（中間）の作成について
2. 令和7年度前期科目別学修振り返りアンケートの実施について
3. 第21回FD・SD学習会の実施について

[第5回 令和7年9月4日（木）]

**【確認事項】**

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第4回）

**【審議事項】**

1. 令和8年度入学者向け入学前オリエンテーションについて

**【報告事項】**

1. 令和8年度入学者向け MEC プログラムについて
2. 令和7年度後期学習サポートルームの実施について
3. 第21回FD・SD学習会の開催について

[第6回 令和7年10月2日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第5回)

**【審議事項】**

1. 令和7年度後期オープンバッジの発行について
2. 科目別学修振り返りアンケート(授業改善アンケート)結果データの利用願いについて

**【報告事項】**

1. 令和8年度入学者向け入学前自校教育の実施について
2. 令和7年度教育功労賞の募集について
3. 令和8年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望調査について
4. 令和7年度後期科目別学修振り返りアンケートの実施について

[第7回 令和7年11月5日(水)～11月11日(火)メール審議]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第6回)

**【報告事項】**

1. 令和7年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告書の作成について
2. 令和8年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望聴取結果について
3. 令和7年度前期科目別学修振り返りアンケートの結果報告について
4. 令和7年度新任教員FD・SD研修の実施報告について
5. 第21回FD・SD学習会の実施報告について

[第8回 令和7年12月4日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第7回)

**【審議事項】**

1. 第27回FD・SDフォーラムの実施について
2. 令和8年度MS-26戦略プラン/事業計画書について

**【報告事項】**

1. 令和7年度後期科目別学修振り返りアンケートについて
2. 令和7年度教育年報の投稿結果・原稿確認依頼及び今後のスケジュールについて
3. 令和8年度入学者向け入学前オリエンテーション・附属高校入学前指導について

[第9回 令和8年1月6日(火)～1月9日(金)メール審議]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第8回)

**【報告事項】**

1. 令和8年度出前講義テーマの登録及び確認について

[第10回 令和8年3月5日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第9回)

**【審議事項】**

1. 令和7年度後期オープンバッジの発行について
2. 令和8年度名城サプリメント教育および学習サポートルームの実施について
3. 令和8年度学習サポートルーム相談員募集について
4. 令和8年度新任教員向けFD・SD研修(学内教職員参加可)企画について
5. FD・SD NEWS(vol.20)の発刊について
6. 科目別学修振り返りアンケート結果データの利用願いについて

**【報告事項】**

1. 令和7年度後期学習サポートルームの実績報告について
2. 令和7年度後期名城サプリメント教育の実績報告および次年度の講座の確認について
3. 令和8年度入学者向けMECプログラムの申込状況について
4. 大学教育開発センター刊行物の編集状況について
  - (1) 名城大学教育年報
  - (2) FD・SD活動報告書
5. 令和8年度学修成果の可視化に係る外部調査の予算査定結果および今後の流れについて
6. 第27回FD・SDフォーラムの実績報告について
7. 令和7年度自己点検・評価報告書(兼事業報告書)について

**3. 令和7年度  
大学教育開発センターにおける  
FD・SD 活動報告**



# 令和7年度 大学教育開発センター FD・SD 活動

## 1. 第27回 FD・SD フォーラム

日 時：令和8年1月8日（木）10：00～12：30

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テ ー マ：コンピテンシーを育成するアクティブラーニング

基調講演テーマ：愛媛大学における「愛大学生コンピテンシー」の策定と実質化

基調講演講師：中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授）

事例報告テーマ：お茶大コンピテンシー10に基づくアクティブラーニングの実践

事例報告講師：押尾 恵吾 氏（お茶の水女子大学 総合知開発研究機構 コンピテンシー育成  
開発研究所 特任助教）

参加者数：114人

## 2. 第21回 FD・SD 学習会

日 時：令和7年9月9日（火）13：10～14：30

会 場：共通講義棟東 E304講義室

テ ー マ：学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性

講 師：田中 正弘 氏（筑波大学 准教授）

参加者数：48人

## 3. 新任教員 FD・SD 研修

日 時：令和7年4月中旬～9月12日（金）まで

プログラム名：全国私立大学FD連携フォーラム「実践的FDプログラム」【オンデマンド】

対象講義：「FD」区分の中から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上を受講

受講者数：37人（新任教員29人、学内教職員8人）

## 4. 令和7年度前・後期科目別学修振り返りアンケート

実施期間：前期…令和7年7月1日～令和7年7月22日

後期…令和7年12月8日～令和8年1月8日

対象科目：原則全科目にて実施（オムニバス・体育・実験・演習を含む）

※対象外科目

総履修者10名未満の科目、講義期間「集中」の科目、卒業研究に相当する科目（個別指導を行うゼミナールを含む）

実施科目数：前期2,136科目（学生回答数：延べ68,845件）

後期2,209科目（学生回答数：延べ48,848件）

概 要：学生自身が学びの成果を確認し、自己省察を行う機会にすること、また教員が学生の学修成果を把握し、授業改善に役立てることを目的に WebClass（薬学部開講科

目は履修系統図ポートフォリオ)で実施。集計結果は学生・教員双方にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

## 5. 名城大学 FD・SD NEWS

(Vol.20) 発刊日：令和8年3月

内 容：認証評価制度の見直しについて

## 6. 名城大学教育年報 第20号発刊

発刊日：令和8年3月

投稿資格：名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概 要：本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を募集した。投稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェックを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。

投稿件数：7件

## 7. 令和7年度 FD・SD 活動報告書発刊

発刊日：令和8年3月

概 要：令和7年度の本学におけるFD・SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ上に掲載する。

## 8. 教育功労賞表彰

概 要：教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に授与するもの。大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

### 【令和7年度教育功労賞受賞一覧】

#### 1. 教育功労賞受賞者

該当者なし

#### 2. 特別教育功労賞受賞者

該当者なし



## 名城大学 第27回 FD・SD フォーラム

テーマ：コンピテンシーを育成するアクティブラーニング

日時：2026年1月8日(木) 10:00~12:30

開催方法：ZOOM ウェビナー

### 【企画概要】

名城大学は2026年に開学100周年を迎えます。この節目を契機に、次の10年を見据えた長期的な戦略プラン「MS(Meijo Strategy)36」を現在策定しています。本プランでは、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを掲げ、多様な課題に対応できる人材の育成を目指しています。

本学が「創造型実学」において目指すのは、学生が「物事を中心に立ち、課題解決に必要な知識・技術・アイデアを集め、具現化する力」を身につけることです。この理念を教育として実現するには、学生が身につけるべき具体的な能力を明確にし、カリキュラムに組み込み、実際の授業で育成する必要があります。このような取り組みにおいて、近年多くの大学で導入が進むコンピテンシー育成の実践が参考になると考えられます。そのため、本フォーラムでは、他大学におけるコンピテンシーを育成する教育の制度設計と授業実践の事例から、本学における「創造型実学」の具体化に向けたヒントを得たいと考えています。



### 基調講演

「愛媛大学における『愛大学生コンピテンシー』の策定と実質化」

中井 俊樹 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授)



### 事例報告

「お茶大コンピテンシー10に基づくアクティブラーニングの実践」

押尾 恵吾 氏

(お茶の水女子大学 総合知開発研究機構 コンピテンシー育成開発研究所 特任助教)

### 【申込方法】 (定員：300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

※他大学の教職員の方もお申し込みいただけます。

[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_JhyKEOPBRJOS4to1yCbGug](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_JhyKEOPBRJOS4to1yCbGug)



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2033 (内線 : 2659)

**MEIJO**<sup>th</sup>  
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

# 第27回 FD・SD フォーラム 実施報告

## 「コンピテンシーを育成するアクティブラーニング」

### 1. 実施概要

- ・日 時：2026年1月8日（木）10：00～12：30
- ・開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- ・基調講演テーマ：愛媛大学における「愛大学生コンピテンシー」の策定と実質化
- ・基調講演講師：中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授）
- ・事例報告テーマ：お茶大コンピテンシー10に基づくアクティブラーニングの実践
- ・事例報告講師：押尾 恵吾 氏（お茶の水女子大学 総合知開発研究機構 コンピテンシー育成開発研究所 特任助教）
- ・参加者数：114人  
（本学専任教員等77人、本学事務職員等23人、他大学教員9人、他大学職員4人、その他1人）

本学専任教員等 所属・職位別参加率

	教授	准教授	助教	助手	特任講師	特任助教	特任助手	計
法 学 部	17.2%	20.0%	50.0%	－	－	－	0%	18.8%
経 営 学 部	0%	0%	0%	－	－	－	－	0%
経 済 学 部	26.7%	0%	0%	－	－	－	－	14.8%
理 工 学 部	11.5%	5.8%	12.5%	－	0%	－	0%	9.4%
農 学 部	4.3%	7.7%	0%	－	－	－	0%	4.0%
薬 学 部	42.9%	34.8%	44.4%	0%	－	0%	0%	34.3%
都 市 情 報 学 部	19.0%	0%	0%	－	－	－	－	14.8%
人 間 学 部	25.0%	33.3%	33.3%	－	－	－	－	27.3%
外 国 語 学 部	35.7%	16.7%	－	0%	－	－	－	23.1%
情 報 工 学 部	7.7%	0%	0%	－	－	－	－	4.5%
教 職 セ ン タ ー	83.3%	100.0%	0%	－	－	－	－	75.0%
理 工 学 研 究 科	0%	－	－	－	－	－	－	0%
イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー	－	－	－	－	0%	－	－	0%
総 計	18.3%	12.9%	17.9%	0%	0%	0%	0%	15.7%

### 2. アンケート方法等

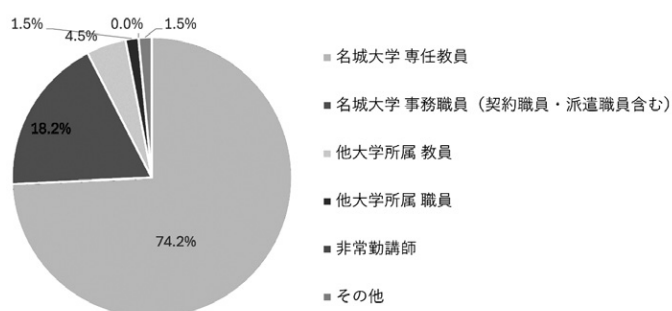
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
  - ①所属を選択してください。
  - ②自分の業務に活かせる知識やスキルを身につけることができた。
  - ③本フォーラムで得た知識やスキルは自組織の改善に役立つと思う。

- ④本フォーラムを通じて、自身の業務に対する意識や考え方に変化があった。
- ⑤本フォーラムを踏まえて、自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思う。
- ⑥（⑤の設問において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方のみ回答）  
どのように行動を変えていこうと考えていますか。具体的にお書きください。
- ⑦研修内容は満足できるものだった。

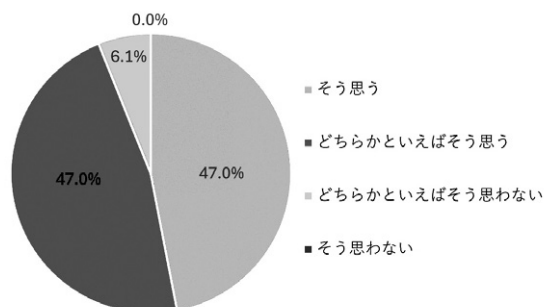
・回答者人数：66人（本学専任教員等49人、本学事務職員等12人、他大学教員4人、その他1人）  
 ・質問⑥については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

### 3. アンケート結果

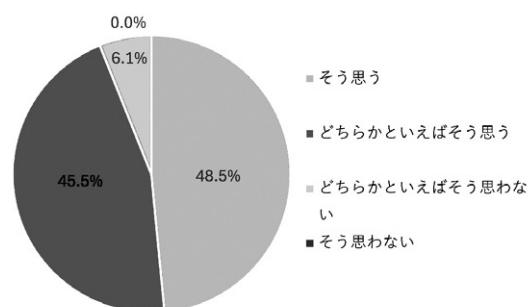
①所属を選択してください。



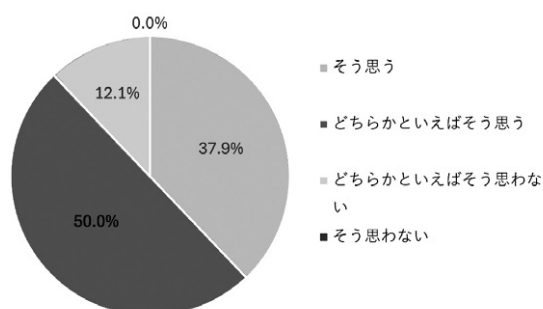
②自分の業務に活かせる知識やスキルを身につけることができた。



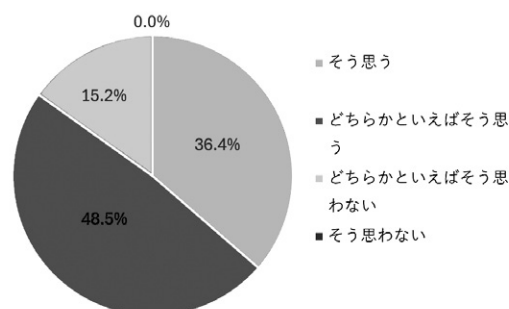
③本フォーラムで得た知識やスキルは自組織の改善に役立つと思う。



④本フォーラムを通じて、自身の業務に対する意識や考え方に変化があった。



⑤本フォーラムを踏まえて、自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思う。

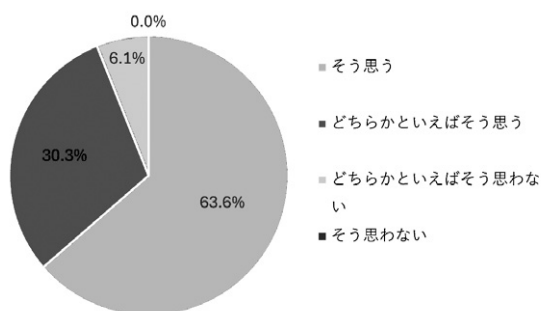


⑥ (⑤の設問において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方のみ回答)

どのように行動を変えていこうと考えていますか。具体的にお書きください。

- ・コンピテンシーの育成を重視した教育への転換の必要性を教職員の皆様に理解いただくため、粘り強く対話を続けたい。
- ・来年度の授業において、コンピテンシーを意識した具体的な課題を考えるとともに、実践できるように準備に取りかかりたい。
- ・教育活動とコンピテンシーの関係を踏まえ、学生の強みと弱みを見極めたい。
- ・授業の組み立て方に関して、もっと情報を集めようと思う。
- ・文系学部に比べて、理系学部ではなかなか実践が難しいと思いながらも、学科として何か機会を設けられるようにしたい。
- ・特に1、2年生の授業において、当該授業でどのような「コンピテンシー」を養成しようとしているのかを具体的に示そうと思う。また、学生の自己評価も含め、シラバスを考えたい。
- ・身に付けて欲しい行動特性を学生に説明してみたい。
- ・コンピテンシー育成の重要性は感じるため、全学あるいは学部における講義の位置づけを認識し、必要に応じて行動を変えていこうと思う。
- ・得た知識を使いこなすためのアクティブラーニングの導入について考えたい。
- ・すでに自分の授業でアクティブラーニングは実施しているが、さらに思考力や表現力を高めるようなアクティブラーニングに改善していきたい。
- ・学生が自分の成長を可視化できるようにという視点に立つと、フィードバックの質とタイミングを見直す必要があるように感じた。できるだけ即時フィードバックに近づけ、学生の気づきを促すような授業設計をさらに検討したいと思った。
- ・アクティブラーニングの目的を、きちんと学生にも伝えたい。
- ・自分の授業の中で、アクティブ・ラーニングを通じたコンピテンシー育成のプロセスを実践しようと思う。
- ・シラバス構築時に活用したい。
- ・コンピテンシーを構成する個々の能力のうち、自身の担当科目で鍛えられそうなものは、授業内での問いや課題・テスト等を工夫することで伸ばせるようにしたい。

⑦研修内容は満足できるものだった。



# 当日配布資料



1

## 愛媛大学における「愛大学生コンピテンシー」の策定と実質化

2026.01.08  
中井俊樹

2

## 講師紹介

- 三重県松阪市出身
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室教授
- 大学教育論、人材開発論
- 教職員能力開発拠点代表者、SPOD企画・実施統括者
- 日本高等教育開発協会会長、大学教育学会理事、日本高等教育学会理事、日本看護学教育学会評議員を経験



3

## 近年の担当業務

- 中期計画の策定、実施促進、評価
- 愛大学生コンピテンシーの修正
- 愛大トランスファラブルスキルの策定
- アセスメントプランの策定支援
- 全学共通科目の改革
- 大学院全学共通科目の導入
- 新規科目群の企画と導入
- アカデミック・アドバイジングの体制の構築
- 各種アンケートの企画、実施、評価、報告
- 教育改革を推進する学内公募事業の企画と運営
- 認証評価への対応
- 教育関係共同利用拠点(教職員能力開発拠点)の申請と再認定
- FD・SDの実施
- 学内内部局のカリキュラム改革の支援
- 他大学等のカリキュラム改革の支援

4



5

## 話題提供の目的

- 全学的なコンピテンシーを策定すると大学教育にどのような影響を与えるのでしょうか。本話題提供では、愛媛大学の愛大学生コンピテンシーの事例をもとに、全学的なコンピテンシーの策定と実質化の方法と課題について考える機会を提供したい。

6

## 本日の構成

- 大学教育とコンピテンシー育成
- 愛大学生コンピテンシーの策定と実質化
- まとめと示唆

7

### 大学教育政策における大きな流れ1

- 学位プログラム化
  - ・「学士課程教育を各教員の属人的な取組から大学が組織的に提供する体系立ったものへと進化させ、学生の能力をどう伸ばすかという学生本位の視点に立った学士課程教育へと質的な転換を図るためには、教員中心の授業科目の編成から学位プログラム中心の授業科目の編成への転換が必要である」(中央教育審議会 2012)
- 個別政策
  - ・シラバス、3つのポリシーの設定と公表、アセスメントプラン、単位の実質化、ナンバリング、履修系統図、CAP制、学修ポートフォリオ、学修行動調査、学習成果の把握と可視化、ディプロマサブリメント、学部等連係課程制度

8

### 大学教育政策における大きな流れ2

- 専門分野の知識習得だけでなく、社会で活躍できる幅広い能力の獲得も
- コンピテンシー、学士力、非認知能力、汎用的能力、トランスファラブルスキル
- 参考
  - ・キー・コンピテンシーは、OECDが1999年～2002にかけて行った「能力の定義と選択」(DeSeCo)プロジェクトの成果で、多数の加盟国が参加して国際的合意を得た新たな能力概念。PISA調査の概念枠組みの基本。単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力

9

### AIが考えるコンピテンシーを備えた人

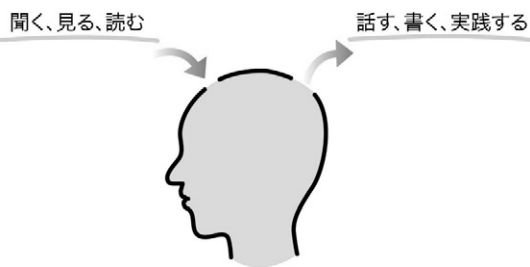
- ネルソン・マンデラ
    - ・対立調整力/倫理性/レジリエンス
    - ・極度の対立状況で対話を成立させ、長期的視点で社会変革を実現
  - スティーブ・ジョブズ
    - ・ビジョン形成/創造性/コミュニケーション
    - ・技術と人文の統合で新市場を創出
  - 宮崎駿
    - ・構想力/価値表現/チーム牽引
    - ・独自の世界観を組織的制作へ落とし込む力
- (ChatGPT5.2)

10

### 教育目標と教育方法の対応



11



12

### 説明、発問、指示

- 教員の3つの言葉
  - ・説明、発問、指示
- 発問
  - ・教員が学習者に対して教育的な意図をもって問う伝統的な教育技法
- 自分なりの答えを見つけていく領域の教育では引き出すことが大切
  - ・「同じような失敗をしないためには次からは何をすべきですか」
  - ・「将来どのような技術者になりたいですか」

13

### アクティブラーニングの構造

- 【説明】「約10年後に東京と名古屋の間にリニア中央新幹線が開業する予定です。」
- 【発問】「リニア中央新幹線ができることで、名古屋市企業の企業や市民にどのような影響を与えるでしょうか？」
- 【指示】「あなたの考える影響をノートに書きましよう」
- 【指示】「ノートに書いたら隣の人と話してみましよう」
- 【指示】「隣の人と話した結果をクラス全体に紹介してください」

14

### 学習形態の3類型

- 一斉学習
  - ・クラス全体で同じことを学習
  - ・例) 講義
- 協同学習
  - ・グループで学習
  - ・例) 少人数ディスカッション
- 個別学習
  - ・ひとりひとりで学習
  - ・例) 自習、卒業研究

15

### 学習目標に適した技法

	知識	理解	応用	分析	統合	評価
講義	○					
双方向型の授業	○	○				
ディスカッション		○				
書く、話す		○	○	○	○	○
各種評価技法		○	○	○		○
協同学習		○				
ピア評価		○		○		○
実験		○	○			
ケースメソッド			○	○	○	○
探究型学習	○		○	○	○	○
問題基盤型学習	○		○	○	○	○
プロジェクト学習	○	○	○	○	○	○
ロールプレイ、シミュレーション		○	○	○		○
サービスマーケティング			○	○	○	○
フィールドワーク	○		○	○	○	○

中井編(2015)

16

### 期待される学習の変化と評価

- 専門分野の知識だけでなく、社会で活躍するための幅広い能力も
  - 講義法だけでなく、アクティブラーニングも
- ↓
- 筆記テストとレポートだけで評価できるか
  - さまざまな評価方法も取り入れる

17

### 学習目標にあった評価方法

	認知領域		精神運動領域	情意領域	
	知識・理解	思考・判断	技能	関心・意欲	態度
筆記試験	◎	○			
論述課題	○	◎			
レポート課題	○	◎	○	○	◎
観察法	○	○	◎	◎	○
口述試験	◎	◎		◎	○
実技・実演		○	◎	○	○
ポートフォリオ			○	○	○
自己評価				◎	○

中島編(2018)

18

### プレゼンテーション

	すぐれている	十分である	改善が必要である
内容	内容を十分に理解しており、すべての質問に的確に答え、さらに詳しく説明できる。	内容の要点を理解しており、質問に対して答えることができる。	内容を十分に理解しておらず、質問に的確に答えることができない。
構成	わかりやすい順序で論理的に構成されており、聞き手が明確に内容を理解できる。	論理的に構成されており、聞き手が内容の要点を理解できる。	論理的に構成されていないため、聞き手が誤解する可能性がある。
図表等の活用	発表内容の説明に役立つ図表等を効果的に使用している。	発表内容と関連した図表等を使用している。	図表等を効果的に活用していない。
話し方	明瞭で的確な話し方であり、適切にアイコンタクトをとるなど、聞き手の関心を引きつけている。	明瞭な話し方であり、アイコンタクトを取り入れるなど工夫している。	不明瞭な話し方であり、アイコンタクトも取り入れていない。

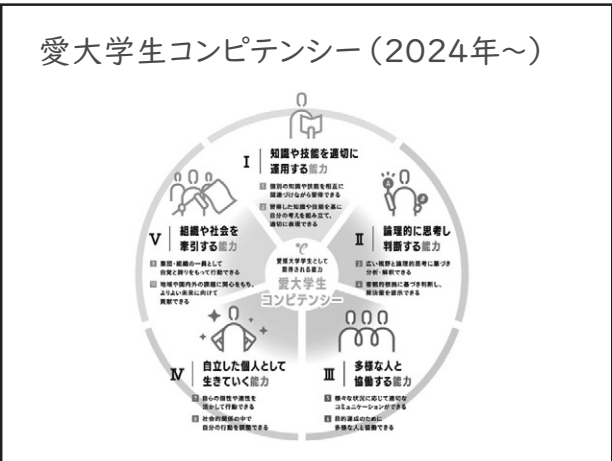
中井編(2015)

本日の構成

- 大学教育とコンピテンシー育成
- 愛大学生コンピテンシーの策定と実質化
- まとめと示唆

愛大学生コンピテンシー

- 愛媛大学のすべての学生が卒業時に身につけていることを期待する能力を整理したもの
- 愛媛大学の教育の重要な全学的指針
- 5つの能力と12の具体的な力から構成
- 2度の改訂
  - 2012年策定
  - 2018年改訂
  - 2024年改訂



**I 知識や技能を適切に運用する能力**

- 1 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる**  
授業などを通じて得た知識や技能を相互に関連づけて、状況に応じて使いこなせるようにすることが求められます。実験や実習、調査や観察、文献調査などを単に断片的に行うだけでは、本当の意味で知識や技能を獲得したことにはなりません。学んだことを自分の中で相互に関連づけ、可能な限り体系化することによって初めて、それらを習得したと言えます。
- 2 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現できる**  
習得した知識や技能が本当の意味で自分のものとなったと言えるのは、それを自分の中できらんと体系化し、適切に表現できるようになった時です。わかってはいるけれども表現できないのでは、本当の意味でわかったとは言えません。自分の得た知識を基に、論理的な筋道を立てて、相手が理解しやすい適切な方法で表現する力が求められます。この力を身につけることで、自分の学習の成果が統合されたと言えます。

**II 論理的に思考し判断する能力**

- 3 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる**  
例：クリティカル・シンキング／創造的思考  
様々な情報を収集・整理し、それを相互に関連づけ、広い視野から論理的に考えて、対象を分析・解釈します。この力は知識や技能の運用と一体化して働くものです。例えばクリティカル・シンキングとは、既存の学問的知識の体系や枠組みも考慮しながら、客観的根拠に基づいて対象を多面的に考察し、論理的に思考することです。こうした力を身につけることによって、他者を納得させることができるようになります。
- 4 客観的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる**  
例：意思決定・判断力／課題発見・解決力  
学問研究においてはもちろんのこと、社会生活においても、私たちは常に意思決定を求められ、判断力を発揮しなければなりません。そして、自立した個人として生きるためには、意思決定の根拠をきちんと認識し、客観的に正当なものであることを示すことが求められます。そのためには、自分の置かれている状況を正しく認識し、そこにある課題を見つけ出し、その課題を解決する方策を考え出す力が不可欠です。

**III 多様な人と協働する能力**

- 5 様々な状況に応じて適切なコミュニケーションができる**  
例：傾聴／対話／ディスカッション／プレゼンテーション  
現代社会において、様々な背景を持った人々が、チームを組んで課題に取り組むことは日常化・一般化してきています。そうした状況に柔軟に対応するためにも、正確な日本語運用能力や外国語運用能力、ビジネス・マナーといった技能のコミュニケーション・スキルの獲得のみならず、相手の意図を適切に汲み取りながら自分の考えも効果的に伝えていく力が求められています。
- 6 目的達成のために多様な人と協働できる**  
例：協調性／多様性の尊重／ホスピタリティ  
大きな目的を達成するためには、多くの人と互いに協力し合って、協調していく必要があります。実際に多様なメンバーでチームを編成し様々な活動を行うなかで、それぞれがもつ個人の多様性に基づき、それを受容し、理解するという経験を数多く重ねることが必要です。協働のためには、他者の幸せのために行動できる「お接待」の心と実践力を身につけることが求められます。

## IV | 自立した個人として生きていく能力

**7** 自らの個性や適性を活かして行動できる

例：自己理解／自己決断／自己啓蒙／生涯学び続ける姿勢

個々人が自己を表現するためには、社会的状況の中で、自分自身の個性や適性を十分に理解し、それを踏まえて決断することが大切です。そのため重要な営みが振り返りです。自身の経験や学んだことを振り返ることで、深い自己理解が促され、そこを核としながら主体的に行動していくことが可能になります。また、振り返りは継続的にを行い、生涯にわたって学び続ける姿勢を身につけることが期待されます。

**8** 社会的関係の中で自分の行動を調整できる

例：規範遵守／セルフマネジメント／レジリエンス

人は社会的存在であり、社会（他者）との関係の中で自分の能力を最大限に発揮していかなければなりません。社会には様々なルールや制約があり、自分が所属する組織や集団においても同様です。限られた資源や制約の中で、所属組織のルールを遵守・順応し、自分の行動を調整していくことが求められます。また、困難な状況に適切に対処できる方も予測困難な社会においてより重要となっていきます。



## V | 組織や社会を牽引する能力

**9** 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

例：責任感／達成感／帰属意識／リーダーシップ

集団や組織は、構成員それぞれが責任と自覚を持って行動し、役割を果たすことによって初めて機能します。役割に基づき状況を把握し、他者との対話や協働を行いながら、課題を見極め、解決策を考へ、行動に移していきます。そのことによって、所属している集団や組織をよりよいものにしていくことができます。その結果として、自分が所属している社会や組織、そこに所属している自分自身に対して誇りを持てるようになります。

**10** 地域や国内外の課題に関心をもち、よりよい未来に向けて貢献できる

例：未来思考／国際性／社会貢献／アントレプレナーシップ

地域や国内外には様々な課題があります。まず大切なのは、そのような課題に関心をもち、自ら向き合う姿勢です。そして、よりよい未来に向けて、広い視野のもと、社会や環境について考え、自分なりにできる貢献を尽くすことが期待されます。未来の社会をつづいていく強い手の一人としての思考や行動が求められています。



### 愛大学生コンピテンシーの策定

- 愛媛大学の学生が目指すべき方向目標を示したものである(松本 2013)
- 5つの能力と12の具体的な力から構成
- 2012年7月の教育研究評議会において策定
- 大学全体として策定したのは先進的な事例

### 愛大学生コンピテンシー (策定時)



### 策定時の理念

- 正課教育だけでなく、各種教育プログラムや留学などの準正課教育、ボランティア活動やサークル活動などの正課外活動も含めた大学生活全体の活動によって身につくものとして設定
- 卒業時に達成が求められる到達目標とは区別して、方向目標という表現
- ブルームの教育目標分類学、学士力、社会人基礎力なども参考にされ作成

### 愛媛大学の中の位置づけの変化

- 制定後の愛大学生コンピテンシーは、愛媛大学の中における位置づけも変化
  - ・ 愛媛大学憲章との関連
  - ・ カリキュラムとの関連
  - ・ 中期目標・中期計画における活用
  - ・ 学生の習得度の把握
  - ・ 習得度の学外への公表

## 愛媛大学憲章との関連

- 2015年9月の教育研究評議会において愛媛大学憲章の改訂
- 愛媛大学憲章の文章の修正
  - ・「愛媛大学は、正課教育、準正課教育、正課外活動を通して、知識や技能を適切に運用する能力、論理的に思考し判断する能力、多様な人とコミュニケーションする能力、自立した個人として生きていく能力、組織や社会の一員として生きていく能力を育成する。」
- 愛大学生コンピテンシーの5つの能力が愛媛大学憲章において示された

## 愛媛大学憲章

愛媛大学は、自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする。とりわけ、国際化の加速する時代において地域に立脚する大学として、地域の発展を牽引する人材、グローバルな視野で社会に貢献する人材の輩出が主要な責務であると自覚する。愛媛大学は、相互に尊重しあう人間関係を基調として、「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」を創造することを基本理念とする。

### 教育

1. 愛媛大学は、正課教育、準正課教育、正課外活動を通して、知識や技能を適切に運用する能力、論理的に思考し判断する能力、多様な人とコミュニケーションする能力、自立した個人として生きていく能力、組織や社会の一員として生きていく能力を育成する。
2. 大学院においては、人間・社会・自然への深い洞察に基づく総合的判断力と専門分野の高度な学識・技能を育成する。
3. 愛媛大学は、国内外から多様な学生を受け入れるとともに、世界に通用する人材育成のための教育環境を提供する。
4. 愛媛大学は、入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができるよう学生を支援し、主体的な学びを保障する。

## カリキュラムとの関連

- シラバス登録
  - ・ 2016年度のカリキュラムから、シラバスを登録する際に担当授業が愛大学生コンピテンシーのどの力の習得につながるのかをチェックする項目の追加
- 共通教育
  - ・ 愛大学生コンピテンシーとの対応に加えて、愛媛大学が独自に定めた学士基礎力との対応が重視されていた。
  - ・ 2025年度から愛大学生コンピテンシーを共通教育の教育理念として位置づけた
  - ・ 必修科目である新入生セミナーや社会力入門では、授業の中で愛大学生コンピテンシーを紹介、学生が習得の状況を確認する機会

## 中期目標・中期計画における活用1

- 第3期中期目標・中期計画(2016年度から)
- 「愛媛大学の全学生に期待される能力「愛大学生コンピテンシー」を卒業・修了時まで習得させるため、教育環境の整備と学生支援体制の強化を図る。」
- 「愛大学生コンピテンシーの習得率を90%以上、企業の採用担当者等からの本学の卒業生に対する肯定的な評価を80%以上にする」
- 愛大学生コンピテンシーの習得を促すカリキュラム、授業、課外活動などの推進

## 中期目標・中期計画における活用2

- 第4期中期目標・中期計画(2022年度から)
- 「「愛大学生コンピテンシー」で示された汎用的能力と専門分野で身につけるべき能力を習得できる体制を強化し、志を持ち未来を切り拓くことができる自立した人材を輩出する。」
- 卒業予定者アンケートにおいて、ディプロマ・ポリシーに基づく学習成果を習得したと回答した学生の割合を第4期中期目標期間末までに、85%以上にするという評価指標
- この評価指標では、各学部などのディプロマ・ポリシーに基づく学習成果に加えて、愛大学生コンピテンシーの習得率が活用

## 学生の習得度の把握

- 2014年度の卒業予定者アンケートから愛大学生コンピテンシーの個々の力の習得度を収集
- 第3期の中期目標期間において、企業の採用担当者等による愛媛大学の卒業生の愛大学生コンピテンシーの習得率も収集
- 各学年の学生を対象とした学年末アンケートや卒業後3年経過した追跡調査アンケートにおいても、愛大学生コンピテンシーが示す力の習得度を収集
- 経年変化を確認することや、愛大学生コンピテンシーの習得度の高い学生にはどのような特徴があるのかといった分析が可能に

### 全学アセスメントプラン

No.	名称	時期・頻度	学年	主な調査項目、内容等	名称	実施責任部署	結果の活用方法
1	新入生アンケート	毎年4月	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援や初年次教育などカリキュラムの改善、自己点検・評価、情報公開に活用
2	学年末アンケート	毎年1-3月	全学年	学習行動、授業・カリキュラム満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業予定者アンケート	毎年1-3月	4年生	在学中の状況、実入学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	授業アンケート(共通教育)	毎年4回(各クォーター)	全学年	学習の状況、授業の満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構(共通教育センター)が共通教育センター会議に報告し、共通教育の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	成績不振学生の調査	毎年2回	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、休学者数)	修学支援システム	教育・学生支援機構/各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の充実、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
6	休退学調査	毎年1回	全学年	休学者数、退学者数	修学支援システム	教育・学生支援機構/各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の充実、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
7	学生モニター会議	コースに依りて	全学年(各クォーター)	学習行動、授業・カリキュラム満足度	インタビュー	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が各学部にて報告し、授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価に活用
8	学生代表者会議	毎年1回	全学年(各クォーター)	キャンパスライフ、カリキュラム満足度、大学への要望	学長上意見交換	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が学務課に報告し、学生へのフィードバックを検討
9	卒業者の進路状況	毎年1回	4年生	卒業者の進路(就職率、留内就職率、進学率)、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	卒業生調査	毎年1回	卒業後3年経過の卒業生	現在の就業状況、大学で身につけた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、卒業支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

### 習得度の学外への公表

- 大学の中期計画における評価指標となったため、「平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書」から愛大学生コンピテンシーの習得率を学外に公表
- 「愛媛大学の教育の内部質保証に係る基本方針」に基づき、教育・学生支援機構で実施している新入生アンケート、前学期末アンケート、後学期末アンケート、卒業予定者アンケート及び大学院修了予定者アンケートの集計結果を公表

### 卒業時の愛大学生コンピテンシーの習得率

知識や技能を適切に運用 **94%** 多様な人とコミュニケーション **94%** 論理的に思考し判断 **92%**

自立した個人として生きていく **92%** 組織や社会の一員として生きていく **87%**

社会の課題解決のための行動力を高める教育がより求められている

### 修了時の愛大トランスファラブルスキルの習得率

リーダーシップ **88%** コミュニケーション **95%** 問題解決 **97%**

キャリア形成 **89%** 倫理 **94%**

大学院生の専門性を社会で活かすための教育についても考えよう

### 愛大生の学習成果の公開

ホーム > 教育 > 愛大生の学習成果の公開

印刷する

本ページでは愛媛大学の学生による学習成果を公開しています。愛媛大学ではこれまでも、教育の方針、特色ある教育の取り組み、学生調査の結果などについて広く発信を続けてまいりました。その取り組みをより推進し愛媛大学の教育についてより広く知っていただくために、学生が実際に執筆した論文や発表を行った際の動画などの学習成果を公開することいたしました。ここに公開した学習成果は学生がどのような知識や能力を身につけたかを示し、愛媛大学の教育の成果について具体的にお伝えすることができると考えます。学習成果の公開は、本学の第4期中期計画の1つとしても位置づけられており、第4期中期目標期末(令和9年度末)までに150件の学習成果を公開することを目指しています。

### 第23回優良賞「スギナってなんでいっぱい生えてるの?〜スギナ栄養素の発芽・発根を制御する要因の解明〜」

動画 関連資料 (PDF:4,900KB) 関連リンク >

### 第22回優良賞「大学生が社会問題を解決!」

大学生が社会問題を解決! - 特徴4丁目交差点の渋滞解決 -

動画 関連資料 (PDF:2,724KB) 関連リンク >

### 大学院生の汎用的能力との整理

- 2022年に愛大トランスファラブルスキルの策定
- 大学院生が修了後に社会で活躍するための幅広い汎用的な能力として5つの能力から構成される
- 大学院教育においても幅広い能力の獲得の重要性を示すとともに、愛大学生コンピテンシーの大学院版として愛大トランスファラブルスキルが整理される

## 愛大トランスファラブルスキル

ホーム > 教員 > 愛大トランスファラブルスキル

印刷する

大学院の修了生が社会で活躍するためには、専門分野の知識とともに幅広い汎用的な能力が必要になります。そのような汎用的な能力は、トランスファラブルスキルと呼ばれます。愛媛大学では、大学院教育で育成する「愛大トランスファラブルスキル」を定めています。愛大トランスファラブルスキルは、リーダーシップ、コミュニケーション、問題解決、キャリア形成、倫理の5つの能力から構成されます。

愛媛大学のすべての修士課程および博士課程の研究科や学環は、愛大トランスファラブルスキルに対応する授業や研究指導などを明示し、大学院生が愛大トランスファラブルスキルを身につけられるカリキュラムを提供しています。また、在学中から修了に至るまでのその修得状況を学生ごとに客観的・多元的に可視化し、当該学生が確認することができるようにしています。

1. リーダーシップ 組織や社会の一員としてリーダーシップを発揮することができる
2. コミュニケーション 個々の多様性を尊重してコミュニケーションすることができる
3. 問題解決 専門性を活かして問題解決することができる
4. キャリア形成 専門性を活かして自分のキャリアを形成することができる
5. 倫理 専門性を有する者として倫理的な言動をとることができる

## 2018年度の改訂

- 学生により伝わりやすい表現に変更した改訂
  - ・ 学生アンケートの結果を踏まえた文章表現の修正の範囲
- 改訂のポイント
  - ・ 「科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる」→「客観的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる」
  - ・ 「地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる」→「地域や国内外の課題を多様な観点から考察し、解決に向けて主体的に参画できる」

## 2024年度の改訂

- 教育・学生支援機構内での議論、教育・学生支援機構と各学部との意見交換、部局長協議会、教育学生支援会議などの各種会議などで議論
- 2023年7月の教育研究評議会において改訂が承認され、2024年4月から適用

## 改訂の内容

- 5つの能力と12のカ→5つの能力と10のカ
- 「多様な人とコミュニケーションする能力」→「多様な人と協働する能力」
- 「組織や社会の一員として生きていく能力」→「組織や社会を牽引する能力」
- 「様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる」→「様々な状況に応じて適切なコミュニケーションができる」
- 「地域や国内外の課題を自ら考察し、解決に向けて行動できる」→「地域や国内外の課題に関心をもち、よりよい未来に向けて貢献できる」
- 「必要な情報を収集・整理できる」と「他者を理解し、他者のために役立つことができる」は削除
- 例示として、多様性の尊重、自己省察、生涯学び続ける姿勢、レジリエンス、未来思考、国際性、アントレプレナーシップといった新しい用語が追加

## 改訂における論点

- 社会の変化への対応
- 愛媛大学憲章との整合性
- カリキュラムとの整合性

## 社会の変化への対応

- 従来の愛大生コンピテンシーが社会の変化に十分に対応できていないのではないかという議論
- 社会が急激に変化し予測不可能な時代において、力強く生きていく卒業生像が求められていた
- 「組織や社会の一員として生きていく能力」→「組織や社会を牽引する能力」
- 策定の過程では賛成意見と反対意見が見られた
  - ・ 「組織や社会に対して積極的な姿勢をもつ表現を加えることが重要」
  - ・ 「社会は牽引する能力を持つ人だけでは成り立たない」

49

### 愛媛大学憲章との整合性

- 愛大学生コンピテンシーの5つの能力の改訂への否定的な意見
  - ・「愛媛大学憲章は大学の教育研究に関する理念や目標、目指すべき方向性などを定めたものであり愛大学生コンピテンシーはそれにそって構成されるべきだ」
- 改訂への肯定的な意見
  - ・「愛媛大学憲章に示された育成する能力を踏まえてより高い水準の能力を設定しているので一定の整合性はとれているので改訂する方がよい」

50

### カリキュラムとの整合性

- 「新しい愛大学生コンピテンシーで定めた能力に対応する授業科目が設定されていないのではないか」
  - ・ 目標が先か、カリキュラムが先か？
- 愛大学生コンピテンシーの改訂の検討と同時期に共通教育に未来思考支援科目群を導入する検討も
- カリキュラムに導入する未来思考支援科目群を念頭に入れて新しい愛大学生コンピテンシーを定めることができた側面
- 共通教育カリキュラムにおいて学士基礎力が廃止され、愛大学生コンピテンシーが重要な教育理念として位置づけた

51

### 改訂の意義と残された課題

- 全学的に検討して社会の変化に対応した愛大学生コンピテンシーに改訂することができた点は一定の評価ができる
- 一方で、改訂の過程ではさまざまな意見が出されており、いくつかの課題も残されている

52

### 愛媛大学憲章との関係

- 社会の変化が激しい中では、卒業生に身につけるべき能力は今後も変化していく
- 愛媛大学は愛媛大学憲章で学生が身につける具体的な能力を示しているという特徴をもっている
- 愛媛大学憲章という大学の理念を記す文章に具体的な能力を示したことで、大学の内外に愛媛大学の教育の方向性を浸透させた効果は大きかった
- 一方、大学の理念を記す文章に具体的な能力が記されていることによって、愛大学生コンピテンシーの改訂案を検討する上で制約条件になった点も否定できない
- 大学における憲章は簡単に変更するべきものではないが、今後の社会の変化に柔軟に対応していくためには、愛媛大学憲章の表現の方法を修正することも検討できる

53

### 方向目標か到達目標か

- 2012年の策定時の教育研究評議会資料
  - ・ 愛大学生コンピテンシーはその習得度を測定することはできるが、評価の対象外と位置づけられた
  - ・ 正課教育だけでなく、準正課教育、正課外活動も含めた大学生活全体の活動によって身につくという考え方をとっており、学生に参加を義務づけられない準正課教育や正課外活動の効果を大学として保証することは難しい
- 正課教育であるカリキュラムとの整合性も高まり、学生の習得度の結果も蓄積
  - ・ 方向目標から到達目標への変更や習得度を評価するルーブリックの作成なども今後検討できる

54

### 本日の構成

- 大学教育とコンピテンシー育成
- 愛大学生コンピテンシーの策定と実質化
- まとめと示唆

### まとめ

- 専門分野の知識習得だけでなく、社会で活躍できる幅広い能力の獲得も重視するなら、大学として身につけるコンピテンシーを定め、カリキュラムや教育方法や評価方法まで全学的に展開させることができる
- 愛媛大学の愛大学生コンピテンシーは、すべての学生が卒業時に身につけていることを期待する能力であり、愛媛大学の教育の重要な全学的指針となり、その実質化を進めてきた。また、さまざまな全学的な議論を通し2度の改訂を通して環境の変化に対応してきた。

### いくつかの論点1

- 大学が卒業生に期待する専門分野の知識と幅広い能力のバランス
  - 2つは対立関係なのか相互補完関係なのか
  - コンピテンシーは専門知識を生きた力に変える媒介という解釈もできる
  - 名城大学の掲げる「実行力ある教養人」「創造型実学」の具体化としてどのように取り入れることができるのか

### いくつかの論点2

- 全学的な教育目標への反映方法
  - 大学全体としての一体感が必要か
  - 全学DPIに加えるかどうか、学部DPIに反映するか、学生には全学DPと学部DPの両方の習得を求めるか
- カリキュラムや授業へ反映する方法
  - カリキュラムマップで対応させるか、追加すべき授業科目があるか、授業科目の目標とどう紐づけるか、シラバス点検を実施するか
- 習得度の評価
  - アンケート(できると思う)だけでよいか、直接評価(できている)が必要か、第三者の評価は必要か

### 参考文献

- 愛媛大学教育・学生支援機構(2024)「令和5年度 愛媛大学卒業予定者アンケート調査報告書」
- 中央教育審議会(2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』文部科学省。
- 中井俊樹(2025)「愛大学生コンピテンシーの改訂—プロセスと論点」『大学教育実践ジャーナル』第24号、pp.1-9。
- 中井俊樹編(2015)『アクティブラーニング』玉川大学出版部。
- 中井俊樹編(2022)『シリーズ大学教育の質保証I カリキュラムの編成』、玉川大学出版部
- 野本ひさ、平尾智隆、花田真吾、岡晴子、埴康介(2015)「どのような体験が愛大学生コンピテンシーを獲得させるのか？」
- 一キャリア・ポートフォリオのテキストマイニング分析」『大学教育実践ジャーナル』第13号、pp.1-7
- 松本長彦(2013)「『愛媛大学学生として期待される能力—愛大学生コンピテンシー—を解説する(試論)』」『大学教育実践ジャーナル』第11号、pp.1-10
- 村田晋也、小林直人(2015)「正課教育、準正課教育、正課外活動—『愛大学生コンピテンシー』の育成のために」『大学時報』第64巻、pp.42-47

1

2026年1月8日  
名城大学 第27回FDSD フォーラム



## お茶大コンピテンシー10に基づく アクティブラーニングの実践

お茶の水女子大学  
押尾 恵吾  
(oshio.keigo@ocha.ac.jp)

2

### 自己紹介

押尾 恵吾

- ・専門：心理学

認知：芸術創造  
教育：学習方法、やる気、成績向上  
発達：社会性（協調性、思いやり）

3

### まとめ

- ・お茶大の実践
  - DP⇔学部⇔学科との細かい連携（政治！）が必須
  - 多くの準備が必要  
ex. 測定、評価、シラバス、教員、学生...
  - キャリア支援と整合性が高い（学生も動機づけが高まりやすい）
  - コンピテンシー自体がかなり柔軟な概念なのでカスタマイズ必須

4

## 【1】 コンピテンシー（資質・能力）とは？

5

### Competencyとは何か？

戦略的に勝つ      創り出す  
仲間を作る      現状を打破する

6

### Competencyとは何か？

戦略的に勝つ      創り出す  
仲間を作る      現状を打破する

**Competency (= 資質・能力)  
と呼ばれています**

7

Competencyとは何か？

スーパー能力を持つメンバーによる  
ドリームグループ

A大学 B大学 C大学 企業D

スーパー能力を持つメンバーによる  
ドリームグループ

8

お茶大コンピテンシー10

「課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして、  
社会の場で成果をあげる包括的能力とその行動特性」

QO：コンピテンシーって何？

新たな価値を	対立やジレンマに	責任ある行動を
論理的に考える	試行錯誤	振り返り・改善案
新しい価値を生み出す	思いやる	困難を乗り越える
他者と協力する	他者と上手くやる	経験から自信を持つ
		社会貢献

9

cf. Competencyと就活

エースメンバーによる  
グループ

A大学 B大学 C大学 企業D

うちの大学で  
育成したい能力

基本バラバラ  
※ 被りも多い

うちの企業で  
欲しい人材は

10

cf. Competencyと就活

就活とは

企業D

論理的に考える

他者と協力する

新しい価値を生み出す

エピソードトーク  
どんな場面で  
どうやって  
身につけたのか

うちの企業で  
欲しい人材は

な？ あなたの会社で使えそうでしょ？

11

【2】  
お茶大における  
コンピテンシーの位置づけ

12

DPにおける位置づけ

学士課程ディプロマ・ポリシー | お茶の水女子大学

2023年7月19日更新

1. 教育目標 教育目標：コンピテンシー育成

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場である」という使命のもとに、世界の人々と協働し、生涯にわたりより良い未来の創造に向けた変革を起こすグローバル女性リーダー、すなわち「教養知」と「専門知」に「実践知」を結びつけるコンピテンシーを育み、それらを実践する「総合知」によって社会を革新する人材を養成する。この教育目標のもと、各学部にて所定の年限で在学し、全学ならびに学部の教育理念と教育目的に沿って設定された教育課程を履修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に、それぞれの学部が定める学位を授与する。

[https://www.ocha.ac.jp/program/diploma\\_policy/undergrad.html](https://www.ocha.ac.jp/program/diploma_policy/undergrad.html)

13

### 中期計画 における位置づけ

●中期計画【K6】  
社会から求められるコンピテンシーの育成支援システムを構築する。そのシステムでは、授業等において習得できるコンピテンシー等の内容や、学生がそれまでの授業等を通して得たコンピテンシー評価に関する分析の結果を明示する。それにより、学生が最終的にコンピテンシー習得目標を達成するための履修計画作成を支援する。

1. 「授業」を重要なコースとして位置付ける (可視化)  
●各授業で育...  
授業 (シラバス) に「コンピテンシー育成」を!
2. 学生の履修...  
●学生が授業...のPDCAを回すことができる支援システムの構築

14

### お茶大コンピテンシー

1. コンピテンシー：「課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして、社会の場で成果をあげる包括的能力と行動特性」

アクティブラーニング → コンピテンシー育成

新たな価値を創造する力	対立やジレンマに対処する力	責任ある行動をとる力
批判的思考力	問題解決力	省察的思考力
創造的思考力	他者理解力	自己制御力
協働力	対人葛藤解決力	内的統制感
		エージェンシー

15

### 整理します

コンピテンシー	アクティブラーニングで育てたいもの
アクティブラーニング	コンピテンシーを育てるための技法

16

### 動画配信のねらい

2022年度 → 2023, 24年度

「育て方」から「育たいもの」へのアプローチ

教員の授業改善をサポート

17

### 教育目標：コンピテンシー育成

教員：教育改善  
学生：育成の意識

知識の獲得、理解の深化、手続きの獲得、コンピテンシー育成(DP)、シラバスALタブ、動画配信教材作成、可視化システム

授業を整えよう、押尾、伸ばすことを目指そう

18

### 動画配信のねらい

コンピテンシー講座 → 相手に教える (教員)

アクティブラーニング講座

コンピテンシー講座 (こんばっく) → 自分で高める (学生)


19

**【3】動画配信 1**

アクティブラーニング講座

「育て方・伸ばし方」  
からの  
アプローチ

教員用



20

AL講座

配属月	紹介した技法	関連するコンピテンシー
10月	本講座の紹介	
11月	ミニッツペーパー	省察的思考力
12月	ジグソー法	協働性、創造的思考力、省察的思考力
1月	グループ活動 ex. シンクベアシェア ラウンドロビン	協働性
2月	ディベート	批判的思考力
3月	反転授業	批判的思考力、省察的思考力

21

- どんな授業におススメか
- 技法の紹介
- コンピテンシーの関連
- 学生にとってのメリット
- ALの位置づけ
- 各段階でのコツ
- 特定教科での展開の仕方

22

アクティブ・ラーニング講座

**第03回**

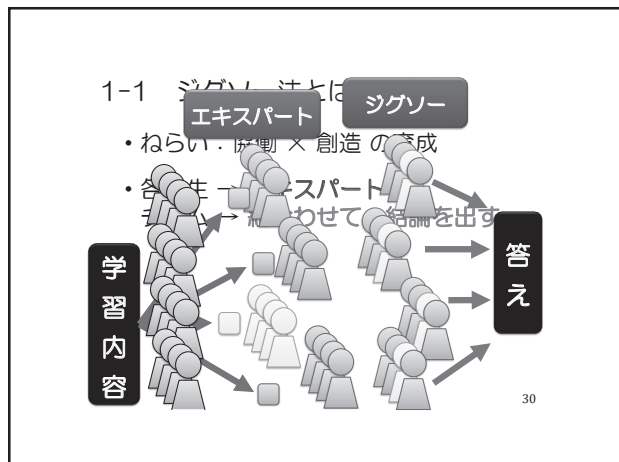
**ジグソー法**

コンピテンシー育成開発研究所  
押尾 恵吾

23

- どんな授業におススメか
- 同時に複数の知識を関連付けて考えさせたい
  - 「わかったつもり」になりやすい概念が多く出てくる単元
  - 班活動
    - ひと手間加えたい
    - Free Riderを減らしたい
- 29

24



25

1-2 展開の仕方

・手続き

① 教員が問いを設定  
 課題：豊臣秀吉はどんな社会をつくったか

② 生徒は各自「問い」に回答

自分の答え

5 Min

31

26

1-2 展開の仕方

・手続き

生徒は移動

32

27

1-2 展開の仕方

・手続き

③ **エキスパート** 活動

10 Min

エキスパートA  
太閤検地

エキスパートB  
刀狩令

エキスパートC  
身分統制令

33

28

1-3 育成されるだろうCompetency

認め合う ⇨ 協働性・他者理解

振り返り ⇨ メタ認知

生み出す ⇨ 創造的思考

34

29

1-4 ALとしての位置づけ

- メタ認知を普段から用いる機会に
- 発言が必須
- 思考の外化（組み立て、プレゼン）

35

30

1-5 学生にとってのメリット

- ・振り返り
  - メタ認知を普段から用いる機会に
  - 「わかったつもり」を解消
- ・協同学習
  - 自分の言葉で、他者に表現する
  - 協力しながら、知識を活用する

36

31

## 2. 授業への導入に向けて

32

### 2-1 上手くいくためには

#### Q. 課題の設定

- ・抽象的な問いが必ずしも良いわけではない

#### Q. 「水質資源保護のために、貴方のできることは何ですか？」

私は  
～です

私は  
～です

オープン  
エンド

クローズド  
化する


38

33


### 2-2 各教科との対応

#### ・読解


- － 課題：著者Dの意図を理解する



エキスパートA  
小説D-1読む



エキスパートB  
小説D-2読む



エキスパートC  
小説D-3読む

34

アクティブ  
ラーニング講座

をもちいた実践

35

### 実践例

アクティブラーニング講座

#### ・活用事例（教員向け）

- － 教授法 / 育成法の理解
- － 育成の仕方について、どういった言葉かけをすればOKかの目安に

#### ・期待した効果

- － 授業の設計に役立つ

36

### 実践例

アクティブラーニング講座

#### ・活用事例（教員への普及）

- － FD/SDの実施
- － ALの優れた授業、コンピテンシー育成で評価の高い授業をピックアップ

#### ・期待した効果

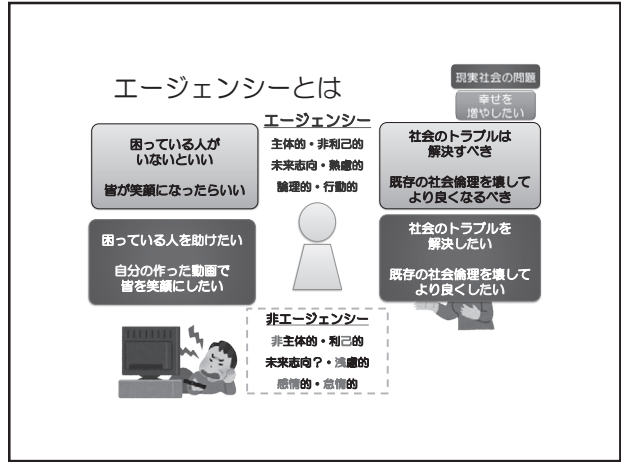
- － 授業スタイルの参考に



43



44



45



46

3-0 **現実社会** Well-being **現実社会場面を取り上げた課題**

応用課題：現実場面  
 一知識の教授にとどまらず、その知識を活用して**現実社会場面**で、問題を解決する方向でどのように活用するか考えさせる課題

**【課題のキーワード】**

- ・自分の将来に役立てるためにどのような意味があるか
- ・40年後の社会にどのように貢献するか
- ・他者の幸せ度を高めるためにどのように活用することができるか

47

3-3 **現実社会** Well-being **主体性・自律性** **コンピテンシー** **AARサイクル** **③フルバック型の取り組み** 各ケースに合わせて取り出し/戻しを補助

アドバイス：  
 一現実社会場面で問題を解決する方向で活動している相手に対して **足りない要素を補助・補強する指示**

**【相識へのアドバイス】**  
 ex. 社会奉仕活動を行っているが、協力者が増えない  
 → (主体性) 活動は主体的か？  
 → (PDCA) 目標設定と振り返り (自己分析) しているか？  
 → (コンピ) 協働や他者へ意見を述べたり成長の余地はあるか？

一将来目標設定  
 各要素についてのチェック表  
 ↓  
 教員のアドバイスだけでなく 学生が自己分析もしやすい  
 ・そもそもAgency的

48



49

**まとめ**

**エージェンシー**

現実社会  
Well-being

主体性・自律性

自己決定理論

内発／外発

自己関連

期待価値

(育成の) 観点

★対象は「**現実場面**、**将来の自分たち**」  
★目的は「**自分や他者を幸せにする**」

- ・学生自ら課題を決定／選択させる
- ・学生同士が有効な関係の構築
- ・自己／相互／教員フィードバック
- ・外発→内発：行動の価値を見出す
- ・自身のエピソードや情報と関連づける
- ・成功によるメリットを教示／考えさせる
- ・失敗を恐怖しない環境／失敗にヒント  
すこし頑強ればできる目標に

50

**まとめ**

**エージェンシー**

現実社会  
Well-being

コンピテンシー活用  
知識活用

省察的思慮力  
(メタ・シンキング)

育成の観点

★対象は「**現実場面**、**将来の自分たち**」  
★目的は「**自分や他者を幸せにする**」

- ★コンピテンシーを用いているか
  - 批判的に状況や思考を捉えているか
  - 創造的な技法を用いているか
  - 問題解決的な思考を用いているか
  - 他者と協働して課題に取り組みしているか
- ・振り返りをもとにした目標を設定しているか
- ・自身の活動を省察的に振り返り出来ているか

51

**コンピテンシー講座** **をもちいた実践**

52

**実践例** **コンピテンシー講座**

- **活用事例（教員向け）**
  - 教授法／育成法の理解
  - 育成したいコンピテンシーについて、学生がどんな行動・発言ができればOKかの目安に
- **期待した効果**
  - 授業の設計に役立つ

53

**実践例** **コンピテンシー講座**

- **活用事例（学生向け：敢えて見せる）**
  - 能力を言語化し、自分ならどう育成するか考える
  - 教員がどう授業を設計しているか、把握する
- **期待した効果**
  - 自分に求められている成長・能力像を可視化／言語化
  - 何をどの程度伸ばしたいかと意識できるようになる

54

**【5】動画配信3**

コンピテンシー講座  
**こんぱっく**

「伸ばしたいもの」  
からの  
アプローチ

学生用



55

ComPhack コンピテンシー育成開発研究所  
押尾 恵吾

---

**ComP×hack**  
**こんぱっく**  
～Competencyをハックしよう～



Chaシカ



コンビ天使

コンピテンシー育成開発研究所 キャラクター

56

技法名

?分

**【内容】**  
技法の内容について簡単に解説

**【自分にかける言葉：プロンプト】**  
「自分に対してどういう言葉かけをすればよいか」  
「どういふマインドをもつと、使いやすくなるか」  
「をここでいくつか紹介します」

57

技法名

1分

**【学習場面】**  
：授業や学習などの場面を想定した例をあげます

具体的なシチュエーションや使い方を簡単に紹介します。

58

技法名

2分

【推奨される 授業 / 学習】

— どんな授業や学習場面で特に有効か  
ここで紹介します

59

技法名

3分

**【人間関係】**

具体的なシチュエーションや使い方を簡単に紹介します。

60

ComPhack  
～Competencyをハックしよう～

---

**省察的思考力**

自らの活動を振り返って  
気づきを得る力


客観視

作戦勝ち

効率化

ノウハウ


61

事後 (直後)  行動後

メタ認知 (省察的思考力) の強化法

し：仕分けスクリーニング  
 よ：予測 & 実況中継  
 う：うちがわレポ  
 さ：採点メーター  
 つ：使い方ハントくん  
 てき：的確プラン

62

事後 (直後)  行動後

メタ認知 モニタリング 自分を見据え

③うちがわレポ 3分

【内容】  
 行動や出来事が終わった直後に、以下を振り返ろう

- ・大発見ポイント
- ・何回か繰り返しているミスのパターン
- ・どこで感情が動いたのか
- ・どこまでOKで、どこから良くなかったか

※単なる「反省」や「よかった」ではなく  
 『同じ失敗をしないための戦略』を重視する！

63

事後 (直後)  行動後


メタ認知 モニタリング 自分を見据え

③うちがわレポ 3分

【自分にかける言葉：プロンプト】

「うわべじゃなく、今日の自分を褒めるとしたらどこ？」  
 「今日、自分が人として成長したなと思えた瞬間ってどこ？」  
 「前にも同じパターンの間違いをしたことってあったっけ？」  
 「今日の最大の気づきって何だろう？」  
 「今日うまくいくために、今朝の自分に細かくアドバイスするとしたら何て言う？」

64

事後 (直後)  行動後

メタ認知 モニタリング 自分を見据え

③うちがわレポ 3分

【学習場面】：自分の出来高を振り返る (内省)

行動の後に、気づいたこと・うまくできたこと・うまくできなかったこと・自分の気持ちなどを振り返り、どうすればうまくいったかなど、思ったことをできるだけ記録する

- ・「今日の話、集中はしてたけど、例え話のところで急に理解が深まった感じがした」
- ・「議論のとき、相手の意見にイラッとしたりけど、それって自分の不安に触れたからかも」
- ・「後半、疲れて聞き流してたな……。次回は途中でメモを挟もう」

65

事後 (直後)  行動後


メタ認知 モニタリング 自分を見据え

③うちがわレポ 3分

【推奨される授業/学習】

教科・形式	使い勝手
少人数ゼミ、PEL、グループディスカッション	感情・思考の動きが発生しやすい
講義+レポート提出型授業	理解の整理と定着に直結する
芸術、演習系授業 (プレゼン・制作・演奏)	終了直後に、気づきが出やすい
留学、スピーキング授業	「通じた/通じなかった」「緊張/リラックス」の記録が成長の材料になる

66

事後 (直後)  行動後

メタ認知 モニタリング 自分を見据え

③うちがわレポ 3分

【人間関係】

何か引っかかることがあったあと、すぐに相手にぶつけるのではなく一旦内側を見つめる。

「あの態度、なんかイラッとした。ああいう場面で、率先して動かない人を見るとめっちゃイラッとする」  
 「あのとき無視されたよね、タイミングが悪かっただけかなー」  
 「あんなにムカついたのは、自分の“ちゃんとしたい”って思いが強かったからだよねー」  
 反応する前に“自分の意味づけ”を理解することで、関係が守られる。

67

コンピテンシー講座  
こんぱっく

をもちいた実践

68

実践例 コンピテンシー講座  
こんぱっく

- 活用事例（学生向け）
  - 普段：生き方のコツとして、自分にプロンプトを出しましょう

「行動の仕方（プロンプト・事例）」  
→ すべてのための準備として相性がよい

69

実践例 コンピテンシー講座  
こんぱっく

- 活用事例（教員向け）
  - プロンプトは役に立つんじゃないかなと思います
  - 学習導入に使う：反転学習×PBL/AL設計
    - 予習：学生の視聴を必須/推奨タスク
    - 授業：メタ認知技法を使ったPBL・協働学習に

70

【6】  
まとめ

71

まとめ

入学 → 卒業

M大学 うちで育成する能力

《教員》  
授業を整えよう

《学生》  
アクティブラーニング講座  
コンピテンシー講座  
こんぱっく

企業・院 etc うちで欲しい人材

72

まとめ

育成 ⇔ 使いこなせるようになる

批判的思考

伸ばす際の試行錯誤のエピソードをたくさん増やす

ex. 講義の授業、ゼミ、サークル、バイト、演習の授業、インターン、海外旅行…

M大学 うちで育成する能力

企業・院 etc うちで欲しい人材

## まとめ

### • お茶大の実践

- DP⇔学部⇔学科との細かい連携（政治！）が必須
- 多くの準備が必要
  - ex. 測定、評価、シラバス、教員、学生...
- キャリア支援と整合性が高い（学生も動機づけが高まりやすい）
- コンピテンシー自体がかなり柔軟な概念なのでカスタマイズ必須



ご清聴ありがとうございました！



## 第21回 名城大学 FD・SD学習会

### 学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性

- 日時 2025年 9月9日（火） 13:10～14:40
- 講師 田中 正弘 氏
  - ◆筑波大学 准教授
  - ◆中央教育審議会大学分科会 臨時委員（文部科学省）
  - ◆「全国学生調査」に関する有識者会議 委員（文部科学省）
  - ◆質保証における学生参画のあり方に関する調査研究部会 会員（大学基準協会）
- 会場 対面実施のみ 共通講義棟東 E304講義室
- 対象 学内教職員、非常勤講師、特任助手、大学院生
- 備考 後日の動画視聴については、現在講師と調整中です。動画撮影が可能な場合、改めて周知いたします。

#### 企画趣旨

今年度より、「授業改善アンケート」は「科目別学修振り返りアンケート」へ名称を変更し、従来の授業評価を目的としたものから、学生自身が学修を振り返ることを目的とした内容へ見直しました。学生の回答内容や各科目の集計結果、さらに教員からのコメントを学修ポートフォリオに蓄積し、これを学生と教員のコミュニケーションツールとして活用する体制を整えています。これにより、学生は授業単位の振り返りから半期毎の振り返りへとつなげ、自律的な学修者となることを目指しています。

また、本アンケートの有効性を高めるため、授業時間内にアンケートを実施する際には、自己省察の意義や学修ポートフォリオの重要性について説明を行うことが重要となります。そのため、関係者を対象とした学習会を開催いたします

#### 申し込み方法・問い合わせ先

下記URL 等からお申し込みください。

<https://forms.gle/kMsmKZ9g4B9NBDVP7>

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2033（内線：2659）



# 第21回 FD・SD 学習会 実施報告

## 1. 実施概要

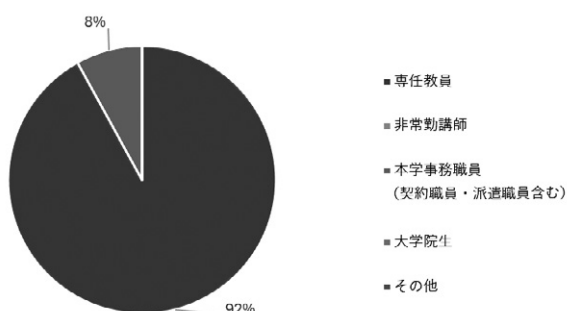
- ・日 時：令和7年9月9日（火）13：10～14：30
- ・場 所：共通講義棟東 E304講義室 対面開催
- ・テ ー マ：学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性
- ・講 師：田中 正弘 氏（筑波大学 准教授）
- ・参加者数：48人（専任教員38人、事務職員9人、大学院生1人）

## 2. アンケート方法等

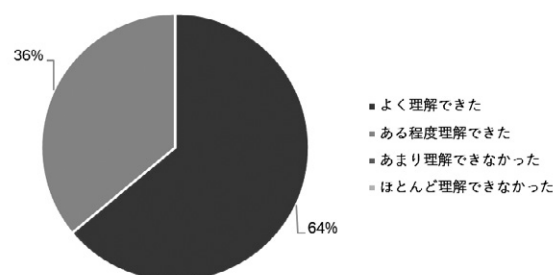
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
  - ①所属をお知らせください。
  - ②本日の内容は理解できましたか？
  - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
  - ④本学習会の満足度について教えてください。
  - ⑤講演の感想をお聞かせください。
  - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
  - ⑦テーマ・ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：25人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

## 3. アンケート結果

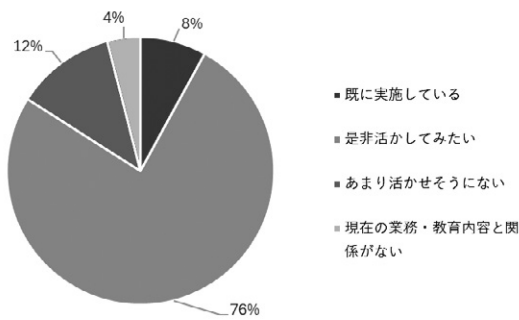
①所属をお知らせください。



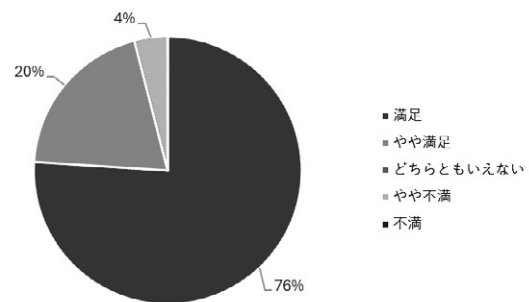
②本日の内容は理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

・ゼミナールにおいて、他の大学ゼミとのディベートに取り組んでいるが、その振り返り活動に活かしたい。

これまでは、今後の課題を自由記述してもらっていたが、細かい項目を教員で設定した上で、振り返りすることで、教育効果をあげたい。

論理的であったか、根拠を正確に提示できたか、制限時間のなかで時間配分は適切か、スライドの見やすさの程度はどうか、自らの言葉で話しているか、など項目を指示して、自己省察に取り組ませたい。

・学修ポートフォリオについて理解が深まりました。ただ、学生一人一人とコミュニケーションをとり、コメントを返していくことは、現実的に難しいと思いました。学生の自己省察、自律的な学習を伸ばす「学生同士でできる効果的な方法」を考えたいと思いました。

教員の評価のうち、研究やそれに基づく業績が大きなウエイトをしめ、授業の評価のウエイトは非常に小さいと思います。例えば、教員採用では研究業績を見られますし、研究費の取得にも業績が必要です。授業も力を入れたいけど後回しになっている現状です。時間をかけなくても効果が上がる手法について考えられればと思います。もしくは、教員の評価において授業がしめるウエイトを大きくしていくことも、根本的な方法かと思いました。

・学修ポートフォリオが大規模の講義にはあまり向いていないと明言されたことが非常に印象深かった。

・これからの時代学習成果について、直接評価と間接評価の双方が求められる中で、間接評価をより強化できる学習会となった。認証評価などの業務で活用していきたいと思う。

・ポートフォリオの位置付けが把握できました。下位層の学生というよりは上位層にアプローチするような観点になっているのが実際と認識しました。

・学修ポートフォリオに対するこれまでの考え方を改める機会となり非常に良いお話を聞くことができました。

・学修ポートフォリオは、学生と教員のコミュニケーションを確保するための手段であるということがよく理解できました。同時に、そうしたコミュニケーションを充実させるには、教員個人としても、また大学全体としても工夫や検討を要する事項が多いことも、お話を聴き

ながら改めて認識でき、その意味でも有益な学習会でした。

- ・教育学の視点から、学修ポートフォリオについての話を聞くことができ、学生数の多い私学が、どのようなシステムを構築するか参考になる内容で大変有意義でした。

実習や実験に対して有効であることは承知していましたが、講義型が多い大学教育の現状においては、学修ポートフォリオを活用することも前向きに考えていく必要はあると思います。全ての科目を対象にするものではないとお話もありましたが、逆に「何ができるようになったのか」の視点では、DPに繋がることから全ての科目にどのように取り入れるかという考え方もあっても良いと感じました。

また、教育改革を求められるなかでは、教員の講義スタイルをアクティブラーニングを取り入れるなどして、学生が自立して学修するように仕向ける工夫も必要だと思います。

近年、学位プログラム評価が問われるなかで、DPに対する達成度をどのように評価するかといった視点も必要だと思いますので、学修プロセスを知るためには、IRにも繋がると思いますし、科目レベル、プログラムレベルでのポートフォリオの活用を考えることも必要かと感じました。

- ・現状の本学のポートフォリオのシステムでは、うまく対応できなさそうなことがわかった。特に教員と学生とのコミュニケーションツールとして進める場合、なんらかの閲覧の可否が不可避である。ただし、各授業のなかで、WebClassの課題を使って、毎回の授業のリアクションペーパーを書かせることで、フィードバックを行っており、ある種の学修のプロセスの把握はそこで行われているとも考えられる。
- ・予想していた内容とは異なるが、実情がよくわかる面白い公演でした。学修ポートフォリオを実用的に運用するには、科目を限定（演習、実験など）して、顔がわかる状況で、かつ、対面で直接話すには支障がある（ほかの学生には聞かれたくない）などの条件で行うべきだと思います。
- ・教員に学修ポートフォリオの閲覧権限がない現状では、それを生かしたゼミ生の指導ができないため、改善が必要であると感じた。
- ・万人向けのツールではないという点が明確に説明されており、納得できる内容でした。
- ・ポートフォリオの考え方、利用の方法を知ることができました。
- ・学修ポートフォリオおよび自己省察についての考え方等が理解できた。
- ・教育学者としての学修ポートフォリオに対する本音をうかがうことができたのがなにより興味深く、それが現場感覚とも合致することを確認することができた。
- ・ポートフォリオと言われても、どのようにすれば良いか、どのように学生さんに指導すれば良いかがわからずにいましたが、本日のご講演で具体的なイメージを持つことができました。演習や実習に向いているということなので、まずはゼミで取り入れてみたいと思います。
- ・参加してよかったと感じることができる講演会でした。
- ・デジタル化との相性についても伺いたかった
- ・全員、一致してやらなくても という所は、大学として進めて欲しい。
- ・新しい発見もあり、参加して良かった。

- ・成績上位者の指導を中心に扱ったものでした。教育学的観点から、本質的な学修ポートフォリオは、成績下位層の指導には適さないとのことでした。私立大学教育で課題とされるところは成績下位層の学生に対する指導になっているため、その解決に向けた見解や議論が聞いてみたかった。
- ・学修ポートフォリオについて理解が深まった。おそらく、学修ポートフォリオを丁寧に書ける学生は成績上位層と思われる。私の受け持っている科目では「学生実験」等でできそうだったと思った。
- ・学修ポートフォリオの学生による作成・教員による活用を、すべての学生に関して実際の授業運営に落とし込むのは難しいと感じました。科目別振り返りアンケートとは別に、少人数の授業、あるいは、大人数授業における希望者みでの利用から始めるのが、現実的だと思いました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・どういう意見があるか知りたかった。
- ・私自身が不案内な分野なので。弱点補強のためです。
- ・FD・SD学習会にはできるだけ参加しようと思っているから。
- ・IRや認証評価に関する業務を担当しているため、業務に活用できると考えたため。
- ・自身の学生指導能力の改善、それに伴う手段の理解
- ・メールで教えていただいた学習会のテーマが、以前から気になっていたものでしたので、参加させていただきました。
- ・「自己省察の重要性」というタイトルを見て、知りたいと感じたため。
- ・ポートフォリオをいかに効果的に使えるかを知りたかったため。
- ・学部のFD・SD委員を担当しているので、知識を得るために参加しています。
- ・アンケート内容の変更
- ・今年度実施した科目別学修振り返りアンケートと関りがありそうだったため
- ・学内メールによる開催案内
- ・学習成果の可視化という面で参考になればと考えたため参加をした。
- ・学修ポートフォリオの使い方をより深く知りたいため。
- ・講師の方の話を聴いて見たかったから
- ・私立大学に対する学修ポートフォリオの活用法について情報が得られるかと考えたため。

⑦テーマ・ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・やる気のない学生の指導方法、実践例について。
- ・100点を目指すのではなく、今の授業から教員の時間的コストを増やさずに10点上げられるような、すぐに取り入れられる方法があれば知りたい。
- ・遠隔講義における講義動画の作成のコツを聞きたい

- ・ 本学が展開しているポートフォリオの活用法と改善点について
- ・ 本日の準備にてご苦勞様でした。質問等も多く、大変有意義だったと思います。いろいろと課題も出てきたことはよいとは思いますが、解決していくこともなかなか難しいと感じております。次はジャブ程度で「学生参画」でしょうか。今後ともよろしく願ひいたします。
- ・ 大人数授業における学修の振り返りをどう構築していくかが大きな課題となっているので、今後はそういった話をうかがうことができれば非常にありがたい。
- ・ 成績下位学生のモチベーションのあげ方

1

学修ポートフォリオを活用した学生の  
自己省察の重要性

日時：2025年9月9日(火)13:10~14:40  
場所：名城大学天白キャンパス共通講義棟東E304講義室  
田中正弘（筑波大学）

2

目標

- 本公演の目的：
  - 学修ポートフォリオとは、どのようなもので、いかなる意義があり、どのように活用すべきか、参加者一同で議論すること。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 2

3

目次

- 学修ポートフォリオとは何か
- ポートフォリオの意義と活用方法
- 導入事例
- 貴学の試み
- まとめ

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 3

4

学修ポートフォリオとは何か

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 4

5

学修ポートフォリオのイメージ



めんどくさい!!

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 5

6

学修ポートフォリオの負担感

- 学修ポートフォリオの作成は、学生にとって重い負担
- 学修ポートフォリオの活用は、教員にとって重い負担
- 学修ポートフォリオの管理は、職員にとって重い負担

では、なぜやるの？

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 6

## 学修ポートフォリオのメリット

- 学修ポートフォリオを作成・活用・管理するメリットは、学生の学びのプロセスを可視化できること。
- デメリットは、時間的・業務的負荷が学生・教員・職員に掛かること。

デメリットを上回るメリットを得られるのか？

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 7

## 向いている人／向いていない人

- 学修ポートフォリオの作成に向いている学生
  - 日記をつけるのが習慣化している学生
  - 書くのが苦痛ではない学生
  - 困りごとを相談するのが好きな学生
  - 細かいことまで指導してもらおうのが好きな学生
- 言い換えると、学修ポートフォリオは「万人向け」の学びのツールではない。
  - 向いている人はデメリットを上回るメリットを得られる可能性が高い。
    - ただし後述するように、簡易版の作成は全員必須にした方がよい。

SNSを含む

スマホのフリック入力なら書けない学生も多い

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 8

## 学修ポートフォリオの定義

- 学修ポートフォリオの定義（文部科学省）
  - 学生が、学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集し、記録したもので、それらが必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るといふ、学生自身の自己省察を可能とすることによって、自律的な学修をより深化させることを目的とする。

自己省察？

自律的な学修？

出典：中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」38頁。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 9

## 自己省察／自律的な学修

- 自己省察：
  - 自分は何が出来て、何が出来ないのか、そして、これから何をすべきかを自ら振り返ること。
- 自律的な学修
  - 自己省察に基づいて、これから何をどのように学ぶべきかを判断し、それを自ら実行すること。

自律的な学修には正しい自己省察が必要

正しい自己省察には、その根拠となる「証拠書類」と、客観性を高める「同僚の助言」が必要

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 10

## 学修ポートフォリオの情報

- ズビザレタ（Zubizarreta 2009：23）によると、学修ポートフォリオには必ず含むべき要素がある。
- その要素とは下記の三つである。
  - 「自己省察」（reflection）
  - 「証拠書類」（documentation）
  - 「同僚の助言」（collaboration）

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 11

## 学修ポートフォリオの概念図

三つの要素（円）が重なる箇所学修（learning）が最も活性化される。

出典：Zubizarreta, John (2009) The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning, second edition, San Francisco: Jossey-Bass. 25頁。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 12

### ポートフォリオの基本の型

評価の観点	評価の時期1		評価の時期2		評価の時期3	
	結果	理由	結果	理由	結果	理由
評価の観点1	3	3をつけた理由は～です。	4	4に上げた理由は～です。	3	3に下げた理由は～です。

注：証拠書類をつけられる欄を設ける。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 13

### ポートフォリオの例

評価項目	評価の観点	評価対象	実習前の自己評価		実習中の自己評価		実習後の自己評価	
			結果	理由	結果	理由	結果	理由
複数 回 指導 実習	自己目標と学習内容の指定	実習記録（様式3）をもとにした学生の発言						
	実習時の参加姿勢	患者への態度と報告の状況						
	2日目の行動プランの立案	実習指導者への相談状況と実習記録（様式5）						
	実習記録の内容	実習記録（様式4）						
下記の質問から、二つ選び、回答してください。 どの観点が自分の最も良い成果ですか？ それはなぜですか？ どの観点が自分の最も重要な成果ですか？ それはなぜですか？ どの観点が自分の最も満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの観点が自分の最も不満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの観点が自分の最も成長させた成果ですか？ それはなぜですか？								

出典：Suskie, Linda (2009) Assessing Student Learning: A Common Sense Guide, second edition, San Francisco: Jossey-Bass.

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 14

### 知りたい情報（1/2）

- 学修ポートフォリオを通して教員が知りたい情報
  - 学生の自己評価の結果
  - 学生の自己評価の理由
    - 特に、なぜ、この学生はそのような評価が妥当だと考えたのか、その考えの根拠を知りたい。
  - 学生が成長した（しなかった）時期やその理由
    - 特に、いつ、何がきっかけで（障害となって）、成長できた（できなかった）と考えたのかを知りたい。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 15

### 知りたい情報（2/2）

- 学修ポートフォリオによるフィードバックを通して学生が知りたい情報
  - 教員の評価の結果
  - 教員の評価の理由
    - 特に、なぜ、この教員はそのような評価が妥当だと考えたのか、その考えの根拠を知りたい。
  - 成長するためのコメント
    - 特に、教員は、いつ、何がきっかけで（障害となって）、学生が成長できる（できない）と考えているのかを知りたい。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 16

### 学生の評価結果

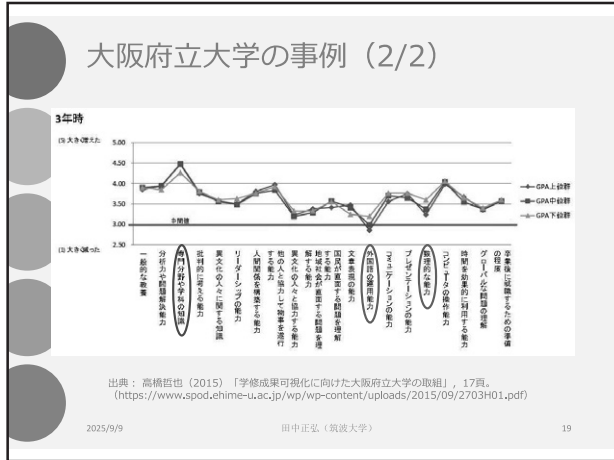
- 実施上の課題：
  - 学生の評価結果は「それほど当てにならない」（誤りが多い）。
    - GPA上位群は自らの能力を過小評価しがち。
    - GPA下位群は自らの能力を過大評価しがち。
  - このままでは、自己省察も、自律的な学修も、正しくできない。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 17

### 大阪府立大学の事例（1/2）

出典：高橋哲也（2015）『学修成果可視化に向けた大阪府立大学の取組』，17頁。  
 (https://www.spod.ehime-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/09/2703H01.pdf)

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 18



## ポートフォリオの意義と活用方法

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 20

## 学修ポートフォリオの意義

- 学修ポートフォリオを活用する意義は、学期末考査（到達度評価）では測れなかった学修過程（学びのプロセス）を評価できることにある。
  - なぜなら、学生は学修ポートフォリオの作成を通して自らの学修過程を評価することにより、自己評価能力を高められるためである。
  - ただし、学生の自己評価に誤りがある場合は、教員のフィードバックが必要となる。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 21

## 学修ポートフォリオの活用方法

- 学修ポートフォリオの活用方法：
  - 学生が自らの学修過程を評価する形で活用する。
  - 学生が自己評価能力を高められる形で活用する。
  - 教員がフィードバックできる形で活用する。
- そのために必要なツールの一つが「ルーブリック」である。
  - ルーブリックがないと、評価結果が主観的で、個人間のバラツキが大きくなりやすい。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 22

## ルーブリックとは

- 評価水準を示す「尺度」と、各段階の尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される、学習を評価する際の基準の様式
  - どのような内容が習得されていればその尺度に達しているかの判断ができるよう、各尺度の説明は記述形式で表される。
    - そのため、定量的に表しにくい、パフォーマンスの評価等、定性的なものの評価の際に活用される。

出典：大学改革支援・学位授与機構（2022）「ルーブリック」(<https://niadqe.jp/glossary/5392/>)

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 23

## ルーブリックの基本の型

	尺度4	尺度3	尺度2	尺度1
観点1	特徴の記述4	特徴の記述3	特徴の記述2	特徴の記述1
観点2	～が十分にできる	～がある程度できる	～が少ししかできない	～がほとんどできない
観点3	①②③④ができる	①②③はできるが、④ができない	①②はできるが、③④ができない	①はできるが、②③④ができない
観点4	□～が十分にできる □①②③④ができる	□～がある程度できる □①②③はできるが、④ができない	□～が少ししかできない □①②はできるが、③④ができない	□～がほとんどできない □①はできるが、②③④ができない

尺度：優、良、可、不可など  
観点：科目の到達目標など

主語は学生、学生は～ができる。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 24

## 丸囲み式ルーブリック

	尺度4	尺度3	尺度2	尺度1
観点2	〜が十分にできる	〜が <b>ある程度</b> できる	〜が <b>少ししか</b> できない	〜が <b>ほとんど</b> できない
観点3	①②③④ができる	①②③はできるが、④が <b>できない</b>	②は <b>できるが</b> 、③④が <b>できない</b>	①はできるが、②③④が <b>できない</b>

丸囲み式の利点：瞬時に評価できる。  
丸囲み式の欠点：評価が粗くなる。

実技の評価に向く

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 25

## チェック式ルーブリック

	尺度4	尺度3	尺度2	尺度1
観点4	□〜が十分にできる □①②③④ができる	□〜が <b>ある程度</b> できる □①②③はできるが、④が <b>できない</b>	□〜が <b>少ししか</b> できない □①②はできるが、③④が <b>できない</b>	□〜が <b>ほとんど</b> できない □①はできるが、②③④が <b>できない</b>

チェック式の利点：細かく評価できる  
チェック式の欠点：評価に時間がかかる。

振り返りの評価に向く

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 26

## フィードバックへの活用

- 丸囲みを工夫（二重にするなど）して学生にメッセージを送る（フィードバックする）。

観点	評価	コメント
観1	①②③④	①②③④がすべてできている。素晴らしい。特に③の取り組みが印象的だ。
観2	①②③④	①②③はできているが、④がもう少し丁寧に行えばいい。
観3	①②③④	②はできているが、③④がもう少し詳しく説明してほしい。
観4	①②③④	①はできているが、②③④がもう少し具体的に記述してほしい。


出典：ステイブンス・ダナル、レビ・アントニア（2014）『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部、68頁。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 27

## コミュニケーション

- 学修ポートフォリオは、学生と教員（または学生間）のコミュニケーションツールとなる。
- 学生に書かせればなしで、教員からのフィードバックがないと、ポートフォリオのメリットを活かせない。

「ばなしはなしで話でしょ」  
By でんこ（東京電力）



2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 28

## 導入事例

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 29

## 法政大学の事例（1/2）

- 「小さなこと」（授業単位）から始めてみることを推奨している大学
- 「目標管理カード」

目標管理カードの作成例 A4用紙1枚から簡単に始めることができます！

- ① 目標設定  
↓ 将来の目標ややりたい自分をイメージして書き出してみよう。
- ② 目標達成方法  
↓ 次にそのイメージに向かってやることを挙げてみましょう。
- ③ 資料や気づきの保存  
↓ 学習や生活の中で、実際に、自分のやったこと、考えたことを文字にまとめてみましょう。資料がそろえばファイルなどにまとめておきましょう。
- ④ 振り返り・自己評価  
あとで、もう一度振り返って記入した内容を覚えてみましょう。書いた目標より今の自分が成長していることを感じられるはずです！

※この作業を繰り返していくことで、自己啓発の資料が自然とでき上がります。

出典：法政大学（2025）「学習ポートフォリオのすすめ」、1頁  
(<https://www.hoseiyoiku.jp/ll/images/handbook/pdf/2020/handbook07.pdf>)

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 30

### 法政大学の事例 (2/2)

出典：法政大学 (2025) 「学習ポートフォリオのすすめ」、2頁  
<https://www.hoseiyoiku.jp/fit/images/handbook/pdf/2020/handbook07.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 31

### 福岡工業大学の事例 (1/5)

・4年(6年)間を通して記録を残していく、「大きな」単位のポートフォリオ

出典：福岡工業大学 (2025) 「学習ポートフォリオ (FIT-AIM) 活用ガイド」、1頁  
<https://oped.fit.ac.jp/html/assets/pdf/undergraduate/portfolioguide.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 32

### 福岡工業大学の事例 (2/5)

#### FIT-AIMのアクセス方法

出典：福岡工業大学 (2025) 「学習ポートフォリオ (FIT-AIM) 活用ガイド」、4頁  
<https://oped.fit.ac.jp/html/assets/pdf/undergraduate/portfolioguide.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 33

### 福岡工業大学の事例 (3/5)

#### (入力例) 入学時の自分

出典：福岡工業大学 (2025) 「学習ポートフォリオ (FIT-AIM) 活用ガイド」、5頁  
<https://oped.fit.ac.jp/html/assets/pdf/undergraduate/portfolioguide.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 34

### 福岡工業大学の事例 (4/5)

#### (入力例) 学期の振り返り・学期の目標と計画

出典：福岡工業大学 (2025) 「学習ポートフォリオ (FIT-AIM) 活用ガイド」、7頁  
<https://oped.fit.ac.jp/html/assets/pdf/undergraduate/portfolioguide.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 35

### 福岡工業大学の事例 (5/5)

#### (入力例) 学びの態度・行動の自己評価

出典：福岡工業大学 (2025) 「学習ポートフォリオ (FIT-AIM) 活用ガイド」、8頁  
<https://oped.fit.ac.jp/html/assets/pdf/undergraduate/portfolioguide.pdf>

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 36

## 貴学の試み

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 37

## アンケートの改善

- 今年度より授業改善アンケートを科目別学修振り返りアンケートへと変更した。

変更項目	授業改善アンケート（旧）	科目別学修振り返りアンケート（新）
1 設問項目	授業を評価する設問項目	学生の振り返り（自己省察）を重視した設問項目
2 対象科目	1 教員1科目以上 講義、語学科目	原則全科目
3 集計方法	単純集計 （設問毎に集計したグラフ）	単純集計に加え、成績を組み合わせたクロス集計 （成績別に集計したグラフを追加）
4 学生へのフィードバック	冊子にまとめ、学内に設置	学修ポートフォリオから「自身の回答」および「各科目の集計結果（履修科目のみ）」を確認可能

2025年度前期「科目別学修振り返りアンケート」回答率：49.7%（速報値）

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 38

## 学修ポートフォリオ

- 設置場所
  - 遠隔講義システムのWebClass内に設置
- 閲覧権限
  - 学生、キャリアセンター職員、大学教育開発センター職員は閲覧可能である。
  - 匿名実施のアンケート結果を格納しているため、教員に閲覧権限は無い。
- 構成要素
 

1 履歴書/学修の振り返り	学期ごとの目標設定および振り返り、履歴書に関する項目を入力する。
2 学修成果フィードバックシート	成績別の単位取得数、学期ごとのGPA推移、各科目群のGPA推移をグラフで示す。
3 科目別学修振り返りアンケート	学期ごとの履修科目のアンケート集約結果および自身の回答内容を閲覧できる。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 39

## 利用方法

- 7月と12月：科目ごとの振り返り
  - 「科目別学修振り返りアンケート」に回答
  - 授業で学んだ大切なことや、自身の課題等を入力
  - さらに深めたい内容とその理由等を入力
    - \*入力内容は自動で学修ポートフォリオ上に蓄積
- 9月と2月：半期ごとの振り返り
  - 「学修ポートフォリオ」から自分で入力
  - 半期で成長した点、これからの課題をまとめる
  - 次の学期の目標を立てる
- 3月：年次ごとの学びのまとめ
  - 「学修ポートフォリオ」から自分で入力
  - 1年間で身につけた知識・力を整理
  - 様々な授業の知識をつなげて、考え方を広げる
- 「振り返りから始まる自律的な学び。より良い自分と社会を自指し、成長を記録していきましょう。」

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 40

## 「科目別学修振り返りアンケート」項目

番号	項目内容
1	あなたは、この授業に意欲的・積極的に取り組むことができたと思いますか。【姿勢・態度】
2	この授業の内容を理解できたと思いますか。【理解度】
3	この授業を通じて、あなたは知識やスキルを身につける等、成長を体験することができたと思いますか。【成長実感】
4	この授業のために1週間あたり授業料でどのくらい勉強をしましたか。 例えば、以下のものは授業外の勉強に該当します。【自学自習時間】 （授業の学習・復習・授業の課題・授業に関わる読書（テキスト・参考文献以外も含む）・授業に関する友人との議論） ・週3時間以上 ・週1時間～3時間未満 ・週30分～1時間未満 ・週30分未満 ・勉強していない
5	この授業について、以下のいずれかの観点から、あなたの学びを記述してください。【総合的な振り返り】 （印象に残った内容とその理由・さらに深めたい内容とその理由・この授業で気づいた自身の課題や反省点・学んだことを次にどのように活かすか）

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 41

## 学生のコメント（1/6）

（科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄）

- 自分は何が出来るのかに気がつけているもの
  - 学生15
    - 「文章作法や上手くまとめられているかななどの細かいところによく気がつくようになりました。」
  - 学生10
    - 「自分が気になった工程や、実際に目で見ただのものについて掘り下げることができた。」

自己省察：  
自分は何が出来て、何が出来ないのか、そして、これら何をすべきかを自ら振り返ること。

2025/9/9 田中正弘（筑波大学） 42

学生コメント (2/6) (科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄)

- ・自分は何が出来ないかに気がつけているもの
  - ・学生7
    - ・「3つの作文技術に関しての本を読んで、自分の技術の無さに気づくことができました」。
  - ・学生13
    - ・「自分は短いプログラムを意識しすぎて雑なプログラムになってしまうことが多々ありました」。

自己省察:  
自分は何が出来て、何が出来ないのか、そして、これから何をすべきかを自ら振り返ること。

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 43

学生コメント (3/6) (科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄)

- ・自身の出来不出来を踏まえて、これから何をすべきかを振り返られているもの
  - ・学生17
    - ・「実験の予習を2週間、1週間前に終わらせると、実験をする日には覚えておらず、足を引っ張ることが何度かあった。計画的に予習をすることは大切だが、前日などに実験の内容や疑問点などを考えておくといいと思った」。
  - ・学生3
    - ・「自分の発表をする時、1回目の発表では自分のことで精一杯で、聞く人への配慮ができていなかったが、2回目の発表では聞き手が聞きやすいように工夫することができ(た)」。

学生の成長が見える

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 44

学生コメント (4/6) (科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄)

- ・自律的な学修につなげられそうなもの
  - ・学生14
    - ・「問題演習で気づいた、あまり分かっていない点について調べるのが遅かったり、忘れていたりすることが数回あったので、他の講義も含め反省し、授業後にしっかりと復習を行うという習慣を確実なものにしていきたいと思った」。

自律的な学修  
自己省察に基づいて、これから何をどのように学ぶべきかを判断し、それを自ら実行すること。

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 45

学生コメント (5/6) (科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄)

- ・短すぎるコメントでは、各学生の学修過程(学びのプロセス)が分からない。
- ・自己省察・自律的な学修が出来ているのかも判定できない。
  - ・学生26~32
    - ・レジュメ作りが大変だった。
    - ・法について知らないことばかりでした。
    - ・パソコンの使い方がわかった。
    - ・楽しい授業です。
    - ・とても良い。
    - ・毎授業楽しかったです。
    - ・データベースをつかえてよかった。

教員の知りたい情報ではないことを学生にそれとなく伝える

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 46

学生コメント (6/6) (科目別学修振り返りアンケートの自由記述欄)

- ・丁寧なコメントには、丁寧にフィードバックする(コミュニケーションツールなのですから!!)
  - ・学生19
    - ・「本講義では畜産、野菜、花卉、果樹、作物の5分野についてそれぞれ実践的な学びを得ることができたと思う。畜産ではまず動物実験に関するガイドラインや基本指針、飼育場について学んだあと、ヤギのミルクを使ったゼラチン作りやヨーグルト作りを行った。ヤギのミルクは牛乳のミルクよりも濃度でミルクキャンディに原材料としても適していると思った。次に畜産ではトマトの栽培の適期による収穫の違いについてプロジェクト実習等で学んだ。トマトの栽培の違いが実習現場や実習場の違いに大きく影響していることを実感したが、季節によりちがったものも無い。そして果実についてはりんごの授けを行った。その際に果樹ではほとんど水をやらないと先生が言っていたが、なぜそこまで水を与えずに育てるかを形成することができるのか不思議に思った。花卉についてはアサガオの実験実習場について、実習実習しやすい品種のアサガオを栽培して、最後に観察を行った。その中でトランスポゾンについても学んだが、日本で栽培の歴史の長く早く朝鮮の南部の多量にはこれだけの多量を確認しているのにも驚いた。そして最後に作物について、イネの収穫調査やにんにくの収穫、調整を行った。まず前者に関しては大学の採用作物学1の講義の知識と関連させて学ぶことができたと感じる。イネは私たち日本人にとって不可欠なものでないけれども本実習で学んだことをしっかりと頭に定着させていきたい。後者に関しては、大学の野菜園芸学の授業と関連するところがあり、実際にその内容について、本実習で作業した際に確認することができた。またトランスポゾンの扱いが非常に難しく感じたが、なぜその遺伝子が組み込まれるのかについて自分で調べることができたのでよかったと思う」。

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 47

教員のコメント (発表者の期待)

- ・発表者が期待する教員のコメントとは、
  - ・学生の自己評価の確認および(誤りがあれば)修正
    - ・ただし、現時点では、システム上、誰のコメントが分からない?
  - ・修正した場合、その評価が妥当だと考えた根拠
  - ・成長するには何が必要か(改善点)
    - ・学生が提示する自己省察・自律的な学修について、
      - ・適切だと考えるのなら、そのことを指摘した上で、自律的な学修につなげるように促す。
      - ・不適切だと考えるのなら、修正のヒントを与える。

2025/9/9 田中正弘 (筑波大学) 48

## 参考：旧アンケートでの教員コメント（1/2）

- 旧アンケート（授業改善アンケート）の教員のコメントは個々の学生に向けたものではない。
- 参考までに、いくつか紹介する。
  - 教員3
    - 「学生からのコメントで、板書が見づらいという声が多くありました。次年度に向け、パワーポイントを活用する等改善を行ってまいります。授業の難易度やスピードは評価されているため、引き続き継続したいと思います。」

改善すべき点・継続すべき点がそれぞれ明示されている。

## 参考：旧アンケートでの教員コメント（2/2）

- 教員5
  - 「「目標理解」については毎年初回授業で本授業の目標を伝えているが、初回だけでなく、毎授業ごとに目標を設定して、伝えてから授業に入るという方法もできそうなので、取り入れてみたい」。
- 教員4
  - 「前年度までの学生からのコメントを踏まえ、問題演習と解説を充実させました。その結果、理解配慮、満足度、成長実感のスコアが前年度より向上しました。解説の充実を試みた一方、優秀な学生には退屈であったようなので、学生の声を聞きながらバランスを次年度から調整します」。

## まとめ

## まとめ（1/2）

- 学修ポートフォリオのメリット
  - 学修過程を評価できること
- なぜ学修過程を評価するのか？
  - 学生が自己省察に基づく自律的な学修をできるようになるため。
- なぜ自律的な学修が必要なのか？
  - 「人生100年時代 → 生涯を通じて切れ目なく学び、全ての人が活躍し続けられる社会へ」（中央教育審議会 2018）転換するため。

出典：中央教育審議会大学分科会将来構想部会（2018）「今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ【概要】」、1頁

## まとめ（2/2）

- 自律的な学修は正しい自己省察に基づく。
- 正しい自己省察はできるだけ客観的に行うべき。
- 客観性を高めるために、評価基準を（ループリックとして）定め、教員や同僚のフィードバックを含めるべき。
- 自己評価能力は、教員や同僚とのコミュニケーションによって鍛えられる。
- 結論：
  - 学修ポートフォリオは、コミュニケーションツールの要素が不可欠である。

ご清聴ありがとうございました。

令和7年4月11日

## 令和7年度 名城大学新任教員向け FD・SD 研修のご案内【4月11日修正】

名城大学では、新たに本学に採用される教員および学内の希望者を対象に、FDおよびSDの研修を行います。本研修は、全国私立大学FD連携フォーラム（JPF）による「実践的FDプログラム」を通じて、オンデマンド形式で実施します。研修では、以下に示す「FD」の中から1講義以上、「SD」の中から1講義以上の計2講義以上を必ず受講し、本学の教員として必要な基本的知識の獲得とスキル向上に努めてください。9月に本研修にアンケート調査を行いますので、ご協力をお願いいたします。

### 1. 受講対象の講義

区分	講義名
FD	「教授学習理論Ⅰ／Ⅱ」、「教育方法論Ⅵ」、「授業設計論Ⅰ」、「教育評価論Ⅰ～Ⅱ」
SD	「高等教育論Ⅰ～Ⅵ」、「心理学Ⅰ～Ⅳ」、「研究のアウトリーチ活動Ⅰ」

※受講の例：FD区分から「教授学習理論Ⅰ」、SD区分から「高等教育論Ⅰ」を受講

### <推奨講義>

- ・他大学等の教育経験あり：「教授学習理論Ⅰ／Ⅱ」と「高等教育論Ⅳ」
  - ・他大学等の教育経験なし：「授業設計論Ⅰ」と「高等教育論Ⅳ」
- ※学内教職員の希望者は、興味・関心のある講座のみを自由に受講してください。

### 2. 受講期間

本案内到着日～9月12日（金）まで

### 3. オンデマンド講義へのアクセス方法および視聴手順

別紙のとおりです。

#### 【重要・期日厳守】多要素認証の設定について※

本研修受講には立命館大学のmanaba+Rシステムへのログインが必要です。昨年度は多要素認証未設定のため受講できない事例が多発しました。必ず4月30日（水）までに多要素認証を設定してください。期日までに設定しない場合、システムへのアクセス制限が発生します。設定方法は【別紙】をご参照ください。※多要素認証とは、パスワードだけでなく、スマートフォンでの確認も必要とする二重のセキュリティ対策です。短時間で完了する手続きですが、未設定の場合は研修システムに一切アクセスできません。

### 4. 今後のスケジュール

9月にGoogle Formsを通じてアンケートを依頼します。

### 5. 添付資料

- ①RAINBOWユーザーID通知書、②実践FDプログラム講義一覧、③オンデマンド講義概要一覧

#### <お問い合わせ先>

担当：大学教育開発センター 鈴木・伏屋

E-mail：[edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp](mailto:edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp)

# 令和7年度 新任教員 FD・SD 研修 実施報告

## 1. 実施概要

- ・受講者数：令和7年度採用の新任教員：29人（未登録者3人を除く）  
学内教職員（希望者のみ）：8人
- ・日 時：令和7年4月中旬～9月12日（金）まで
- ・プログラム名：全国私立大学 FD 連携フォーラム「実践的 FD プログラム」【オンデマンド】
- ・対象講義：「FD」区分の中から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上を受講

### <推奨講義>

- ・他大学等の教育経験あり：「教授学習理論Ⅰ／Ⅱ」と「高等教育論Ⅳ」
  - ・他大学等の教育経験なし：「授業設計論Ⅰ」と「高等教育論Ⅳ」
- ※学内教職員の希望者は、興味・関心のある講座のみを自由に受講

## 2. 講義別の受講者数

No	講義名	区分	テーマ	受講人数
1	高等教育論Ⅰ	SD	現代の高等教育	6人
2	高等教育論Ⅱ	SD	高等教育研究史	2人
3	高等教育論Ⅲ	SD	大学教育とFD教育	3人
4	高等教育論Ⅳ	SD	大学評価論	12人
5	高等教育論Ⅴ	SD	高等教育政策	0人
6	高等教育論Ⅵ	SD	初年次教育の動向	0人
7	教授学習理論Ⅰ／Ⅱ	FD	学生が主体的に学ぶための授業設計	16人
8	教育方法論Ⅵ	FD	情報活用基礎	2人
9	授業設計論Ⅰ	FD	大学の授業の設計	9人
10	教育評価論Ⅰ	FD	成績評価の意味と方法	2人
11	教育評価論Ⅱ	FD	目標準拠測定に基づく評価	3人
12	心理学Ⅰ	SD	青年期の心理	3人
13	心理学Ⅱ	SD	発達の原因と各段階の特性	3人
14	心理学Ⅲ	SD	臨床心理学の基礎と応用	2人
15	心理学Ⅳ	SD	発達障害のある学生の学び－自閉スペクトラム症を中心に－	5人
16	研究のアウトリーチ活動Ⅰ	SD	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	9人

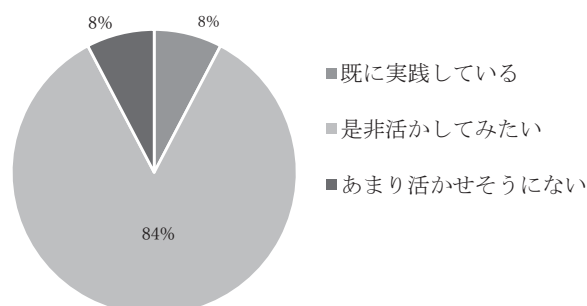
### 3. アンケート内容および結果 ※新任教員の回答のみをご紹介します

- ・実施方法：Google フォーム
- ・回答率：92.8%
- ・アンケート結果

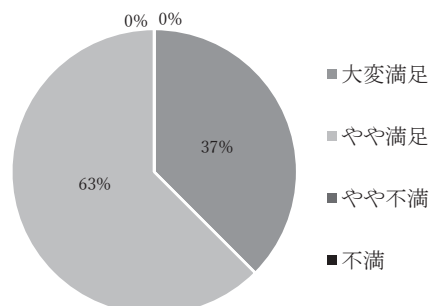
①印象に残った講義を教えてください。②その講義が印象に残った理由を教えてください。

講義名	理由
高等教育論Ⅳ	IRの推進や内部質保証のための取り組みが他大学も含め苦慮している点
	立命館大学は私の母校であり、学生として学んでいた経験に加えて、自分の母校が学びの質を保証するためにどのような取り組みをしていたのかということ、教員の目線から拝聴することができたことが感慨深かった。
教授学習理論Ⅰ／Ⅱ	授業の内容、難易度、到達目標をどのように設定するか毎年悩むが、学生の受講のモチベーションに関わることなので、その点を考慮したいと思った。
	自身の授業設計に採り入れるべき点が多く見つかったため。
	動画では、授業設計の実際について、ガニエの9教授事象などの理論が紹介され、具体的に説明がなされた。自身の授業について、講座をもとに振り返り、今後の授業運営について改めて考えるきっかけとなったため。
授業設計論Ⅰ	DP、CP、APの意味合いについて今まで漠然としたイメージを抱いていたが今回の講座でしっかりと理解することができた。
	シラバスやルーブリックの作製のコツと学生への開示の有効性
教育評価論Ⅰ	これまでに立てた学習到達目標と成績評価について必ずしも連動できていなかったため。
心理学Ⅰ	青年期のパーソナリティや認知発達など特徴から見ると、普段接触している学生のことをよく理解できるようになり、そして対応の仕方にも工夫できるかと思うようになりました。
	心理学に興味があり、とても理解しやすい講義だったため。
心理学Ⅲ	学生への対応に悩むことは多い。これで対応策がわかったわけではないが、対応に関する一つの知見が得られたことは大きい。
研究のアウトリーチ活動Ⅰ	アウトリーチ活動の一つとしてボードゲームを作成して販売する事例には感銘を受けた。
	研究者が自分たちの研究内容や成果を、学術界の外の人々に分かりやすく伝えて活用してもらう意義がわかったから。
	研究のアウトリーチ活動の歴史、その工夫を感じられたため
	アウトリーチ活動自体イメージがなかったが具体的な話が多かったので。

③新任教員FD・SD研修で学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしたいと感じましたか。



④新任教員FD・SD研修の満足度について教えてください。



⑤新任教員FD・SD研修全体をより良くするための提案や意見があればご記入ください。

- ・立命館大学のコンテンツを利用しているが、本学でもこのようなコンテンツが増えたらよいですね。センターが忙しくなりますが。
- ・研修のご案内時にアンケートも送付していただきたかったです。研修自体は案内をいただいた4月に受講していましたが、9月に受講講義名を覚えていることは難しいです。受講してすぐに答えられるようにしていただけると助かります。
- ・名城大学の授業アンケートで評価が高い教員の授業のやり方を聞くというのは良いと感じる。
- ・一般的な話は机上の空論感があって実際の現場との乖離を感じた。実際の話が多いと取り入れやすいと思う。
- ・実際の実践効果をデータとして取り入れる工夫
- ・ビデオより冊子の方が良いと思います。

# 令和7年度 前期科目別学修振り返りアンケート 開講学部別・学科別 集計結果

## 【全体】

集計授業数

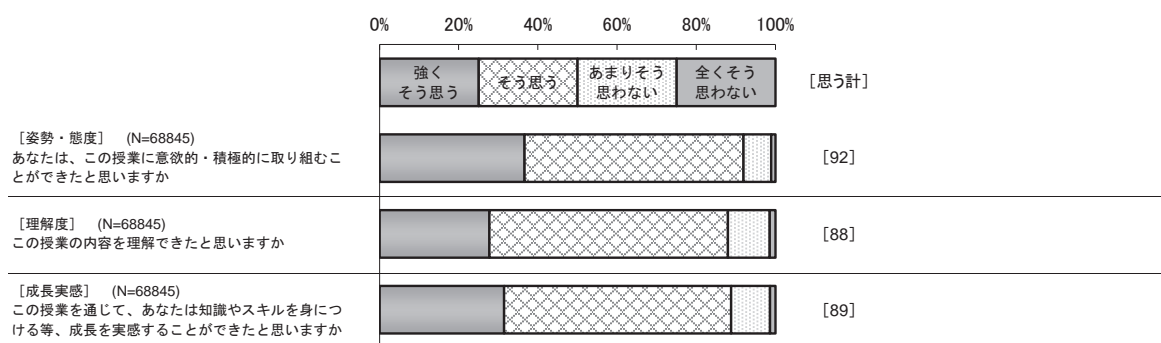
常勤	1,128
非常勤	1,008
合計	2,136

設定授業における総履修者数（延べ） 138,410人

アンケート回答者数（延べ） 68,845人

アンケート回答率 50%

## ■アンケート設問項目 集計

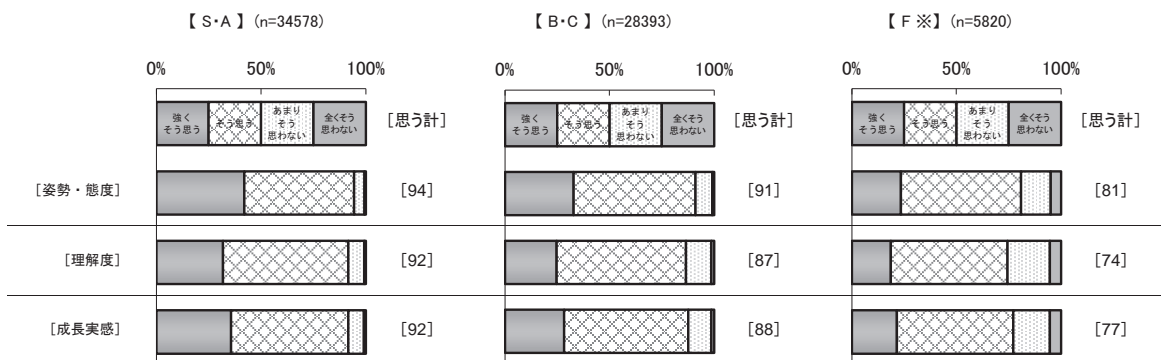


## 【自学自習時間】

この授業のために1週間あたり授業外でどのくらい勉強をしましたか。例えば、以下のものは授業外の勉強に該当します。  
(・授業の予習・復習 ・授業の課題 ・授業に関わる読書(テキスト・参考文献以外も含む) ・授業に関する友人との議論)

	N	週3時間以上	週1時間-3時間未満	週30分-1時間未満	週30分未満	勉強していない
令和7年度前期	68845	6	24	29	26	15

## ■アンケート設問項目 成績別集計



※Fには欠格・欠席・不正行為・成績未確定・休退学を含みます

## 【自学自習時間】

	【S・A】 (%)						【B・C】 (%)					【F】 (%)						
	n	週3時間以上	週1時間-3時間未満	週30分-1時間未満	週30分未満	勉強していない	n	週3時間以上	週1時間-3時間未満	週30分-1時間未満	週30分未満	勉強していない	n	週3時間以上	週1時間-3時間未満	週30分-1時間未満	週30分未満	勉強していない
令和7年度前期	34578	7	23	29	26	16	28393	6	24	30	27	13	5820	6	22	30	27	16

# 令和7年度 後期科目別学修振り返りアンケート 全学部 集計結果

## 【全体】

集計授業数

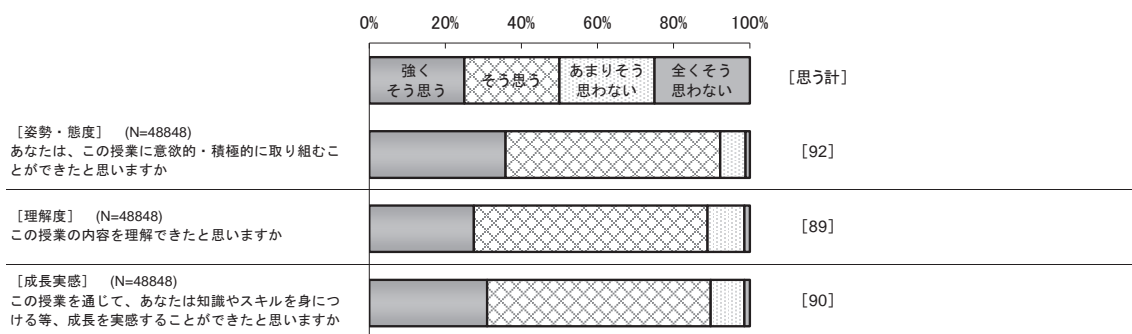
常勤	1,223
非常勤	986
合計	2,209

設定授業における総履修者数（延べ） 129,646人

アンケート回答者数（延べ） 48,848人

アンケート回答率 38%

## ■アンケート設問項目 集計



## 【自学自習時間】

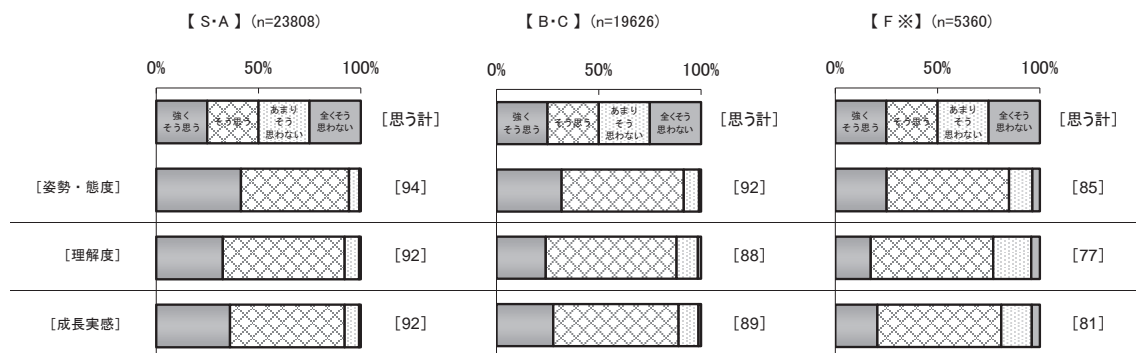
(%)

この授業のために1週間あたり授業外でどのくらい勉強を  
しましたか。例えば、以下のものは授業外の勉強に該当し  
ます。

(・授業の予習・復習 ・授業の課題 ・授業に関わる読  
書(テキスト・参考文献以外も含む) ・授業に関する友  
人との議論)

	N	週3時間 以上	週1時間 - 3時間 未満	週30分 - 1時間 未満	週30分 未満	勉強して いない
令和7年度 後期	48848	6	21	29	28	15

## ■アンケート設問項目 成績別集計



※Fには欠格・欠席・不正行為・成績未確定  
・休退学を含みます

## 【自学自習時間】

	【S・A】 (%)						【B・C】 (%)						【F】 (%)					
	n	週3時間 以上	週1時間 - 3時間 未満	週30分 - 1時間 未満	週30分 未満	勉強して いない	n	週3時間 以上	週1時間 - 3時間 未満	週30分 - 1時間 未満	週30分 未満	勉強して いない	n	週3時間 以上	週1時間 - 3時間 未満	週30分 - 1時間 未満	週30分 未満	勉強して いない
令和7年度 後期	23808	6	21	28	29	16	19626	6	21	29	29	15	5360	8	25	29	25	14

**4. 令和7年度  
各学部・研究科等における  
FD・SD 活動報告**



## 各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部・研究科	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD・SD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員（教務委員、学生委員の兼任を含む）、FD・SD 委員
法学研究科	FD・SD 研究会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD・SD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、キャリア委員、教務委員、大学教育開発センター委員、担当委員
経営学研究科	研究科委員会	経営学研究科長、主任教授、経営学部協議員、経営学研究科長が指名した者
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、協議員、経済学科長、産業社会学科長、教務委員
経済学研究科	経済学研究科 FD・SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	理工学部 教育改善委員会	委員長、学科委員（11名）、教養教育委員、物理教室委員、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
理工学研究科	理工学研究科 教育改善委員会	委員長、専攻委員（11名）、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
農学部	農学部 FD・SD 委員会	農学部 FD・SD 委員を中心とする農学部関係教職員（生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づける）
農学研究科	農学研究科 FD・SD 委員会	農学研究科大学院運営委員会（農学研究科主任教授、農場長、生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農学部学務担当職員で構成）
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、臨床教育・研究推進センター長、前 FD・SD 委員長、教務係事務職員 1 名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD・SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD・SD 委員 2 名、各専修分野長、大学院担当事務職員 1 名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD・SD 委員会	委員長、委員 4 名、担当事務職員 1 名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長（主任教授）、委員 5 名、担当事務職員 1 名
人間学部	人間学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、FD・SD 委員（3名）、教務事務職員 1 名
人間学研究科	人間学研究科 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長（主任教授）、FD・SD 委員（2名）、教務事務職員 1 名
外国語学部	外国語学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員会委員長、FD・SD 委員会委員（教員 3 名 + 事務職員 1 名）
情報工学部	情報工学部 FD・SD 委員会	委員長（協議員）1 名、委員 4 名、担当事務職員 1 名
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎志村ゆず教授 ○神藤定生准教授 伊藤康児教授 木村美奈子教授 衣斐大祐准教授
教職センター	教職センター FD・SD 委員会	木村美奈子（教授・大学教育開発センター委員会委員） 谷口正明（教授・教職センター）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 法学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

令和7年度においては全学的な共通テーマである「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」をふまえ、前年度と同様、「学生の現況にかかる情報、ならびに授業運営の知識と経験の共有化を図ることで、教育の改善と充実を目指す」という活動目標を法学部として掲げ、その実行にあたった。以下、法学部における各種の取り組みならびに取り組み予定について報告する。

### 1) 初年次教育研究会の開催 (FD/SD)

法学部では、質の高い初年次教育のあり方を集中的に議論するための研究会（初年次教育研究会）を10年前から定期的で開催しており、一定の成果を挙げている。2月26日に開催された研究会においては、a) 学部におけるFD・SD活動の検証と課題抽出、b) 初年次教育科目にかかるアクティブラーニング手法の開発、を念頭におき、遠隔授業の授業展開の手法と外部機関を用いた調査の分析結果について議論を重ねた。

### 2) 小論文課題の実施と講評会の開催 (SD)

初年次教育を充実させる施策の一環として、初年次生を対象にした小論文課題を10月24日に実施し、その講評会を12月26日に開催した。また、振り返り学習を可能にするために、webclassによる教材提供を行った。

### 3) 外部機関を用いた学生意識調査の実施 (SD)

大学教育開発センターの協力を得て、ベネッセiキャリアが提供するGPS-Academicを実施した（1年次：4～6月、3年次：9～11月）。これらのデータは演習担当の教員に提供されてよりきめ細かい指導の材料にされたほか、成績不振学生を対象とした修学指導にも活用された。

### 4) 新任教員との意見交換会の実施 (SD)

新任教員が抱える困難を把握すること、ならびに中堅・ベテラン教員のアンラーニングを図る為の材料を得ること、この2点を目的とした新任教員との意見交換会を7月22日に実施した。

### 5) 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について (FD/SD)

学部にかかる授業科目のGP分布を算出し、現状について周知を行い、授業方法の改善とGPの制度設計のあり方について意見交換を行った。とりわけ同一科目で担当者が異なる場合についての望ましいあり方、ならびに講義科目と演習科目におけるS評価のあり方について、より具

体的な議論を行い、意識を共有した。

## 2. 今後の課題、方向性

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心としたFD・SD活動が定着しており、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。したがって、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。ただし、FD・SD活動を組織的かつ系統的なものとし、学部での定着を図るため、FD・SD委員会の運用を改善する試みが必要であると思われ、2023年度からその取り組みを開始している。また、高校における新学習指導要領に対応した授業運営のあり方について議論を積み重ねていくことも、直近の課題として取り組んでいるところである。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月10日 ～6月20日	GPS-Academicの実施（1年次対象）	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
2	令和7年4月11日	FD・SD活動計画の策定ならびに役割分担にかかる検討〔第1回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名
3	令和7年6月23日	新任教員との意見交換会実施についての検討〔第2回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名
4	令和7年7月22日	新任教員との意見交換会	SD	仁井田、滝谷、山岡、金、後藤、 馮 計6名
5	令和7年8月17日	成績評価基準の平準化に係る検討〔第3回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名
6	令和7年9月1日	入学前教育のあり方にかかる検討〔第4回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名
7	令和7年9月10日 ～11月22日	GPS-Academicの実施（3年次対象）	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
8	令和7年9月18日	授業運営のあり方という観点からの成績評価基準の平準化に係る検討	FD	伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、仮屋、 河北、北見、近藤、庄村、西村、 二本柳、長谷川、日比野、前田、 松田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、 渡邊、川原、金、笹岡、代田、滝谷、 仁井田、濱村、見崎、薬袋、矢嶋、 山岡、馮、久米、高橋、佐藤、森 計34名
		GPのより良い制度設計についての検討	SD	
9	令和7年12月19日	オープンバッジ申請にかかる検討〔第5回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
10	令和7年12月26日	小論文講評会の実施	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
11	令和8年1月8日	初年次教育研究会のテーマにかかる 検討〔第6回FD・SD委員会（メール 審議）〕	FD	仁井田、滝谷、松本、西村、代田 計5名
12	令和8年2月26日	遠隔授業を展開するにあたっての現 状と課題にかかる検討（初年次教育 研究会）	FD	伊川、仮屋、河北、久米、近藤、 高橋、佐藤、山岡、庄村、松本、 植木、二本柳、森、仁井田、西村、 足立、滝谷、仲、長谷川、渡邊、 野口、矢嶋、柳沢（雄）、柳澤（武）、 薬袋、石山 計26名
		GPS-Academic 結果分析から読み取 ることのできる新入生の変化にかか る検討（初年次教育研究会）	SD	

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### （1）修士論文指導の振り返り

7月24日（木）、修士課程の9月修了者の口頭試問が1名あったことを受けて、指導教授から、修士論文の研究指導について振り返りの報告が行われた。社会人入学者の修士論文作成について、税理士業務の実務に携わっている長所がある一方、法理論に必ずしも通暁していないという課題が改めて指摘され、それを意識した指導が必要である旨が確認された。

2月4日（水）、5日（木）に修士論文の口頭試問があったことを受けて、2月12日（木）指導教授から、修士論文の研究指導について振り返りの報告が行われ、副査から、とくに法学部出身ではない学生に対する大学院での指導を踏まえた所感が述べられた。

### （2）修士論文中間報告会

9月12日（金）、修士課程2年の学生4名が、修士論文のテーマに関する判例を挙げて分析する形で報告を行った。ひきつづき、参加した教員・学生と報告者の間で質疑応答が行われた。最後に、研究科委員会FD・SD部会として、中間報告会の意義が確認された。9月18日（木）のFD・SD部会において、その内容が報告され、情報の共有が図られた。

### （3）大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用の検討・改革

一昨年度、従来の論文試験2科目と外国語1科目による試験およびその名称を、「専修科目」1科目・「選択科目」1科目の「筆記試験」に改めたことをうけて、当面の間、面接試験の運用について検討を加えることとした。これに合わせて、面接官の人数および構成について、従来の2名から「2名または3名」に変更するとともに、外国語を選択科目とした受験者の面接官のうち1名は、受験者が選択した専修科目以外の担当教員とすること、面接官の人数および構成は、専修分野の意思を尊重のうえ、研究科長・大学院主任教授・専修科目担当教員の合意に基づくことを決定している。今年度も、この運用について検討を加える。

### （4）社会人および博士課程の面接試験の運用の検討

今年度、複数の社会人受験および数年ぶりに博士課程の面接試験があったことをうけて、面接試験の運用の検討が行われた。社会人としての経歴、および、法学研究科での専攻との関連性を確認したうえで、アドミッションポリシーに即して、とくに博士論文を完成させる適性があるかに重点を置いて面接が行われた旨が確認された。

## 2. 今後の課題、方向性

### (1) 修士論文中間報告会

今年度は報告者が4名となったため、報告および質疑応答の時間を1名45分とした。質疑への応答に時間を要する場面や、質疑が重なりタイムコントロールが必要な場面もあったが、今後の修士論文作成および面接にあたって有意義な質疑応答が行われていたと評価できる。

### (2) 大学院法学研究科の面接試験の運用の改革

今年度も2名から3名の面接官による面接試験が行われたが、複数の社会人および博士課程受験者があったことが特徴であった。来年度、入学した社会人および博士課程学生の学修のあり方を確認したうえで、今後の運用を検討することになる。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年7月24日	・修士論文指導の振り返り	FD	伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、北見、近藤、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 萩野、長谷川、日比野、前田、松田、 松本、渡邊、川原、金、笹岡、代田、 滝谷、仁井田、濱村、見崎、薬袋、 山岡 計31名
2	令和7年9月12日	・修士論文中間報告会	FD	中間報告会：前田（研究科長）、 渡邊（主任教授）、伊川（指導教 員）、北見、河北、石山 計6名 （大学院生9名も参加）
3	令和7年9月18日	・修士論文中間報告会のあり方につ いて ・修士論文指導のあり方について	FD	伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、近藤、 日比野、前田、松田、松本、柳澤（武）、 渡邊、仮屋、河北、庄村、西村、 長谷川、川原、金、笹岡、代田、 滝谷、仁井田、濱村、見崎、薬袋、 矢嶋、山岡 計26名
4	令和7年10月2日	・大学院法学研究科修士課程一般入 学試験の面接試験の運用について	SD	伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、北見、近藤、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 萩野、長谷川、日比野、前田、松田、 松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、渡邊、 川原、金、笹岡、代田、滝谷、 仁井田、濱村、見崎、薬袋、矢嶋、 山岡、山下 計35名
5	令和8年2月12日	・修士論文指導の振り返り ・大学院法学研究科修士課程社会人入 学試験の面接試験の運用について ・大学院法学研究科博士後期課程試 験の面接試験の運用について	FD SD	伊川、伊藤（亮）、植木、仮屋、 河北、川元、北見、近藤、庄村、 高松、西村、二本柳、野口、萩野、 長谷川、日比野、前田、松田、松本、 柳澤（武）、柳沢（雄）、渡邊、川原、 金、代田、仁井田、滝谷、見崎、 薬袋、矢嶋、山岡 計31名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### ①学修成果を可視化する取組

- ・2025年度第1回経営学部FD・SD委員会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」を実施することを決定した。
- ・2025年度第3回経営学部FD・SD委員会、および、2025年度第6・7回経営学部FD・SD研修会において、2024年度の「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施結果の振り返りを行うとともに、併せて、2025年調査の実施形態、実施体制、周知方法について決定した。
- ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC他の各種資格取得を促している。
- ・専門ゼミナール単位で、インゼミ他の学外イベントに参加することを支援している。

### ②学部独自の取組

#### (i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援により、経営学部独自の取り組みとして、「学外での活動を通じた就業力育成事業」、「多様性への認識・理解促進のための取り組み」、「アルムナイ（OB・OG）との関係強化と大学ブランディング活動を通じた自校教育の促進」、「『産官学』連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出」、および、学部横断的な取り組みとして、「経営学部・経済学部連携による産業遺産・産業集積を活用した新たなビジネスモデルと地方創生の取組」など、学生の主体的な学びや多様な学修経験に資する各種の事業を推進している。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで企業訪問等を行う予算を、実験実習費で措置している。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで企業の方を外部講師として招く等の予算を、実験実習費で措置している。
- ・基礎ゼミナールの一部において、FSP講座を導入し、入学初年度から、実際の企業の現場での課題に触れる機会を持ち、大学での学びについて主体的に考えるよう促している。
- ・FSP講座4社の協力により「基礎ゼミナール」(1年配当)4クラスで実施した。
- ・産学連携授業となる「キャリア特論」と「愛知県社会保険労務士会寄附講座」をそれぞれ隔年で開講し、実践的な能力と広い視野を持った人材の育成に努めている。

(ii) 将来構想検討委員会の設置

- ・学部の将来構想を立案し、その将来構想のもとで質の高い教育を実現するカリキュラムの策定を行うために将来構想検討委員会を設置し、新カリキュラムの導入に向けた準備を進めている。

## 2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする（特定の個人に依存しない）制度的な受け皿の形成が課題となっている。さらに、学部の取組については、今後もPDCAサイクルを推進する組織として、FD・SD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育についてFD活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD委員（オブザーバーとして事務長）をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部のGP/FD・SD活動の年度計画についてPDCAサイクルを回すとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	【教授会】 第1回 令和7年4月10日	2024年度 春期海外語学実習の単位認定について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑
		障がい等を理由とする修学支援の配慮について	SD	
2	【FD・SD研修会】 2025年度 第1回 令和7年4月10日	2025年度 経営学部「学びのコミュニティ創出支援事業」各種プログラムのご案内	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑
3	【教授会】 第2回 令和7年4月24日	2025年度前期 資格等による単位認定について、2025年度 簿記・会計特別入試による入学者の単位認定について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：橋場、関、田中、中川には別途資料配布)
		障がい等を理由とする修学支援の配慮について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【FD・SD 研修会】 2025年度 第2回 令和7年4月24日	各種「学びのコミュニティ創出支援事業」について、2025年度キャリア特論開講のご報告とお願いについて、2025年度東邦高校生によるゼミ参加型学習の開催について、2025年度第1回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会開催について、TAC・日本商業教育振興会共催講座について、FSPについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、桑島、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：橋場、関、田中、中川には別途資料配布）
5	【教授会】 第3回 令和7年5月8日	定期試験の実施方法及び試験アンケートについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：東には別途資料配布）
6	【教授会】 第4回 令和7年5月22日	2025年度 前期開講「遠隔授業科目」への変更について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：堀川には別途資料配布）
7	【FD・SD 研修会】 2025年度 第3回 令和7年5月22日	各種「学びのコミュニティ創出支援事業」について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、深川、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：堀川には別途資料配布）
8	【教授会】 第5回 令和7年6月12日	大学設置基準に基づく「2025年度基幹教員調査」の実施について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑
9	【FD・SD 研修会】 2025年度 第4回 令和7年6月12日	各種「学びのコミュニティ創出支援事業」について、2025年度東邦高校生によるゼミ参加型学習の開催について、2025年度第1回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会開催について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
10	【教授会】 第6回 令和7年6月26日	令和8年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について、令和7年度学業優秀奨学生候補者の推薦について／令和7年度学業優秀奨励制度配分数の決定及び候補者の推薦について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：田中には別途資料配布)
11	【教授会】 第7回 令和7年7月10日	交換留学生（派遣）帰国後の単位認定（案）、令和7年度前期シラバスに記載したフィードバックの実施について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：田中には別途資料配布)
12	【FD・SD研修会】 2025年度 第5回 令和7年7月10日	各種「学びのコミュニティ創出支援事業」について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：田中には別途資料配布)
13	【教授会】 第8回 令和7年7月24日	令和7（2025）年度夏期海外英語研修実施に伴う単位認定の検討について、交換留学生（派遣）帰国後の単位認定（案）について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：東田、堀川には別途資料配布)
		障がい学生の定期試験上の配慮のお願いについて（追記案）	SD	
14	【教授会】 第9回 令和7年9月4日	9月卒業判定について、9月卒業者学位記受領代表者の選考について、交換留学生（派遣）帰国後の単位認定（案）について、2025年度後期資格等による単位認定について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：新美、田中、東田、堀川には別途資料配布)
		障がい等を理由とする修学支援について	SD	
15	【教授会】 第10回 令和7年9月18日	履修者5名以下クラスの取り扱いについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：堀川には別途資料配布)
		障がい等を理由とする修学支援について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
16	【FD・SD研修会】 2025年度 第6回 令和7年9月18日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について、2024年度 PROG テストの実施結果について、2025年度 PROG テストの実施について、各種「学びのコミュニティ」実施報告について、2025年度第2回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会開催について、FSPについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：堀川には別途資料配布)
17	【教授会】 第11回 令和7年10月2日	2025年度 後期 試験アンケートについて、2025年度 後期 試験監督について、【2024年度以前入学生対象】グレード（段階）履修科目の一部変更について、令和7年度 教養教育部門カリキュラム編成状況調査の実施について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：田中、山本には別途資料配布)
18	【教授会】 第12回 令和7年10月16日	入学者受け入れ方針（AP）と令和8年度入試方式との対応表の更新について、転学部・編入学生に対する単位認定の取り決め事項について、2026年度 編入学試験入学前修得単位認定（案）について、2026年度 転学部等試験内容について、経営学部における欠席届の扱いについて、「試験監督者へのお願い」の改訂について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、澤田（慎）、新美、村上、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：東、関、桑島には別途資料配布)
		母校訪問について	SD	
19	【FD・SD研修会】 2025年度 第7回 令和7年10月16日	2025年度 PROG テストの実施について、2026年度社会人基礎力測定検査の実施について、2025年度キャリア特論について、2025年度第2回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会開催について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、澤田（慎）、新美、村上、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：東、関、桑島には別途資料配布)
20	【教授会】 第13回 令和7年11月13日	指定校推薦及び附属高校特別推薦での口頭試問について、令和9年度入学試験基本事項の変更について、「海外語学実習」の単位認定について、2025年度夏季インターンシップにおける単位認定について、令和8年度ノルマ表（曜日時限有）について、経営学部における欠席届の扱いについて、2026年度用シラバス作成のお願い、2026年度「基礎ゼミナール」の統一シラバスについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 (委任者：関、田中には別途資料配布)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
21	【教授会】 第14回 令和7年11月27日	令和9年度入学試験基本事項の変更について（継続）、2025年度後期（経営学部）試験監督者へのお願いについて、2025年度修学指導について【結果報告】、愛知学長談話会 令和8年度単位互換事業について、2026年度自動履修登録科目・履修調整科目・他学部他学科履修許可科目について、2026年度経営・経済学部間【2024年度以前入学生】の他学部履修受け入れについて	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：中川には別途資料配布）
22	【教授会】 第15回 令和7年12月11日	令和8年度開講授業における対面/遠隔並行授業を試行する科目の選定等について、来年度履修登録等に係る学生への周知文（案）について、令和7年度後期シラバスに記載したフィードバックの実施について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、東、澤田（慎）、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：柳田、新美、田中には別途資料配布）
23	【教授会】 第16回 令和8年1月15日	令和7（2025）年度春期海外英語研修実施に伴う単位認定の検討について、令和7（2025）年度春期海外ボランティア・インターンシップinセブ実施に伴う単位認定の検討について、2026年度単位認定申請について、2026年度他学部他学科履修許可科目一覧（案）について、シラバスの校正について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：長尾、堀川には別途資料配布）
24	【FD・SD研修会】 2025年度 第8回 令和8年1月15日	「2025年度企業と名城大学の先生を繋ぐ企業訪問」について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：長尾、堀川には別途資料配布）
25	【教授会】 第17回 令和8年1月29日	2026年度から開講の新規科目について、2026年度新入生オリエンテーション等案について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：長尾には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
26	【教授会】 第18回 令和8年2月13日	2026年度経営学部時間割（案）について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：村松には別途資料配布）
27	【FD・SD 研修会】 2025年度 第9回 令和8年2月13日	2026年度名城大学開学100周年記念公開講座について、社会連携センター「学内で実施されている社会連携事業に関する調査」の結果共有について、「2025年度企業と名城大学の先生を繋ぐ企業訪問」（3月5日（木））について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、山岡、西野、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：村松には別途資料配布）
		経営学部におけるハラスメント防止について	SD	
28	【教授会】 第19回 令和8年2月27日	2026年度 転学部等試験の判定について、令和7年度3月卒業判定について、オフィスアワーについて、経営学部における第2外国語教育のあり方について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、田中、中川、西垣、東田、堀川、村松、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：澤田（慎）、新美、山岡、西野には別途資料配布）
29	【教授会】 第20回 令和8年3月2日	経営学部における第2外国語教育のあり方について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、村上、関、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、山岡、村松、山本、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：新美、田中、堀川、西野には別途資料配布）
30	【教授会】 第21回 令和8年3月12日	簿記会計特別入試の単位認定の変更について、2026年度用 経営学部カリキュラム表について、2026年度学びのコミュニティ創出支援事業の審査結果及び予算措置について	FD	相川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、桑島、澤田（貴）、高山、中川、西垣、東田、山岡、村松、楯、森田、金丸 ※在外研究員：五十畑 （委任者：関、田中、堀川、西野、山本には別途資料配布）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### ①研究科独自の取組

・2025年11月6日（木）に修士論文事前報告会を実施。

## 2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、国内外の説明会を実施した。また、学生確保に向けて、留学生の日本語運用力向上の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。以上に加え、2026年3月に開催予定の中部地区大学院商学・経営学系研究科連絡協議会の場を利用して、他大学院における学生確保や教育の質向上のための先進的な取り組みについて情報収集に努める。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【研究科委員会】 令和7年4月10日	2025（令和7）年度経営学研究科修士課程指導教員について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、田中、 鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、 東田、堀川、柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 深川、森田
2	【研究科委員会】 令和7年4月24日	大学院の収容定員充足率向上に向けた「ヒアリング調査」の実施に係る学生の推薦について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、 長尾、西垣、東田、堀川、柳田、 山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 深川、森田 (委任者：田中、中川、橋場には 別途資料配布)
3	【研究科委員会】 令和7年5月8日	2025年度 第1回 大学院説明会について	FD	相川、澤田（慎）、澤田（貴）、高山、 田澤、田代、田中、鳥居、長尾、 中川、西垣、橋場、東田、堀川、 柳田、山本 ※在外研究員：五十畑 深川、森田 (委任者：東、瀬川、山岡には別 途資料配布)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【研究科委員会】 令和7年5月22日	大学院担当資格基準の改正案について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、田中、 鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、 東田、柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 深川、森田 (委任者：堀川には別途資料配布)
5	【研究科委員会】 令和7年6月12日	令和7年度 大学院学業優秀奨学生 候補者の推薦について、2025年度 前期講義「遠隔授業科目」への変更 について、大学院担当資格基準の改 正案について《継続》、大学院説明会 (学部在学生向け) の実施について	FD	相川、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、 高山、田澤、田代、田中、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、堀川、 柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：東、東田には別途資料 配布)
6	【大学院説明会】 令和7年6月19日	2025年度 第1回 大学院説明会	FD	瀬川、田澤、田代、西垣、橋場、楯、 森田
7	【研究科委員会】 令和7年6月26日	令和7年度 後期追加(変更)履修 登録について、令和8年度 学位授 与方針対応表等を用いた教育課程の 自己点検の実施について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、東田、 堀川、柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：田中には別途資料配布)
8	【研究科委員会】 令和7年7月10日	大学院説明会(海外指定校向け：対 面のみ)について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、長尾、 中川、西垣、橋場、東田、堀川、 山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：田中、鳥居、柳田には 別途資料配布)
9	【大学院説明会】 令和7年7月14日	第1回(海外指定校向け) 大学院説 明会	FD	西垣、橋場、楯、森田
10	【研究科委員会】 令和7年7月24日	大学院説明会(海外指定校向け：対 面のみ) 実施報告	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、田中、 鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、 柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：東田、堀川には別途資 料配布)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	【研究科委員会】 令和7年9月4日	令和7年度 修士学位論文審査日程 について、2025年度 第2回 大学 院説明会について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、柳田、 山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：田中、東田、堀川には 別途資料配布)
12	【研究科委員会】 令和7年9月18日	2025（令和7）年度秋季入学者の経 営学研究科修士課程指導教員につ いて、2025年度経営学研究科（修 士課程）時間割変更について、令 和7年度 後期開講科目の閉講およ び履修者数について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、田中、 鳥居、西垣、橋場、東田、柳田、 山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：長尾、中川、堀川には 別途資料配布)
13	【大学院説明会】 令和7年9月25日	2025年度 第2回 大学院説明会	FD	瀬川、田澤、西垣、橋場、楯、森田
14	【研究科委員会】 令和7年10月2日	入学者受け入れ方針（AP）と令和8 年度入試方式との対応表の更新につ いて、2026年度 経営学研究科（修 士課程）時間割編成について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 高山、田澤、鳥居、長尾、中川、 西垣、橋場、東田、堀川、山岡、 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：瀬川、田代、田中、柳田、 山本には別途資料配布)
15	【研究科委員会】 令和7年10月16日	2026（令和8）年度 経営学研究科 （修士課程）外国人留学生指定校推薦 第一次 入学試験判定について、 2026年度 経営学研究科（修士課程） 時間割編成について《継続》、2025年 度 経営学研究科 修士学位論文事 前報告会（案）	FD	相川、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、 高山、田澤、田代、田中、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、東田、 堀川、柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：東には別途資料配布)
16	【修士学位論文 報告会】 令和7年11月6日	令和7年度 経営学研究科 修士学 位論文 事前報告会	FD	相川、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 橋場、東田、柳田、山本
17	【研究科委員会】 令和7年11月13日	2026年度経営学研究科（修士課程） 時間割案について、2026年度シラバ スの作成について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、東田、 堀川、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 (委任者：田中、柳田には別途資 料配布)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
18	【研究科委員会】 令和8年1月29日	2026年度 経営学研究科（修士課程） 時間割編成について《継続》、2026年 度 中部地区大学院単位互換制度に ついて、2026年度 国公私単位互換 制度について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、田中、 鳥居、中川、西垣、橋場、東田、 堀川、柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 （委任者：長尾には別途資料配布）
19	【修士学位論文 報告会】 令和8年2月5日	令和7年度 経営学研究科 修士学 位論文 審査	FD	相川、瀬川、高山、田代、田中、 中川、西垣、橋場、東田、堀川、 柳田、山岡
20	【研究科委員会】 令和8年2月13日	2025年度 修士学位論文合否および 修了判定について	FD	相川、東、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、田中、鳥居、長尾、 中川、西垣、橋場、東田、堀川、 柳田、山岡、山本 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 （委任者：澤田（慎）には別途資 料配布）
21	【研究科委員会】 令和8年3月12日	2026（令和8）年度9月修了 修士 学位論文審査日程（案）について	FD	相川、東、澤田（慎）、澤田（貴）、 瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、 長尾、中川、西垣、橋場、東田、 柳田、山岡、 ※在外研究員：五十畑 楯、森田 （委任者：田中、堀川、山本には 別途資料配布）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

今年度の活動目標を「学生が生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力を身に付けるために、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、10月と11月に学部3年生を対象として「PROGテスト」を実施した。

また、大学教育開発センターが開催した「授業で活用！自動採点システム体験セミナー」(8月26日)においては経済学部からは1名が、「第21回FD・SD学習会 学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」(9月9日)においては1名が、第27回FD・SDフォーラム「コンピテンシーを育成するアクティブ・ラーニング」(1月8日)においては5名が参加した。

## 2. 今後の課題、方向性

「MS-26戦略プラン（部署版）」「2025年度事業計画書（部署版）」に即した取り組みも求められている。特に「FD・SD取組を推進する組織」の中の今年度の具体的取り組み内容として、「学部教育とそれに関連する諸問題について情報の収集や意見交換、対応の協議をする」具体的には、「初年次教育の内容（レポートの書き方の指導を含む）、困難を抱える学生に提供する学習環境アクティブ・ラーニングの技法などの改善に取り組む」を明記した。これらに即したFD・SD懇談会を可能な限り進めていきたい。

学修成果を可視化する取組に基づく教育改善については、ダッシュボード掲載の各種資料とPROGテストや卒業時アンケートなどの集計結果を踏まえて学部FD・SD懇談会において報告し教育改善に結びつけることを検討する。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月16日	経済学部FD・SD委員会「研究倫理教育勉強会：日本学術振興会「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―」を用いた教育	FD	佐土井、伊藤、谷村、太田、壺内、名和（以上6名）
2	令和7年4月24日	経済学部FD・SD懇談会「研究倫理教育勉強会：日本学術振興会「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―」を用いた教育	FD	佐土井、赤木、井内、伊藤（健）、伊藤（志）、太田、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、渋井、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本（以上23名）
3	令和7年5月15日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」（新年度の修正、更新）	SD	佐土井、伊藤、谷村、太田、壺内、名和（以上6名）
4	令和7年5月23日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD取組を推進する組織について」（新年度の修正、更新）	SD	佐土井、赤木、井内、伊藤（健）、伊藤（志）、太田、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、渋井、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本（以上23名）
5	令和7年8月25日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD活動報告（中間）」の確認、「一人一人の就学意欲の向上を促す対策の検討（1）ゼミ研修・ゼミ宿泊研修の情報共有」(案)の検討	SD	佐土井、伊藤、谷村、太田、壺内、名和（以上6名）
6	令和7年8月26日	「授業で活用！自動採点システム体験セミナー」(大学教育開発センター)	FD	名和（以上1名）
7	令和7年9月4日	教授会「教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について」（成績評価（得点分布）一覧によって各科目の分布状況を共有し、個々の担当科目と他の教員の担当科目との比較を行った）	FD	勝浦、川森、斎藤、谷村、壺内、名和、西山、大瀧、松田、蓑輪、焼田、伊藤（健）、井内、加藤、蟹、渋井、門、山本、薄井（以上19名）
8	令和7年9月4日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD活動報告（中間）」の確認	FD	井内、伊藤（健）、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、斎藤、渋井、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本、薄井（以上18名）
9	令和7年9月9日	第21回FD・SD学習会「学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」(大学教育開発センター)	FD	名和（以上1名）
10	令和7年4月 ～9月12日	新任教員FD・SD研修（大学教育開発センター）	FD	加藤、山本（以上2名）
11	令和7年10月11日	経済学部FD・SD委員会「学習成果の把握に向けた外部調査の実施について」（次年度実施に向けて詳細内容を検討した）	FD	佐土井、伊藤、谷村、太田、壺内、名和（以上6名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和7年10月 ～11月	学習成果の把握に向けた外部調査 (PROGテスト)の実施	FD	佐土井、赤木、井内、伊藤(健)、 伊藤(志)、太田、大瀧、勝浦、 門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、 渋井、谷村、壺内、名和、西山、 松田、蓑輪、焼田、山本、薄井 (以上24名)
13	令和8年1月8日	第27回FD・SDフォーラム「コンピ テンシーを育成するアクティブ・ラー ニング」(大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、勝浦、谷村、名和、 壺内(以上5名)
14	令和8年1月12日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD 活動報告」の確認	FD	佐土井、伊藤、谷村、太田、壺内、 名和(以上6名)
15	令和8年1月15日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD 活動報告」の確認	FD	佐土井、赤木、井内、伊藤(健)、 伊藤(志)、太田、大瀧、勝浦、 門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、 渋井、谷村、壺内、名和、西山、 松田、蓑輪、焼田、山本、薄井 (以上24名)
16	令和8年2月16日	経済学部FD・SD委員会「PROGテ スト、卒業時アンケートから考える 経済学部の教育」	FD	佐土井、伊藤(健)、太田、名和、 壺内、薄井(以上6名)
17	令和8年2月26日	経済学部FD・SD懇談会「PROGテ スト、卒業時アンケートから考える 経済学部の教育」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、 佐土井、谷村、壺内、名和、西山、 赤木、大瀧、神野、松田、蓑輪、 伊藤(健)、井内、加藤、蟹、渋井、 太田、小泉、山本、薄井(以上23名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

今年度の活動目標を「学生が生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力を身に付けるために、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。

また、大学教育開発センターが開催した「授業で活用！自動採点システム体験セミナー」(8月26日)においては経済学部からは1名が、「第21回FD・SD学習会 学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」(9月9日)においては1名が、第27回FD・SDフォーラム「コンピテンシーを育成するアクティブ・ラーニング」(1月8日)においては5名が参加した。

## 2. 今後の課題、方向性

「MS-26戦略プラン(部署版)」「2025年度事業計画書(部署版)」に即した取組も求められている。そのため今後も、こうした点を重視した新たな取り組みを進める予定である。全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、PROGテストや卒業時アンケートを活用できる学部と異なり、研究科での手法はさらなる検討が必要であり、この点をFD・SD懇談会において追究する予定である。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和7年4月16日	経済学研究科FD・SD委員会「研究倫理教育勉強会：日本学術振興会「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―」を用いた教育	FD	佐土井、渋井、名和、壺内（以上4名）
2	令和7年4月24日	経済学研究科FD・SD懇談会「研究倫理教育勉強会：日本学術振興会「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―」を用いた教育	FD	佐土井、赤木、井内、伊藤（健）、伊藤（志）、太田、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、渋井、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本、薄井（以上24名）
3	令和7年5月15日	経済学研究科FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	佐土井、渋井、名和、壺内（以上4名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和7年5月23日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	佐土井、赤木、井内、伊藤(健)、伊藤(志)、太田、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、渋谷、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本、薄井(以上24名)
5	令和7年8月25日	経済学研究科 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告(中間)」の確認、「一人一人の就学意欲の向上を促す対策の検討(1)ゼミ研修・ゼミ宿泊研修の情報共有」案の検討	SD	佐土井、伊藤(健)、太田、渋谷、谷村、名和、壺内、薄井(以上8名)
6	令和7年8月26日	「授業で活用!自動採点システム体験セミナー」(大学教育開発センター)	FD	名和(以上1名)
7	令和7年9月4日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告(中間)」の確認	FD	井内、伊藤(健)、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、斎藤、渋谷、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本(以上19名)
8	令和7年9月9日	大学教育センター開催第21回 FD・SD 学習会「学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」	FD	名和(以上1名)
9	令和7年4月 ～9月12日	新任教員 FD・SD 研修(大学教育開発センター)	FD	加藤、山本(以上2名)
10	令和8年1月8日	第27回 FD・SD フォーラム「コンピテンシーを育成するアクティブ・ラーニング」(大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、勝浦、谷村、名和、壺内(以上5名)
11	令和8年1月12日	経済学研究科 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告」の確認	FD	佐土井、渋谷、名和、壺内(以上4名)
12	令和8年1月15日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告」の確認	FD	佐土井、赤木、井内、伊藤(健)、伊藤(志)、太田、大瀧、勝浦、門、加藤、蟹、川森、小泉、斎藤、渋谷、谷村、壺内、名和、西山、松田、蓑輪、焼田、山本、薄井(以上24名)
13	令和8年2月16日	経済学研究科 FD・SD 委員会「経済学研究科修士課程教育における、大学院生の能動的学習、アクティブ・ラーニング」	FD	佐土井、渋谷、名和、壺内、薄井(以上5名)
14	令和8年2月26日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「経済学研究科修士課程教育における、大学院生の能動的学習、アクティブ・ラーニング」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、赤木、大瀧、松田、蓑輪、伊藤(健)、井内、加藤、蟹、渋谷、太田、山本、薄井(以上21名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。さらに、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム（FD・SD フォーラム）への参加を促した。また、各学科のFD・SD 会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD・SD 会議議事録を集約した。今後、各学科FD・SD 会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、GPS-Academic、PROG テストを用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には10の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた2つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はGPS-Academic（数学科、機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科）、PROG テスト（電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科）である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD 会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断ができるように診断テストの点数により、これらの科目の活用を促すように指導した。

例年、数学相談室、物理相談室の運営状況は本委員会で報告され、実施結果等に基づき、今後の実施方法等について、検討を行っている。令和6年度において、数学相談室の利用者増加策として、1年次開講科目の「線形代数Ⅰ・Ⅱ」、「微分積分Ⅰ・Ⅱ」において、講義内にて数学相談室開室に関する周知を行うこととともに、開催場所を学生が利用しやすく目につく共通講義棟で開催するなどの対応策を講じ、利用者の増加につながった。そこで令和7年度についても、数学の習熟等に不安がある学生のサポートの一環として、1年次開講の同科目において、同様の対応策を講じた。また数学相談室の開設と基礎科目の設置による学習サポートの一定の効果により、各期での学生の数学の修得を促す定期試験の再試験とその関連作業は役割を果たしたため、令和8年度から廃止して学生が自ら行動する姿勢をサポートする形に改善した。

## 2. 今後の課題, 方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年次にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD・SDに取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要がある、今後の課題としたい。

現在、各学科のFD・SD会議は順調に機能しており、個々の課題解決に向けた検討がなされている。多様な学科から成る理工学部では、このような個別会議は重要な役割を果たす。しかし、それらを取りまとめる教育改善委員会では、共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい。

## 3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
教育改善委員会				
1	令和7年5月15日 ～5月22日 [対面・遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部令和7年度入学前オリエンテーションの担当学科について</li> <li>・令和7年度物理相談室について</li> <li>・工学系学科1年次開講クラスを対象とした数学科目の再試験廃止について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 東海林, 加城 (職員計2名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度理工学部・理工学研究科の事業計画について</li> <li>・東海工学教育協会 会員入会のご案内</li> </ul>	SD	
2	令和7年6月18日 ～6月24日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度前期数学相談室について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 中村, 名取, 西村 (職員計3名)
3	令和7年7月30日 ～8月6日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について</li> <li>・令和8年度推薦入学者向けの入学前教育(MECプログラム)の受講科目と受講推奨コース・フローチャートの検討</li> <li>・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について</li> <li>・第21回FD・SD学習会実施の案内について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 西村 (職員計2名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和7年9月18日 ～9月25日 [遠隔]	・令和8年度入学者向け附属高校入学前指導および入学前オリエンテーション学部別企画について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)
5	令和7年10月10日 ～10月20日 [遠隔]	・学修成果の把握に向けた外部調査の実施について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)
		・附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	SD	
6	令和7年11月27日 ～12月4日 [遠隔]	・令和7年度FD・SD活動報告書(最終)の作成について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)
7	令和7年12月23日 ) 令和8年1月6日 [遠隔]	・令和7年度後期数学相談室について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)
各学科 FD・SD 会議				
数学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・障がい学生に対する合理的配慮	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計20名)
2	令和7年4月24日	・要配慮学生に関する情報共有と今年度対応	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計20名)
3	令和7年6月26日	・前期数学相談会相談員について (FD)	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計20名)
		・学生不振指導について (SD)	SD	
4	令和7年7月4日	・学科科目「数学研究」のあり方について ・副専攻について	SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計20名)
5	令和7年9月4日	・成績評価基準の平準化について	FD	内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計19名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和7年11月18日	・前期科目別学修振り返りアンケート学部・学科別結果について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 剣持 (計20名)
電気電子工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月24日	・副専攻プログラムについて ・遠隔講義実施について ・連続休学期間が長い学生対応について ・学生への合理的配慮について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
2	令和7年5月22日	・副専攻プログラムについて ・フレッシュマンセミナーについて ・再試験廃止について ・PROGテストについて ・三者面談について ・修士・卒研生中間発表会について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
3	令和7年6月12日	・学業優秀学生について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
4	令和7年6月25日	・成績不振者への対応について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
5	令和7年7月24日	・遠隔講義について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 益田, 増山, 村上 (計17名)
6	令和7年8月21日	・入学前教育について ・GPAを用いた平準化について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
7	令和7年8月30日	・成績不振学生への三者面談	FD	伊藤, 今宿, 内田, 岡田, 児玉, 平松, 村田, 村本, 竹田, 田崎, 益田 (計11名)
8	令和7年9月1日	・成績不振学生への三者面談	FD	太田, 熊谷, 堀田, 村田, 山中, 小林, 増山, 村上 (計8名)
9	令和7年9月4日	・障がい学生対応について ・MATLABのデータサイエンス活用について	SD	伊藤, 今宿, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 増山 (計14名)
		・修士・卒研生中間発表会での発表賞と再発表について ・2025年度電気系教員協議会参加報告	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
10	令和7年9月25日	・成績不振者への対応について ・副専攻制度・履修証明プログラムについて	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
11	令和7年10月14日	・卒論発表会・修論公聴会の日程について ・外部調査テストについて	FD	今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
12	令和7年10月16日	・三者面談実施報告 ・LL教室の今後について ・他学部・他学科履修許可科目の確認について ・附属高校特別推薦合格者向け入学前指導	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
13	令和7年11月13日	・卒業研究中間発表再発表の実施報告 ・研究室配属日程について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
14	令和8年1月15日	・コンピテンシーを育成するアクティブラーニング	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
材料機能工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・附属高校との連絡情報交換会 ・オープンキャンパス情報交換 ・科学技術リテラシー対応の意見交換	FD	宇佐美, 上山, 服部, 関口, 赤堀, 宮嶋, 田中, 六田, 今井, 榎本 (計10名)
2	令和7年4月24日	・JABEE 審査結果の通知 ・父母のための進路セミナー対応の討議 ・入試関係 指定校推薦新規依頼, 警告文について ・遠隔講義の実施総括	FD	宇佐美, 岩谷, 上山, 竹内, 服部, 六田, 関口, 赤堀, 榎本, 田中, 今井 (計11名)
3	令和7年5月22日	・教務, カーボンニュートラル関連該当授業の調査 ・2, 3年生のグループ面談の実施計画について ・公募制推薦(併願)の英語外部試験の得点化の検討 ・数学科目再試験廃止の討議	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 岩谷, 六田, 宮嶋, 関口, 田中, 今井, 服部, 榎本, 小出, 赤堀 (計13名)
4	令和7年6月26日	・配慮学生対応の討議 ・成績不振学生対応の検討 ・学部入試, 公募制推薦入試英語の取り扱いについて	FD	宇佐美, 服部, 上山, 榎本, 竹内, 六田, 宮嶋, 赤堀, 今井, 関口, 田中, 岩谷 (計12名)
5	令和7年11月27日	・成績不振学生対応の検討 ・卒業研究配属方法の検討 ・卒業研究の進捗状況の共有	FD	宇佐美, 服部, 上山, 榎本, 竹内, 六田, 宮嶋, 赤堀, 今井, 関口, 田中, 岩谷 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
応用化学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・講義実施体制のあり方について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・学科レクリエーション実施について ・研究費用の配分について	SD	
2	令和7年4月24日	・障がい学生支援委員会について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・講義関係について ・在籍期間が長期化した学生への対応について ・学科設備の使用法について	SD	
3	令和7年5月22日	・新学科の志望制度について ・科目担当者の調整 ・転学科の募集要項の内容について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
4	令和7年6月12日	・外部評価委員会の開催について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・学科予算の配分について	SD	
5	令和7年7月10日	・非常勤講師採用の方針について ・研究費用の配分について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 谷口 (計8名)
6	令和7年7月24日	・非常勤講師の採用について ・来年度の時間割について ・科目等履修生と研究生の募集について	FD	中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計9名)
7	令和7年9月4日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討について ・新入生向けのPCの周知について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 田浦, 田中, 谷口 (計8名)
8	令和7年10月16日	・PROGテストの実施について ・来年度の時間割について ・転学部試験の改訂について ・新学科の運営について	FD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 田中, 谷口 (計9名)
		・実験室の器具の取扱について ・研究費の配分について	SD	
9	令和7年11月13日	・新学科の運営について	FD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・研究費の配分について	SD	
10	令和7年12月11日	・外部評価委員会の開催について ・卒研配属のルールについて ・MS-26の申請について	FD	中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 田中, 谷口 (計8名)
		・部屋の表示について	SD	
11	令和7年12月24日	・必修科目の履修登録について ・卒研発表のスケジュールについて	FD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・研究費用の配分について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・入試総括, 分析について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計14名)
2	令和7年4月24日	・遠隔授業実施について ・指定校推薦の見直しについて	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
3	令和7年5月22日	・教育課程の自己点検の実施について ・「機械技術者倫理」の閉講について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
4	令和7年6月26日	・成績不振者への面談指導について	FD	アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田 (計13名)
5	令和7年7月24日	・障がい学生支援について	SD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
6	令和7年9月4日	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
7	令和7年9月9日	・FD・SD 学習会「学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」参加について	SD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
8	令和7年10月16日	・転学部等試験における第二外国語の扱いについて ・令和8年度他学部・他学科履修許可科目の確認について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
9	令和7年11月27日	・シラバス表記について ・卒論発表の実施方法について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
10	令和7年12月25日	・新入生オリエンテーション・ガイダンスについて	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
交通機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・教員業績評価について	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計13名)
		・フレッシュマンセミナー実施方法について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和7年4月24日	・合理的配慮の必要な学生への対応 フローについて	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計13名)
3	令和7年5月8日	・R7年度成績不振者への対応につ いて	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計12名)
4	令和7年5月22日	・遠隔授業実施方法について ・数学科目の再試験廃止について	SD	西村, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計11名)
5	令和7年6月12日	・教員業績評価について ・学科外部評価委員の選出について	FD	西村, 中島, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計10名)
6	令和7年7月10日	・国際研修プログラムについて ・数学相談室について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計13名)
7	令和7年7月24日	・精神的問題を抱える学生への対応 について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 村尾, 山崎 (計13名)
8	令和7年9月4日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化について	FD	西村, 鈴木, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計10名)
9	令和7年9月25日	・R8年度はPROGテストからGPS- Academicへの乗り換えについて	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎, 村尾 (計13名)
10	令和7年10月16日	・障がい等を理由とする修学支援の 申し出について	SD	西村, 鈴木, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 吉田, 山崎, 村尾 (計11名)
		・外部評価委員会への対応のため教 員間ネットワークの開催について	FD	
11	令和7年11月27日	・R8年度シラバスへの必須の記載 事項(アクティブラーニングの記 載, 遠隔授業の学習期間, テキスト) について	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 吉田, 村尾 (計9名)
12	令和7年12月11日	・R8年度フレッシュマンセミナー について ・障がい等を理由とする修学支援の 申し出について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎, 村尾 (計13名)
		・教員間ネットワークについて	FD	
13	令和7年12月25日	・在学生ガイダンス(3年生)で依 頼したフォーラムエンジニアリン グによる講演のアンケート結果に ついて ・成績不振者への対応について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎, 村尾 (計13名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
14	令和8年1月15日	・R8年度シラバスチェックについて（平常点の記載方法に関する議論）	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 吉田, 山崎, 村尾（計12名）
		・数学相談室の開催（日時：2月9日10:00～, 場所：S208室）について	SD	
メカトロニクス工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年5月8日	1) 卒業研究計画発表について 2) 卒業研究の配点について 3) 副専攻について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
2	令和7年5月22日	1) メンター担当の変更について 2) 障がい学生の対応について 3) 成績入力について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
3	令和7年6月12日	1) 外部評価委員について 2) 数学再試験の廃止について 3) 学位授与方針について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
4	令和7年6月26日	1) カンニング等の不正行為について 2) TAの運用について 3) 工場利用に関する安全教育について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
5	令和7年7月10日	1) 演習系講義の実施形態について 2) 卒業研究の発表と採点について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
6	令和7年7月24日	1) 演習等におけるグループ分けについて 2) 副専攻について 3) 成績不良学生の呼び出し基準について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
7	令和7年9月4日	1) 来年度時間割について 2) 演習室の利用方法について	FD	井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計9名）
8	令和7年10月16日	1) 成績分布の平準化について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
9	令和7年11月13日	1) 学科開催の就活座談会について 2) SNSの利用と学生への周知について 3) 来年度時間割と担当科目について 4) 卒業研究中間発表の結果について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）
10	令和7年11月27日	1) 入院中の学生の取り扱いについて 2) シラバスと学生便覧について	FD	大原, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 目黒, 佐藤（計7名）
11	令和7年12月25日	1) 次年度演習内容と担当について 2) PROG テストの返却と利用について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤（計10名）

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
社会基盤デザイン工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・「フレッシュマンセミナーの実施」 について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
2	令和7年4月24日	・社会基盤デザインセミナーⅡの進 め方について ・グローバルインターンシップの実 施内容について ・入学後意識調査の結果 ・プレイスメントテストの結果	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
3	令和7年6月26日	・JABEE 中間審査に向けた対応	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
4	令和7年7月25日	・セミナーⅡのスケジュールにつ いて	SD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
5	令和7年9月4日	・成績評価基準の平準化について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
6	令和7年9月25日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討につ いて (継続審議)	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
7	令和7年11月10日	・令和9年度入試からの総合型選抜 の導入について ・JABEE の継続について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
8	令和7年12月25日	・副査面談の結果について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
環境創造工学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・卒業研究の実施方法	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計8名)
2	令和7年6月26日	・数学相談室の開催の案内	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
3	令和7年8月29日	・MEC プログラムの見直し, フロー チャートの作成 ・新カリキュラムの必修科目の基本 方針について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
4	令和7年9月1日	・合理的配慮に関するFD・SD学習 会開催の案内	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
5	令和7年9月4日	・成績評価基準の平準化について ・GPS-Academic の実施について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
6	令和7年10月16日	・次年度のGPS-Academic の実施方 法等について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和7年11月27日	・附属推薦入学者入学前指導の協力学生について ・「理系大学院活性化に向けた取り組み」の募集について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
8	令和7年12月18日	・「コミュニケーションスキル」講義に関する意見交換	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
建築学科 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・フレッシュマンセミナーについて ・一級建築士エクステンション講座について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
2	令和7年4月24日	・附属高等学校学部学科説明会について ・2026年度指定校推薦枠について	FD	武藤, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
		・一級建築士エクステンション講座について ・副専攻制度について	SD	
3	令和7年5月8日	・国際専門研修の実施について ・エクステンション講座「建築士1級中級」について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
4	令和7年5月22日	・遠隔講義実施に係る意見について	SD	武藤, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
5	令和7年6月12日	・外部評価委員について	FD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
6	令和7年6月26日	・障がい学生の対応について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
		・R8年度カリキュラム変改正(学則改正)について	FD	
7	令和7年7月24日	・地区懇談会特別呼び出しの通知について	SD	武藤, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
		・外部評価委員について	FD	
8	令和7年9月4日	・成績不振者との面談について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
9	令和7年10月9日	・学修成果把握に向けた外部調査の実施について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
		・外部評価委員会の開催について	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
10	令和7年11月13日	・障がい学生に関する情報共有	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計14名)
		・副専攻制度・履修証明プログラム について	FD	
		・外部評価委員会について		
11	令和7年12月11日	・フレッシュマンセミナーについて	SD	武藤, 高井, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
		・GPS-Academicの集計結果について		
		・R8年度ゼミ配属に関して	FD	
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・障がい学生支援センターの対応について	FD	榎本, 松村, 大久保, 景山, 片岡, 加藤, 齊藤, 田中, 土屋, 長澤, 本田, 松本, 森口, 山本, 神藤 (計15名)
2	令和7年4月24日	・障がいのある学生の情報について	FD	榎本, 松村, 大久保, 景山, 片岡, 加藤, 齊藤, 神藤, 鈴木, 田中, 長澤, 本田, 松本, 森口, 山本, 遠藤 (計16名)
3	令和7年5月22日	・障がい学生支援員の選出	FD	榎本, 松村, 加藤, 齊藤, 大久保, 神藤, 景山, 山本, 遠藤, 松本, 片岡, 田中, 鈴木, 森口, 長澤 (計15名)
4	令和7年9月4日	・FD・SD学習会の開催について ・成績評価基準の平準化について	FD	松村, 森口, 齊藤, 鈴木, 遠藤, 長澤, 田中, 神藤, 加藤, 松本, 大久保 (計11名)
5	令和7年9月25日	・FD・SD学習会のWebClass掲載 について	FD	榎本, 加藤, 景山, 齊藤, 鈴木, 田中, 長澤, 土屋, 神藤, 大久保, 森口, 山本, 松本, 本田 (計14名)
6	令和7年12月25日	・FD・SDフォーラムの開催について	FD	榎本, 松村, 遠藤, 大久保, 加藤, 景山, 神藤, 鈴木, 長澤, 松本, 森口, 本田, 山本, 齊藤 (計14名)
7	令和8年1月9日	・教員研修会の開催について	FD	榎本, 松村, 遠藤, 大久保, 景山, 片岡, 加藤, 齊藤, 神藤, 鈴木, 土屋, 長澤, 本田, 松本, 森口, 山本 (計16名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
学部・研究科全体				
1	令和7年7月10日	・障がい学生支援と合理的配慮について	SD	大西, 齊藤(公), 土田, 富田, 長郷, 前野, 村瀬, 劔持, 許斐, 佐藤(光), 柴田, 田中(清), 伯田, 日比野, 三町, 内村, 伊藤, 岡田, 児玉, 竹田, 村田, 村本, 村上, 永田, 丸山, 小澤(理), 來海, 久保, 中西, 松田(淳), 塚田, 鈴木(昌), 富岡, 西村, 菅野, 宮田, 山崎, 村尾, 井上, 鈴木(温), 小塩, 片桐, 松田(和), 武藤(厚), 平岩, 榎本(暁), 加藤, 長澤, 遠藤, 山本(教員計50名) 佐藤, 相場, 竹内, 都築(職員計4名)
2	令和7年11月27日	・「名城大学障がい学生支援に関するガイドライン」の紹介と合理的配慮の相談開始から提供を受けるまでの流れについて	SD	大西, 小澤(哲), 齊藤(公), 土田, 富田, 長郷, 前野, 村瀬, 劔持, 許斐, 佐藤(光), 柴田, 田中(清), 伯田, 日比野, 三町, 伊藤, 今宿, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榎田, 竹田, 堀田, 益田, 村田, 村本, 山中, 小林, 増山, 村上, 宇佐美, 関口, 宮嶋, 六田, 赤堀, 今井, 榎本(和), 田中(崇), 永田, 中村(忠), 坂東, 丸山, 池邊, 小澤(理), 才田, 田浦, 田中(正), 池本, 大島, 來海, 久保, 清水, 中西, 成田, 古川, ペトロス, 松田(淳), 松原, 川村, 塚田, 横田, 吉川, 大藏, 菅, 鈴木(昌), 富岡, 中島, 西村, 菅野, 横谷, 吉田, 大原, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 目黒, 石川, 岩下, 鈴木(温), 中村(一), 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 小塩, 片桐, 日比, 三宅, 深川, 武藤(昌), 生田, 張, 岡田(恭), 高井, 高橋, 寺西, 松田(和), 武藤(厚), 吉永, 大塚, 佐藤(布), 谷田, 萩原, 平岩, 米澤, 榎本(暁), 加藤, 齊藤(毅), 鈴木(茂), 田中(義), 長澤, 松村, 大久保, 本田, 森口(教員計119名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、令和2年度から大学院博士（後期）課程において授業科目の単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士（前期）課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士（博士前期）課程と博士（後期）課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院FD・SD活動については、各学科のFD・SD会議において、合同で大学院FD・SDに関する議題の報告および審議を行っている。

理工学研究科では、各専攻FD・SD会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、実験活動、学会発表などの教育研究分野において、新型コロナ禍で培った手法と従前の教育研究手法の良い点を組み合わせた教育が行われ、日常の教育や研究活動に社会状況や環境の影響を受けにくい堅牢な教育、研究環境を構築しつつある。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い。近年は対面だけでなくハイブリッドでの学会開催やウェビナーなどの新型コロナ禍前には少なかった開催形態が多数行われており、学生の積極的な参加が容易になっている。それに伴い、参加者数も増えてきている。このような新しい環境においても学生が十分な力を発揮できる様に、発表方法や質疑応答、情報発信の方法などを指導し、各専攻FD・SD会議を中心として検討を行っている。

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。入学条件としてもTOEIC受験を課し、理工学部3年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求するTOEICは、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

## 2. 今後の課題、方向性

大学院FD・SDの中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻FD・SD会議（各学科FD・SD会議と合同）と連絡を密にしながら理工学専攻科としての大学院FD・SD活動を推進する。「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加して行くという方向性を出したが、新型コロナ感染症の流行が始まった2020年以降十分な議論が進められていない。そのため、昨今の時代に即した内容となっているか経緯を含め再度確認し、実施について検討する必要がある。一方で教務委員会においては「特別講義Ⅰ・Ⅱ」の実施形態が

検討されていることもあり、単位制度のみに注目するのではなく、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。そして前述のような資質が得られた大学院生においては、修士・博士課程に早期修了の仕組みがあるため、それらの制度を利用することで柔軟なキャリア形成を後押しし、多くの高度人材を輩出していくことが重要と考えられる。

### 3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
教育改善委員会				
1	令和7年5月15日 ～5月22日 [対面・遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部令和7年度入学前オリエンテーションの担当学科について</li> <li>令和7年度物理相談室について</li> <li>工学系学科1年次開講クラスを対象とした数学科目の再試験廃止について</li> <li>令和7年度理工学部・理工学研究科の事業計画について</li> <li>東海工学教育協会 会員入会のご案内</li> </ul>	FD    SD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 東海林, 加城 (職員計2名)
2	令和7年6月18日 ～6月24日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度前期数学相談室について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 中村, 名取, 西村 (職員計3名)
3	令和7年7月30日 ～8月6日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について</li> <li>令和8年度推薦入学者向けの入学前教育(MECプログラム)の受講科目と受講推奨コース・フローチャートの検討</li> <li>教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について</li> <li>第21回FD・SD学習会実施の案内について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 西村 (職員計2名)
4	令和7年9月18日 ～9月25日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度入学者向け附属高校入学前指導および入学前オリエンテーション学部別企画について</li> </ul>	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)
5	令和7年10月10日 ～10月20日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修成果の把握に向けた外部調査の実施について</li> <li>附属高校特別推薦入学者への入学前指導について</li> </ul>	FD  SD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中 (教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口 (職員計3名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和7年11月27日 ～12月4日 [遠隔]	・令和7年度FD・SD活動報告書(最終)の作成について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中(教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口(職員計3名)
7	令和7年12月23日 ～ 令和8年1月6日 [遠隔]	・令和7年度後期数学相談室について	FD	來海, 山中, 富田, 村上, 岩谷, 六田, 丸山, 吉川, 仙場, 芦澤, 溝口, 深川, 高橋, 大久保, 松本, 田中(教員計16名) 佐藤, 後藤, 堀口(職員計3名)
各専攻FD・SD会議				
数学専攻 FD・SD会議				
1	令和7年5月22日	・大学院カリキュラム改定について ・学位授与方針対応表の確認	FD	植松, 大西, 小澤, 鍛冶, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 許斐, 劔持(計18名)
2	令和7年6月26日	・院生指導の基本的な考え方: 東名古屋若手数学研究集会(中間発表会)に向けて	SD	植松, 大西, 小澤, 鍛冶, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 日比野, 前野, 三町, 村瀬, 許斐, 劔持(計18名)
電気電子工学専攻 FD・SD会議				
1	令和7年4月24日	・遠隔講義実施について ・連続休学期間が長い学生対応について ・学生への合理的配慮について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
2	令和7年5月22日	・修士・卒研中間発表会について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計19名)
3	令和7年7月24日	・遠隔講義について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 益田, 増山, 村上(計17名)
4	令和7年9月4日	・障がい学生対応について ・MATLABのデータサイエンス活用について	SD	伊藤, 今宿, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 増山(計14名)
		・令和7年度大学院学業優秀奨励生について ・電気系教員協議会について	FD	
5	令和7年9月11日	・令和7年度大学院学業優秀奨励生について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山 (計15名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和7年9月25日	・修士論文公聴会のグループ分けについて	SD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
7	令和7年10月14日	・卒論発表会・修論公聴会の日程について ・理工学研究科修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮 (早期修了) について	FD	今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
8	令和7年11月27日	・学位授与基準 (博士) について	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
9	令和7年12月11日	・理工学研究科修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮 (早期修了) について	FD	伊藤, 今宿, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 益田, 村上 (計14名)
10	令和8年1月15日	・コンピテンシーを育成するアクティブラーニング	FD	伊藤, 今宿, 内田, 太田, 岡田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計19名)
材料機能工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・財満先生の特論について ・他専攻科目の履修登録に遅刻した学生の対応について ・指導教員の変更について ・大学院入試 (一次試験の推薦基準) について	FD	宇佐美, 上山, 服部, 関口, 赤堀, 宮嶋, 田中, 六田, 今井, 榎本 (計10名)
2	令和7年4月24日	・大学院の収容定員拡大に向けたヒアリング調査 ・大学院入試, 出願資格確認 ・大学院教務, 受講生0の閉講科目について	FD	宇佐美, 岩谷, 上山, 竹内, 服部, 六田, 関口, 赤堀, 榎本, 田中, 今井 (計11名)
3	令和7年5月22日	・教務, カーボンニュートラル関連該当授業の調査 ・特別講義の一本化について ・大学院一次入試実施確認	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 岩谷, 六田, 宮嶋, 関口, 田中, 今井, 服部, 榎本, 小出, 赤堀 (計13名)
4	令和7年6月26日	・大学院入試問題・模範解答提出依頼 (最終) について ・大学院入試都合い	FD	宇佐美, 服部, 上山, 榎本, 竹内, 六田, 宮嶋, 赤堀, 今井, 関口, 田中, 岩谷 (計12名)
5	令和7年11月27日	・大学院入試問題・模範解答提出依頼について ・指導学生の現状確認と対応策の協議	FD	宇佐美, 服部, 上山, 榎本, 竹内, 六田, 宮嶋, 赤堀, 今井, 関口, 田中, 岩谷 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
応用化学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・講義実施体制のあり方について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・専攻レクリエーション実施 ・研究費用の配分について	SD	
2	令和7年4月24日	・講義の実施体制について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・学科設備の使用法について	SD	
3	令和7年6月12日	・講義内容について ・学位授与方針対応表の改訂について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・学科予算の配分について	SD	
4	令和7年7月10日	・研究費用の配分について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 谷口 (計8名)
5	令和7年7月24日	・修士公聴会の日程について	FD	中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計9名)
6	令和7年9月4日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討につ いて	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 田浦, 田中, 谷口 (計8名)
7	令和7年9月24日	・応用化学特殊講義の成績評価につ いて ・M1中間発表会について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
8	令和7年10月16日	・新専攻の運営について	FD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 田中, 谷口 (計9名)
9	令和7年11月13日	・研究費の配分について	SD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
10	令和7年12月11日	・外部評価委員会の開催について ・MS-26の申請について	FD	中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 田中, 谷口 (計8名)
11	令和7年12月24日	・修士課程の修了について ・来年度時間割について ・MS-26の申請について	FD	中村, 丸山, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年5月23日	・閉講科目について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
2	令和7年7月24日	・特別講義について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
		・障がい学生支援について	SD	
3	令和7年9月4日	・FD・SD学習会「学修ポートフォ リオを活用した学生の自己省察の 重要性」参加について	SD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和7年10月16日	・理工学研究科修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮（早期修了）について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
5	令和7年11月27日	・シラバス表記について ・理工学研究科修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮（早期修了）について（継続）	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 来海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
6	令和7年12月25日	・理工学研究科修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮（早期修了）について（継続）	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
交通機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・大学院修士課程推薦入試の学内推薦基準について	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
		・教員業績評価について	SD	
2	令和7年4月24日	・研究倫理教育の受講について	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
		・障がい学生支援委員の選出について	SD	
3	令和7年5月8日	・研究室名の変更案について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
4	令和7年6月12日	・大学院進学者数の向上について	SD	西村, 中島, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計10名)
5	令和7年6月26日	・R8年度以降の科学技術英語の担当者について	SD	鈴木, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計11名)
6	令和7年9月4日	・R7大学院奨学生推薦および学会候補者の選出方法について	SD	西村, 鈴木, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計9名)
7	令和7年9月25日	・理工学研究科修士・博士課程の在学期間の短縮について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
8	令和7年10月16日	・修士課程・博士前期課程の在学期間の短縮（早期修了）について	SD	西村, 鈴木, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 吉田, 山崎 (計10名)
9	令和7年11月27日	・理系大学院活性化に向けた取り組みについて	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 吉田 (計8名)
10	令和7年12月11日	・大学院修士課程早期修了について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
11	令和7年12月25日	・R9年度理工学研究科入試基本事項について ・学会賞の候補者について	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 吉田, 山崎 (計12名)
12	令和8年1月15日	・機械工学専攻博士課程ポリシーについて	SD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 吉田, 山崎 (計11名)
		・機械工学専攻博士課程担当教員一覧について	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年5月22日	1) メンター担当の変更について 2) 障がい学生の対応について 3) 成績入力について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
2	令和7年6月12日	1) 外部評価委員について 2) 学位授与方針について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
3	令和7年6月26日	1) カンニング等の不正行為について 2) TA の運用について 3) 工場利用に関する安全教育について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
4	令和7年7月10日	1) 大学院入試と学部履修科目について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
5	令和7年7月24日	1) M2 の中間発表について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
6	令和7年9月4日	1) 修士M2 中間発表の結果について	FD	井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計9名)
7	令和7年10月16日	1) 成績分布の平準化について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
8	令和7年11月13日	1) 学科開催の就活座談会について 2) SNS の利用と学生への周知について 3) 修士M1 中間発表について	FD	大原, 井上, 佐伯, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 佐藤 (計10名)
9	令和7年11月27日	1) 来年度時間割について	FD	大原, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 目黒, 佐藤 (計7名)
社会基盤デザイン工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年5月22日	・「令和7年度学位授与方針及び教育 課程編成方針対応表の確認」について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
2	令和7年7月24日	・大学院奨学生の選考方法について	SD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
3	令和7年10月16日	・理工学研究科修士課程・博士前期 課程の在学期間の短縮 (早期修了) に関する意見収集	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
4	令和7年11月27日	・大学院活性化に向けた取り組みへ の応募について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
5	令和8年1月8日	・大学院早期修了基準について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
環境創造工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年4月10日	・修士論文進捗状況報告会の実施方 法について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計8名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和7年5月22日	・学位授与方針及び教育課程編成方針について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
3	令和7年7月24日	・大学院推薦・一般一次入試の選考について ・令和7年度大学院奨学生(K専攻 枠:2名)の選考基準について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
4	令和7年9月4日	・令和8年度の時間割について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
5	令和7年11月27日	・副専攻制度・履修証明プログラムについて ・修士論文中間発表会および公聴会の実施方法について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
6	令和7年12月25日	・修士課程・博士前期課程の在学期間短縮(早期修了)について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 深川, 武藤 (計9名)
建築学専攻 FD・SD 会議				
1	令和7年5月8日	・国際専門研修の実施について	SD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
2	令和7年6月12日	・外部評価委員について	FD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
3	令和7年6月26日	・令和8年度カリキュラム改正(学則改正)について	FD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
4	令和7年7月10日	・大学院生の採点について	SD	武藤, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
5	令和7年7月24日	・外部評価委員について	FD	武藤, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
6	令和7年10月9日	・外部評価委員会の開催について	FD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
7	令和7年11月13日	・外部評価委員について	FD	武藤, 高井, 寺西, 岡田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計14名)
8	令和7年12月11日	・「理系大学院活性化に向けた取り組み」の募集について ・令和8年度国際専門研修プログラム企画について	FD	武藤, 高井, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 三浦, 高橋, 松田, 谷田, 大塚, 平岩, 米澤, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
学部・研究科全体				
1	令和7年7月10日	・障がい学生支援と合理的配慮について	SD	大西, 齊藤(公), 土田, 富田, 長郷, 前野, 村瀬, 劔持, 許斐, 佐藤(光), 柴田, 田中(清), 伯田, 日比野, 三町, 内村, 伊藤, 岡田, 児玉, 竹田, 村田, 村本, 村上, 永田, 丸山, 小澤(理), 來海, 久保, 中西, 松田(淳), 塚田, 鈴木(昌), 富岡, 西村, 菅野, 宮田, 山崎, 村尾, 井上, 鈴木(温), 小塩, 片桐, 松田(和), 武藤(厚), 平岩, 榎本(暁), 加藤, 長澤, 遠藤, 山本(教員計50名) 佐藤, 相場, 竹内, 都築(職員計4名)
2	令和7年11月27日	・「名城大学障がい学生支援に関するガイドライン」の紹介と合理的配慮の相談開始から提供を受けるまでの流れについて	SD	大西, 小澤(哲), 齊藤(公), 土田, 富田, 長郷, 前野, 村瀬, 劔持, 許斐, 佐藤(光), 柴田, 田中(清), 伯田, 日比野, 三町, 伊藤, 今宿, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 竹田, 堀田, 益田, 村田, 村本, 山中, 小林, 増山, 村上, 宇佐美, 関口, 宮嶋, 六田, 赤堀, 今井, 榎本(和), 田中(崇), 永田, 中村(忠), 坂東, 丸山, 池邊, 小澤(理), 才田, 田浦, 田中(正), 池本, 大島, 來海, 久保, 清水, 中西, 成田, 古川, ペトロス, 松田(淳), 松原, 川村, 塚田, 横田, 吉川, 大藏, 菅, 鈴木(昌), 富岡, 中島, 西村, 菅野, 横谷, 吉田, 大原, 関山, 楊, 芦澤, 市川, 目黒, 石川, 岩下, 鈴木(温), 中村(一), 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 小塩, 片桐, 日比, 三宅, 深川, 武藤(昌), 生田, 張, 岡田(恭), 高井, 高橋, 寺西, 松田(和), 武藤(厚), 吉永, 大塚, 佐藤(布), 谷田, 萩原, 平岩, 米澤, 榎本(暁), 加藤, 齊藤(毅), 鈴木(茂), 田中(義), 長澤, 松村, 大久保, 本田, 森口(教員計119名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

農学部は、生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づけFD・SD活動に取り組んでいる。これらの分科会および分科会を統括する教授会において、学生の修学および生活について教職員間で意見交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。具体的な取り組みとして、定例で開催されている学科会議や農場教員会議等において、教育改善のための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容検討や成績評価基準の平準化、実験実習、研究活動、キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を検討し推進している。そのために、学部FD・SD委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部FD・SD委員会でそれらをまとめてカリキュラムの検討・検証および、同系の授業科目群の目標を設定し、それらを各教員が教育や研究に反映する。学科および農場に共通する案件については学部教授会等の時間に学部全教員で情報交換することで、教育改善への具体的な取り組みについてのイメージを共有できるようにする。さらに、昨年度より障がいを持つ学生への配慮、対応についてきめ細かな情報共有を図り、その対応について検討を進めている。

## 2. 今後の課題、方向性

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が必要である。さらに、上記の通り、引き続き障がいを持つ学生への配慮、対応についてきめ細かな情報共有を図り、その対応について検討を進めていく。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制に変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育とも関連させた対応を提言する、という立場から、農学部FD・SD委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

遠隔授業の実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメリットが蓄積され、基本的に講義は対面で実施している。今後オンライン授業が浸透した中高生に対して、大学の講義の在り方について議論する必要がある。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部1	令和7年4月10日	第1回農学部教授会 ・「障がい学生支援ガイドライン」の改訂について（障）	SD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤
部2	令和7年4月24日	第2回農学部教授会 ・2024年度実績に基づく教員業績評価に対応した自己評価票提出の依頼について（報）	FD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、近澤、長澤、檜崎、藤原
部3	令和7年5月22日	第3回農学部教授会 ・ハラスメントの防止について（報）	FD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、辻本、長澤、檜崎、武藤

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部4	令和7年6月12日	<p>第4回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校法人名城大学ハラスメント撲滅宣言」について（ハ）</li> <li>・ハラスメント等の防止等に関する規程の一部改正について（ハ）</li> <li>・名城大学におけるハラスメントの防止等に関するガイドラインの一部改正について（ハ）</li> <li>・令和6年度ハラスメント相談状況等について（ハ）</li> <li>・ハラスメント防止カード及びポスターの設置状況について（ハ）</li> <li>・ハラスメントDVDの貸し出しについて（ハ）</li> <li>・文部科学省ハラスメント防止の動画等紹介について（ハ）</li> <li>・各学科の教員編成方針について（報）</li> <li>・国庫補助事業該当教員宛障がい学生支援周知文書について（学）</li> <li>・障がい学生に係る施設設備の調査依頼について（学）</li> </ul>	<p>SD</p> <p>SD</p> <p>SD</p> <p>FD</p> <p>SD</p> <p>FD</p> <p>FD</p> <p>FD</p> <p>SD</p> <p>SD</p>	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：大崎、加藤（あ）、近澤、辻本、長澤、榑崎、藤原</p>
部5	令和7年6月26日	<p>第5回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度障がい等を理由とする修学支援申請・相談対応学生の状況（学）</li> <li>・2024年度実績に基づく教員業績評価に係る自己評価票の適切性の確認および修正対応の依頼について（報）</li> </ul>	<p>SD</p> <p>FD</p>	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（裕）</p> <p>助教：大崎、加藤（あ）、近澤、辻本、榑崎、藤原</p>

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部6	令和7年7月10日	<p>第6回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生満足度について（2024年度 学生アンケート結果報告書より）(運)</li> <li>・配慮申請者の「試験上の配慮」に関する周知（学）</li> <li>・障がい学生に関わる研修会の案内（障）</li> </ul> <p>メール配信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度前期授業改善アンケートについて（開）</li> <li>・令和7年度 名城大学教育年報（教育実践報告）募集要項について（開）</li> <li>・各学部・研究科におけるFD・SD活動報告（中間）の作成について関係委員などに作業依頼（開）</li> </ul>	<p>SD</p> <p>FD</p> <p>FD</p> <p>FD・SD</p> <p>FD・SD</p> <p>FD・SD</p>	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原</p>
部7	令和7年9月4日	<p>第8回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化の検討について（学）</li> <li>・入学前オリエンテーションについて（報）</li> </ul>	<p>FD</p> <p>SD</p>	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、塚越、津呂、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：天野、荒川、太田垣、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原</p>
部8	令和7年10月2日	<p>第9回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPS-Academic 受検周知について（報）</li> </ul>	<p>SD</p>	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原、武藤</p>

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部9	令和7年10月16日	第10回農学部教授会 ・名城大学障がい学生支援センター「手続きと流れ」および「障がい学生支援ガイドラインに関する留意事項」の改訂に向けた検討案について（障）	SD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、榑崎、藤原、武藤
部10	令和7年11月13日	第11回農学部教授会 ・入学前オリエンテーションの実施について（報）	SD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、藤原、武藤
部11	令和7年11月27日	第12回農学部教授会 ・前期科目別学修振り返りアンケートについて（報）	FD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、榑崎、藤原、武藤
部12	令和7年12月11日	第13回農学部教授会 ・農学部における科目の開講・不開講の基準について（学） ・GPS-Academic 受検状況について（報）	FD FD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、細田、前林、松儀、湊、森上、山口 准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教：大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、榑崎、藤原、武藤

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
資1	令和7年4月10日	第1回生物資源学科会議 ・生物資源学科のハラスメント防止 対策に関して	FD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、太田垣、兒島、 平児、藤原
資2	令和7年4月24日	第3回生物資源学科会議 ・配慮申請様式5の検討	SD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、太田垣、兒島、 平児、藤原
資3	令和7年5月22日	第5回生物資源学科会議 ・配慮申請様式5の検討 ・2026年度学位授与方針対応表等 を用いた教育課程の自己点検の実施	SD FD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、太田垣、兒島、 平児、藤原、武藤
資4	令和7年6月12日	第6回生物資源学科会議 ・障がい学生に係る施設設備の調査 依頼について	SD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、太田垣、兒島、 平児、藤原、武藤
資5	令和7年10月2日	第14回生物資源学科会議 ・GPS-Academicの実施科目につい て ・ChatGPT 関連資料の改訂版につい て	FD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 上船、荒川、太田垣、兒島、平児、 藤原、黒川
資6	令和7年10月25日	第15回生物資源学科会議 ・成績不振学生の面談について	FD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 上船、荒川、太田垣、兒島、平児、 藤原、黒川
資7	令和7年11月27日	第17回生物資源学科会議 ・生物資源学科所属配慮申請者の「試 験上の配慮」について	SD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、太田垣、兒島、 平児、藤原、黒川
資8	令和7年12月25日	第19回生物資源学科会議 ・配慮申請学生の様式5の検討	SD	塚越(学科長)、森上、平野、津呂、 鈴木、上船、荒川、兒島、平児、 藤原、黒川
化1	令和7年4月10日	第1回応用生物化学科会議 ・教員組織の編成方針について ・障がい学生支援について	FD SD	奥村(学科長)、加藤(雅)、林(利)、 前林、松儀、湊、山口、天野、志水、 濱本、近澤、長澤
化2	令和7年4月24日	第2回応用生物化学科会議 ・教員組織の編成方針について(継 続) ・障がい学生支援について(継続)	FD SD	奥村(学科長)、林(利)、前林、 松儀、湊、山口、天野、志水、濱本、 近澤、長澤
化3	令和7年5月22日	第3回応用生物化学科会議 ・教員組織の編成方針について(継 続)	FD	奥村(学科長)、林(利)、前林、 松儀、天野、志水、濱本、近澤、 長澤
化4	令和7年6月12日	第4回応用生物化学科会議 ・障がい学生支援について(継続)	SD	奥村(学科長)、加藤(雅)、林(利)、 前林、松儀、湊、山口、天野、志水、 濱本、近澤、長澤

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
化5	令和7年7月10日	第5回応用生物化学科会議 ・学生証の不正使用に関する学生の処分について	FD	奥村(学科長)、林(利)、前林、松儀、湊、山口、天野、志水、濱本、近澤、長澤
化6	令和7年7月24日	第6回応用生物化学科会議 ・2025年度2年生ガイダンス実施の確認について	SD	奥村(学科長)、加藤(雅)、林(利)、前林、松儀、湊、山口、天野、志水、濱本、近澤
化7	令和7年9月4日	第7回応用生物化学科会議 ・「論文・レポートの書き方」のWebClassでの公開について ・配慮申請学生からの現状報告について	FD SD	奥村(学科長)、加藤(雅)、林(利)、前林、松儀、湊、天野、濱本、近澤、長澤
化8	令和7年11月13日	第11回応用生物化学科会議 ・新たに配慮申請のあった学生の様式5の検討について	SD	奥村(学科長)、林(利)、前林、松儀、湊、山口、天野、濱本、近澤、長澤
化9	令和7年11月27日	第13回応用生物化学科会議 ・配慮申請者の「試験上の配慮」について	SD	奥村(学科長)、加藤(雅)、林(利)、前林、松儀、湊、山口、天野、志水、濱本、近澤、長澤
環1	令和7年4月10日	第1回生物環境科学科会議 ・障がい学生の受講上の配慮申請について	SD	村野(学科長)、磯井、長田、辻本、新妻、大浦、近藤、藤、田村、細田、橋本、大崎、榑崎
環2	令和7年4月24日	第2回生物環境科学科会議 ・障がい学生の受講上の配慮申請について	SD	村野(学科長)、磯井、長田、新妻、大浦、近藤、藤、田村、細田、橋本、大崎、榑崎
環3	令和7年5月22日	第3回生物環境科学科会議 ・教員組織の編成方針について ・障がい学生の受講上の配慮申請について	FD SD	村野(学科長)、磯井、長田、辻本、大浦、近藤、藤、田村、橋本、大崎、榑崎
環4	令和7年6月12日	第4回生物環境科学科会議 ・副指導教員について ・カーボンニュートラル関連授業の調査について ・障がい学生の受講上の配慮申請について ・1年生ミキサーについて	FD FD SD SD	村野(学科長)、磯井、長田、辻本、新妻、大浦、近藤、細田、橋本、大崎、榑崎
環5	令和7年7月10日	第7回生物環境科学科会議 ・ハラスメント研修 ・障がい学生の受講上の配慮申請について	FD SD	村野(学科長)、磯井、辻本、新妻、大浦、近藤、藤、細田、橋本、大崎、榑崎
環6	令和7年9月4日	第9回生物環境科学科会議 ・レポートの書き方に関する資料掲載について ・障がい学生の配慮申請取消について	FD SD	村野(学科長)、磯井、田村、辻本、長田、大浦、近藤、藤、細田、橋本、大崎、榑崎

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
環7	令和7年10月2日	第11回生物環境科学科会議 ・副指導教員について ・専任教員の科目の不開講について	FD FD	村野（学科長）、磯井、田村、長田、 新妻、大浦、近藤、藤、細田、橋本、 大崎、植崎
環8	令和7年10月17日	第13回生物環境科学科会議 ・ChatGPTの活用について	FD	村野（学科長）、磯井、田村、辻本、 長田、新妻、大浦、近藤、藤、細田、 橋本、大崎、植崎
環9	令和7年11月27日	第15回生物環境科学科会議 ・指導学生との面談について	SD	村野（学科長）、磯井、田村、辻本、 長田、新妻、大浦、近藤、藤、細田、 橋本、大崎、植崎
農1	令和7年4月2日	第1回農場教員会議 ・農場教員編成方針について ・配慮学生への対応について（音声 認識機器の使用・筆談・WebClass への掲示など） ・配慮学生に関わるレポート期限の 延長について	FD SD SD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、壁谷、大塚（陪席）
農2	令和7年5月7日	第2回農場教員会議 ・農場教員編成方針について（継続） ・配慮学生への対応状況について ・熱中症への対応について	FD SD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、壁谷
農3	令和7年6月4日	第3回農場教員会議 ・配慮学生への対応状況について ・暑熱時の実習について	SD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、増中、壁谷
農4	令和7年7月2日	第4回農場教員会議 ・配慮学生への対応状況について ・レポートの期限延長に伴う期末の 対応について	FD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、増中、壁谷
農5	令和7年8月6日	第5回農場教員会議 ・集中実習と後期農場実習における 作物分野の実習について ・集中実習における配慮学生への対 応について	FD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、壁谷
農6	令和7年9月3日	第6回農場教員会議 ・令和7年度・8年度における作物 分野の実習について ・暑熱時の集中実習の現状と今後の 対応について	FD SD	林（利）、林（義）、中尾、森田（隆）、 森田（裕）、壁谷
農7	令和7年10月1日	第7回農場教員会議 ・講義科目での配慮学生への対応状 況について ・体調不良者対応のための車いすの 購入について	SD SD	林（利）、中尾、森田（隆）、森田（裕）、 壁谷

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
農8	令和7年11月5日	第8回農場教員会議 ・専任教員の科目の不開講について、 および今後の対応 ・令和8年度における作物分野の実 習の非常勤講師について ・農場実習3・4における事前アン ケートの中止と開講時期の変更に ついて ・体調不良者対応のための車いす購 入の報告	FD FD FD SD	林(利)、森田(隆)、森田(裕)、 壁谷
農9	令和7年12月3日	第9回農場教員会議 ・専任教員の科目の不開講について、 および今後の対応(継続) ・令和8年度における作物分野の実 習の非常勤講師について(継続) ・レポートの期限延長に伴う期末の 対応について	FD FD SD	林(利)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 壁谷
農10	令和8年1月7日	第10回農場教員会議 ・令和8年度における作物分野の実 習の非常勤講師について(継続・ 最終) ・令和8年度における集中実習の実 施方法と定員について ・農場実習の補講者において公欠申 請があった場合への対応について ・補講における配慮学生への対応に ついて	FD FD SD SD	林(利)、林(義)、中尾、森田(隆)、 森田(裕)、壁谷

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

活動方針：令和7年度から修士課程および博士後期課程ともに新しいカリキュラムに変更されたため、その適切な実施に向けた課題の抽出と対応策の検討を進める。

活動目標：令和7年度からの新カリキュラムの運用に向けた課題への対応

活動内容：

### ① FD 共通課題（学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善）

農学特別演習におけるレポートの取り扱いについてこれを着実に遂行している。発表者の発表内容に対する「価値・興味」および「疑問・意見」、ならびに発表全体に対する意見を、聴衆者である院生全員がレポートとして提出し、集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックしている。

### ② SD 共通課題（ハラスメント）

ハラスメントの疑いがある事案については、個人情報の保護に気を配りながら教員と職員が協同して解決に向け取り組んでいる。

### ③ その他研究科独自の取組

主指導教員と副指導教員からなる指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。研究進捗状況の確認の一環として、研究発表を行うこととし、指導教員グループによる研究指導はもちろん、研究科所属の教員・院生が興味のある発表に対して活発な意見交換を行っている。

## 2. 今後の課題、方向性

令和7年度から新カリキュラムに移行し、さらに修士課程の入学定員を見直し、30名に増員したことから、新たな体制下でのカリキュラム運用と研究指導体制について議論を進める。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月10日	第1回農学研究科委員会（修士課程部会） ・学生派遣に関する申し合わせについて ・2025年度 農学特別演習の日程について	SD  FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 大崎、加藤（あ）、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤 陪席 香村
2	令和7年4月24日	第2回農学研究科委員会（修士課程部会） ・修士課程の指導教員の確認について	FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 大崎、加藤（あ）、近澤、長澤、檜崎、藤原 陪席 香村
3	令和7年6月26日	第4回農学研究科委員会（修士課程部会） ・2026（令和8）年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について ・修士課程1年生研究進捗状況報告会の実施概要について ・研究進捗状況報告書の提出について	FD  FD  FD	氏田研究科長 教授 磯井、氏田、大浦、奥村、長田、加藤（雅）、近藤、鈴木、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 大崎、加藤（あ）、近澤、辻本、檜崎、藤原

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和7年9月4日	第7回農学研究科委員会（修士課程部会） ・研究進捗状況報告書の確認について	FD	氏田研究科長 教授 礪井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、植崎、藤原 陪席 香村
5	令和7年10月16日	第9回農学研究科委員会（修士課程部会） ・令和7年度修士論文研究進捗報告会の実施要領について ・GPS-Academic の受検について	FD FD	氏田研究科長 教授 礪井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、植崎、藤原、武藤
6	令和7年11月27日	第11回農学研究科委員会（修士課程部会） ・2026年度事業計画書（研究科）について ・修士論文進捗報告会について	FD FD	氏田研究科長 教授 礪井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、林（義）、平野、細田、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 天野、大崎、加藤（あ）、黒川、近澤、辻本、長澤、植崎、藤原、武藤
7	令和8年1月6日	第6回大学院運営委員会 ・2024年度修了時アンケートを用いたFD活動	FD	平野大学院主任 教授 塚越、奥村、村野、林（利） 事務 岡本

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

(1) 薬学部FD・SD委員会の活動目標ならびに活動項目を以下のように定める。

### 1) FD・SD委員会活動目標

薬学部の教育理念および目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

### 2) FD・SD委員会活動項目

#### A. 実質的な授業改善

①科目別学修振り返りアンケートによる学生の学びの問題点の抽出

②学びの問題点に対する教育方法の検討・提案

#### B. 学生の主体的な学びの促進

①学生の主体的活動のサポートによる主体的な学びの促進

②学びの成果の可視化：学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善（全学共通FD課題）

#### C. 教育活動の可視化とIRの実施

①教育活動の可視化

②IRの実施と教育改善の提案：教学IR（全学共通SD課題）

(2) 令和7年度活動報告

#### A. 実質的な授業改善

①科目別学修振り返りアンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期58科目実施：回答率は平均85.3%。

後期107科目実施：回答率は平均79.6%。

参考：令和6年度前期回答率80.5%（大学全体37.1%）、後期回答率82.1%（大学全体29.3%）

・学生へのフィードバックとして、科目別学修振り返りアンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。

・教員へのフィードバックとして、授業改善のヒントとなるように、以下のデータを作成してフィードバックを行った。

#### 【フィードバック内容】

当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均を含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学修時間、

授業集中、理解度、到達度、満足度)、各系列の科目の各指標の分布グラフ。

## ②学びの問題点に対する教育方法の検討・提案

下記のとおり FD・SD ワークショップを開催した。

・FD 報告 (教学 IR 2019年度入学生評価)

実施日：令和7年10月30日

・FD・SD ワークショップ

実施日：令和7年12月25日15時～17時30分

演題：障がい学生支援と合理的配慮

講師：名城大学障がい学生支援センター長 植木 淳 教授

名城大学理工学部障がい学生支援センター委員 村瀬 勇介 教授

・薬学部 FD・SD ワークショップ ハラスメント研修会

実施日：令和8年3月9日13時～15時30分

演題：誰もが安心・安全な教育環境に～医療系大学でのハラスメントの事例と原因・防止について～

講師：NPO 法人アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 川西 寿美子 先生

## B. 学生の主体的な学びの促進

### ①学生の主体的活動のサポートによる主体的な学びの促進

本年度は学生フォーラム開催に向けて、現在学生間で調整をしている。

第11回学生フォーラム「その研究、未来につながっている～Knowledge for Tomorrow～」

令和8年2月19日開催。

### ②学びの成果の可視化 (全学共通 FD・SD 課題)

毎年1～4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期ごとに行っており、前期は2年生、3年生の指導教員との面接時に利用した。また、1、4年生を対象にして、外部指標として GPS-Academic を実施した。

## C. 教育活動の可視化と IR の実施 → 【全学共通 SD 課題】 教学 IR

### ①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、2021年度より行っているディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期ごとに実施するとともに、半期の学びを振り返る学修成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行った。

#### ○振り返りの実施時期

前期：8月中 (未実施は、再実施メールにて督促)

後期：3月中 (未実施は、再実施メールにて督促)

## ○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、以下の振り返りを行う
- ・思うようにいったこと、思うようにいかなかったこと、できるようになったこと
- ・まだ不十分なこと、つぎに活かすこと

## ② IR の実施と教育改善の提案

- ・学修成果の可視化について

2019年度（改定コアカリ）入学生と2018年度（改定コアカリ）入学生を比較し、学位プログラムの視点（提供している学位プログラムで、DPの目指す能力は修得できているか）と授業科目レベルの視点（正規／非正規をアウトカムとした視点、国家試験合格／不合格・見受験をアウトカムとした視点）を確認した。

- ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について

教務委員会から、同一科目名の授業において成績評価に大きな差がある科目担当教員に連絡し、格差の是正に努力するよう依頼した。

## 2. 今後の課題、方向性

変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成を目指し、医学・歯学・薬学教育の3領域で統一したキャッチフレーズ（「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」）の下、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」が改訂され（令和4年）、およそ1年の準備期間を経て、本年4月入学生から新しいカリキュラム（新カリ）がスタートした。6年後の完成年度を迎えるまでは、平成27年度入学生から適用されているコア・カリキュラム（旧カリ）と2つのカリキュラムが並走することとなるため、新たな取り組みがなされた新カリの成果や課題を旧カリのそれらとともに可視化しながら、本学におけるよりよい薬学教育の実現に向けた活動を行う。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月4日	第1回薬学部FD・SD委員会（メール審議） ・令和8年度 学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD SD	能勢委員長、山田、根岸、水野、大津、村田、小森、野田、片岡 計9名
2	令和7年5月19日	第2回薬学部FD・SD委員会（メール審議） ・授業アンケートについて	FD	能勢委員長、山田、根岸、水野、大津、村田、小森、野田、片岡 計9名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
3	令和7年9月18日	第9回拡大教授会 ・令和8年度 学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	亀井学部長、井藤、梅田、大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、小森、打矢、坂井、神野、築山、山田、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、早川、原、平松、藤井、水野、村田、柳澤、山本、伊東、伊藤、稲垣、衣斐、牛田、岡本誉、奥田、加藤、金子、黒羽子、小島、近藤、杉山、高谷、西川、橋本、半谷、間宮、リバック、水本、吉田、吉見、輪島、青木、河地、酒井隆、武永、都築、仲吉、日坂、守屋、田巻、木下、川島、片岡 計63名
4	令和7年10月30日	第3回薬学部FD・SD委員会 ・教学IR2025 学修成果の可視化(2019年度入学生) ・薬学部FD・SD講演会、ワークショップについて ・第11回学生フォーラムについて	FD	能勢委員長、山田、根岸、水野、大津、村田、小森、野田、片岡 計9名
5	令和7年11月6日	第13回拡大教授会 ・IR2025(2019年度入学生) ・基礎薬学総論定期 ・第3回模試推移 ・薬学部FD・SD委員会からのご案内	FD	亀井学部長、井藤、梅田、大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、小森、打矢、坂井、神野、築山、山田、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、早川、原、平松、藤井、水野、村田、柳澤、山本、伊東、伊藤、稲垣、衣斐、牛田、岡本誉、奥田、加藤、金子、黒羽子、小島、近藤、杉山、高谷、西川、橋本、半谷、間宮、リバック、水本、吉田、吉見、輪島、青木、河地、酒井隆、武永、都築、仲吉、日坂、守屋、田巻、木下、川島、片岡 計63名
6	令和7年12月25日	令和7年度薬学部FD・SDワークショップ 演題：障がい学生支援と合理的配慮 講師：名城大学障がい学生支援センター長 植木 淳 教授 名城大学理工学部障がい学生支援センター委員 村瀬 勇介 教授	FD SD	亀井学部長、井藤、大津、岡本浩、北垣、黒野、小森、打矢、坂井、築山、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、原、平松、藤井、水野、村田、柳澤、山本、伊東、稲垣、衣斐、牛田、岡本誉、奥田、黒羽子、小島、近藤、高谷、橋本、水本、吉見、輪島、青木、植田、酒井隆、武永、仲吉、日坂、守屋、田中、木下、石川、片岡 計47名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和8年2月19日	第11回学生フォーラム 「その研究、未来につながっている～ Knowledge for Tomorrow～」	FD	能勢委員長、学生フォーラムで学術発表学生39名、学生フォーラム参加学生（3年生:28名、2年生:7名、1年生:2名）
8	令和8年3月9日	薬学部FD・SDワークショップ ハラスメント研修会 演題：誰もが安心・安全な教育環境に～医療系大学でのハラスメントの事例と原因・防止について～ 講師：NPO 法人アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 川西 寿美子 先生	FD SD	亀井学部長、井藤、大津、岡本浩、北垣、黒野、小森、打矢、坂井、山田、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、原、平松、藤井、水野、村田、山本、伊東、稲垣、衣斐、牛田、岡本誉、奥田、加藤、黒羽子、小島、近藤、杉山、西川、橋本、間宮、水本、吉田、吉見、輪島、青木、植田、酒井隆、武永、仲吉、日坂、守屋、呉、酒井達、田巻、片岡 計50名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### 1) 大学院薬学研究科 FD・SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科の教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD・SD 委員会が中心となって FD・SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

### 2) 令和7年度の FD・SD 委員会の活動内容

- 教員・学生に対する授業改善アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施
- 授業改善アンケートの内容についての検討

### 3) FD・SD の取り組みを推進する具体的な活動実績

#### I. 授業改善アンケートを活用した今後の授業改善について

令和7年度特論科目（講義）に関するアンケートを前期終了後に実施した。該当科目2教科、回答率 学生：100%、教員：81.3%（令和6年度前期 該当科目：4教科、回答率 学生：71%、教員：50%、令和5年度前期 該当科目：2教科、回答率 学生：100%、教員：70%）。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた利用を促す予定である。後期開講科目についても実施予定である。

#### II. 特殊研究評価アンケートについて

12月に特殊研究評価アンケート調査をおこない、結果を教員・学生双方にフィードバックをおこなった。

#### III. 副指導教員との面談について

10月下旬を目処に副指導教員と大学院生の面談をおこなった。前期までの研究進捗状況、今後の研究計画、その他学生生活について面談をおこない、後日、面談内容を主指導教員に共有した。

## 2. 今後の課題、方向性

### 1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も大学院講義に対するアンケートを実施する。学生と教員からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。必要に応じて大学院講義の在り方について学部 FD・SD 委員会と協同し、FD ワークショップの実施を検討する。

### 2) ディプロマポリシーに明示した学修成果の可視化

ディプロマポリシーに明示した学修成果を可視化する試みの一つとして、学生に対して後期開講科目の授業改善アンケート実施時に年度振り返りアンケートをおこなった。

### 3) 「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD 講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年7月24日	第7回大学院薬学研究科運営委員会 ・令和7年度前期授業改善アンケート ・副指導教員との面談	FD	亀井、山田、打矢、野田、井藤、大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、小森、坂井、神野、築山、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、早川、原、平松、藤井、水野、村田、柳澤、山本、伊東、伊藤、衣斐、岡本誉、奥田、加藤、小島、近藤、高谷、西川、橋本、半谷、間宮、リバック、水本、吉田、吉見、輪島、田巻、片岡 計48名
2	令和7年9月18日	第8回大学院薬学研究科運営委員会 ・令和7年度前期授業改善アンケート結果の振り返り	FD	亀井、山田、打矢、野田、井藤、大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、小森、坂井、神野、築山、灘井、丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、早川、原、平松、藤井、水野、村田、柳澤、山本、伊東、伊藤、衣斐、岡本誉、奥田、加藤、小島、近藤、高谷、西川、橋本、半谷、間宮、リバック、水本、吉田、吉見、輪島、田巻、片岡 計48名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
3	令和7年12月18日	第13回大学院薬学研究科運営委員会 ・令和7年度後期授業改善アンケート ・令和7年度特殊研究評価アンケート	FD	亀井、山田、打矢、野田、井藤、 大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、 小森、坂井、神野、築山、灘井、 丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、 早川、原、平松、藤井、水野、村田、 柳澤、山本、伊東、伊藤、衣斐、 岡本誉、奥田、加藤、小島、近藤、 高谷、西川、橋本、半谷、間宮、 リバック、水本、吉田、吉見、輪島、 田巻、片岡 計48名
4	令和8年1月29日	第15回大学院薬学研究科運営委員会 ・令和7年度後期授業改善アンケートと令和7年度特殊研究評価アンケート結果の振り返り	FD	亀井、山田、打矢、野田、井藤、 大津、岡本浩、小田、北垣、黒野、 小森、坂井、神野、築山、灘井、 丹羽、根岸、能勢、野田、長谷川、 早川、原、平松、藤井、水野、村田、 柳澤、山本、伊東、伊藤、衣斐、 岡本誉、奥田、加藤、小島、近藤、 高谷、西川、橋本、半谷、間宮、 リバック、水本、吉田、吉見、輪島、 田巻、片岡 計48名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### ≪活動方針≫

- (1) 1年次と3年次を対象にGPS-Academic アセスメントテストを実施し、受検学生にフォローガイダンスの機会を提供するとともに、集計分析結果を教員にフィードバックし組織的な課題を共有する。
- (2) 「科目別学修振り返りアンケート」の設問項目を学期当初から意識した学修を学生に促すとともに、アンケート結果を基にシラバスや授業方法の改善に向けた教職員間の意見交換の機会を確保する。
- (3) 教職員間での情報共有と意見交換を通じた学生による効果的な学修に資する環境整備の促進を行う。
- (4) 欠席回数が多い学生に関する早期の状況把握と組織的対応を行う。
- (5) 大学教育開発センターによるFD・SDフォーラムおよびFD・SD学習会への参加に基づき、教職員間での意見交換を実施する。
- (6) 3～4年次ゼミナールにおける卒業研究中間発表会・卒論発表会の実施および各ゼミの取組に関する学部内での共有をはかる。
- (7) 2年次と4年次を対象として「社会人基礎力診断テスト」を実施する。

### ≪目標≫

教育の質の保証および向上に向け、教員による授業の内容と方法を改善し向上させるための組織的な研修および研究の取組とともに、学部に関係する全ての教職員による管理運営や教育・研究支援までを含めた能力および資質向上のための組織的な取組を推進する。このため、主に次のような点に注力する。

- 学修者本位の教育を確立し、学生による主体的・自律的な学修環境の整備を促進する。
- 外部アセスメントによる学修成果の可視化に基づく学生への働きかけと教育改善を進める。
- 個別の教職員による創意工夫や改善の取組に関する学部内での共有と組織的展開をはかる。

### ≪活動内容≫

#### ①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ・『アセスメントテストGPS-Academic』1年次と3年次の経年での集計・分析結果を教授会で共有し、特に本学部学生の学習傾向を把握することによって、授業改善等のFD活動に役立てる。
- ・「科目別学修振り返りアンケート」の実施に当たり、学生への呼びかけならびに可能な範囲で各科目の授業時間内での実施を行う。

## ②その他学部独自の取組（SD 含む）

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあい、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

## 2. 今後の課題、方向性

FD・SD委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取り組みの検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取り組みの場とする。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月4日 ～6月20日	令和7年度入学者を対象にGPS-Academic アセスメントテストを実施	FD	—
2	令和7年4月16日 (FD・SD委員会)	令和6年度卒業生の卒業時社会人基礎力診断テスト実施結果について、入学時からの推移について集計資料に基づいて審議した。	FD	杉浦(真)、鎌田、張、手嶋 計4名
3	令和7年5月6日 ～5月21日	新学期における新入生の出席状況をめぐり、複数の必修科目での欠席の多い学生の抽出と関係教職員間での情報共有をはかった。	SD	赤木、稲葉、鎌田、鈴木(淳)、杉浦(真)、手嶋、福島、川島 計8名
4	令和7年5月21日 (FD・SD委員会)	FD・SD取組を推進する組織の活動について、活動目標及び具体的取組の内容を確認した。	SD	杉浦(真)、鎌田、張、手嶋 計4名
5	令和7年6月2日 ～6月30日	2年次と4年次を対象として「社会人基礎力診断テスト」を実施	FD	—
6	令和7年7月31日 (教授会)	社会人基礎力診断テスト(2・4年次)の実施分析結果を共有し意見交換した。	FD	赤木、稲葉、宇野、大野(栄)、鎌田、亀井、柄谷、島田、杉浦(伸)、杉浦(真)、鈴木(淳)、手嶋、張、西野、福島、水野、森杉、山谷、若林、大野(沙)、川島、鈴木(千)、田口、森、伊東 計25名
7	令和7年9月18日 (教務委員会)	学務センターからの依頼に基づく成績評価基準の平準化について、資料に基づいて意見交換を行った。	FD	赤木、森杉、手嶋、鈴木(千)、森 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
8	令和7年9月25日 (FD・SD委員会)	入学前教育における実施科目の選定について意見交換のうえ、検討した。 GPS-Academic アセスメントテスト 1年次実施結果について、ベネッセ i-キャリアからの説明により、確認 と課題の抽出を行った。	SD	杉浦（真）、鎌田、張、手嶋、田口 計5名
9	令和7年11月15日	2025年度第1回FD・SD交流会を開催	FD	杉浦（真）、鈴木（淳）、水野、宮本、 山谷、川島、鈴木（千）、田口、伊東 計9名
10	令和7年12月17日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施する『授業改善の達成度に関する評価アンケート』 の設問項目を検討し、確認した。	FD	杉浦（真）、鎌田、張、手嶋、田口 計5名
11	令和8年2月13日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』 結果を集計し、結果を共有した。	FD	杉浦（真）、鎌田、手嶋、田口 計4名
12	令和8年3月2日 (教授会)	GPS-Academic アセスメントテスト 実施結果まとめ及び学修成果の現状 を確認し、課題抽出した。（講演：ベ ネッセi-キャリア）	SD	赤木、稲葉、宇野、大野（栄）、 鎌田、亀井、柄谷、島田、杉浦（伸）、 杉浦（真）、鈴木（淳）、手嶋、西野、 福島、水野、宮本、森杉、大野（沙）、 川島、鈴木（千）、田口、森、伊東 計23名
13	令和8年3月2日	2025年度第2回FD・SD交流会を開催	FD	鎌田、杉浦（真）、鈴木（淳）、福島、 水野、大野（沙）、川島、鈴木（千）、 田口、伊東 計10名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### ＜活動方針＞

- 1) 研究者として必要な、高度な能力と専門知識、問題解決力等を身につけ、専門職人材として社会のあらゆる場面でリードできる研究者の養成を目指す。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての関わり方、研究指導の効果、適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善についてFD活動の継続的取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

### ＜目標＞

- 1) 高度専門職人材に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」など『行動能力』の必要性を意識させる。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主指導教員の指導で作成するとともに、副指導教員を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 学会参加や研究発表を推奨する。
- 4) 年度末に行われる研究報告会（中間発表および審査発表）に、すべての大学院生および教員の参加を促し、学生相互で研究報告内容を評価する。
- 5) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

### ＜活動内容＞

#### ① FD 共通課題

修士課程及び博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィードバックする。発表者は評価結果を受け止めながら、研究の深化、研究者としての成長をはかるとともに論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努める。

#### ② SD 共通課題

研究倫理教育を徹底し、eL CoREの修了証書提出を義務付けている。  
修士課程及び博士後期課程でそれぞれ策定した『研究指導プロセス』について、指導学生の研究進捗の状況を確認し、プロセスの適切性について意見交換を行う。

### ③その他課題

大学院生の教育能力の開発の取り組みとして努力義務（大学院設置基準）とされている『プレFD』について検討する。

## 2. 今後の課題、方向性

- 1) 本研究科が掲げるディプロマポリシーを確実に身につけることができるように、研究進捗のプロセス管理の方法等について、組織的な取り組みの適切性の検証を継続的に行う。
- 2) 修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 3) 大学院修了時アンケート及び大学院生満足度調査の結果から、学生の学習成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部FD・SD委員会との連携の下、組織的な取り組み改善に繋げていく場とする。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年5月15日 学務委員会	課程博士の学位授与申請手続きの確認 修士論文作成要領の確認 学位授与に関する申請基準及び審査基準の確認 研究中間発表会、学位論文公聴会実施要領の確認	FD	福島、赤木、水野、山谷、若林 5名
2	令和7年6月12日 学務委員会	学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検審議	SD	福島、赤木、水野、山谷、若林 5名
3	令和7年7月17日 学務委員会	修士課程及び博士後期課程の研究計画書確認	FD	福島、赤木、張、水野、山谷、若林 6名
4	令和7年9月11日 学務委員会	カリキュラム構成のあり方について 議論	FD	福島、赤木、水野、山谷、若林 5名
5	令和7年11月13日 学務委員会	院高度化費の執行状況の確認および 執行基準の見直し 大学院パンフレット作成を通じて研 究科における力点やカリキュラム指 標について議論	FD	福島、赤木、水野、山谷、若林 5名
6	令和7年12月11日 学務委員会	カリキュラム構成のあり方について 議論 大学院生満足度調査の項目検証	FD	福島、赤木、張、水野、山谷、若林 6名
7	令和8年3月6日 学務委員会	現行カリキュラムの検証（履修者及 び授業担当教員への聞き取り）結果 の共有と課題の確認	FD	福島、赤木、水野 3名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

人間学部FD・SD委員会は、委員長1名、委員3名、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標としてFD・SD活動に取り組んでいる。令和8年1月までに以下に取り組んだ。

- 人間学部FD・SD委員会の開催
- 学修成果の可視化を目的とした外部調査（GPS-Academic）の実施
- 人間学部・人間学研究科合同第1回FD・SDフォーラム「基礎ゼミナールと講読ゼミナールに関する意見交換」
- 人間学部第2回FD・SDフォーラム「国際専門研修プログラム報告」
- 人間学部・人間学研究科合同SD学習会「人間学部の成り立ち－短期大学部と教職課程部からの変遷－」
- 人間学部・人間学研究科合同第3回FD・SDフォーラム「GPS-Academicの結果比較と人間学部における学修傾向について」

人間学部教授会では、大学教育開発センター委員会でのFD・SDに関連する事項が報告され、本学のFD・SD活動についての情報共有が図られている。5月に開催した第1回人間学部・人間学研究科合同FD・SD委員会では、FD・SD活動の年間計画および進め方に関して協議を行った。

9月11日に人間学部の必修科目である「基礎ゼミナール」と「講読ゼミナール」をテーマとする人間学部・人間学研究科合同の第1回FD・SDフォーラムを開催した。新しい試みとして新任教員2名とFD・SD委員1名を加えた3名による座談会形式でまずは話題提供がなされた後、参加者全体で意見交換を行うかたちを採った。

10月16日には、国際専門研修としてユタ工科大学へ学生を引率した教員による報告会を第2回FD・SDフォーラムとして開催した。

11月27日には、これまでの「人間学部」を改めて振り返るために、2名の教員、及び1名の事務職員を講師としたSD学習会を「人間学部の成り立ち－短期大学部と教職課程部からの変遷－」と題して開催した。

2月13日にはベネッセi-キャリアの担当者をお招きし、1年次生と3年次生のGPS-Academicの結果に基づく傾向分析や課題抽出を行うための人間学部・人間学研究科合同第3回FD・SDフォーラムを開催した。

## 2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の4年間における学びを支援するための教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取組を検討、実施する。次年度には、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD委員会の開催
- SD学習会の開催
- FD・SDフォーラムの開催
- FD・SD情報の共有化のための活動
- 学修成果を可視化する取組としてのGPS-Academicの実施

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年5月21日	<b>【第1回 FD・SD委員会（大学院合同）】</b> 1. 「MS-26戦略プラン（部署版）」 「2025年度事業計画書（部署版）」 の再確認について 2. FD・SD取組の推進組織一覧表 について 3. FD・SD活動の年間活動予定に ついて 4. 科目別学修振り返りアンケート の対象除外科目について 5. ベネッセiキャリアの対応につ いて 6. 令和6（2024）年度名城大学自 己点検・評価報告書の確認につ いて  <b>【報告事項】</b> ・科目別学修振り返りアンケートの 実施について ・GPS-Academic フォローガイダ ンスについて	FD FD・SD FD・SD FD FD FD	岡戸、西村、谷口、志村、高橋、 中村（6名）
2	令和7年7月28日 ～8月4日	<b>【第2回 FD・SD委員会】</b> メール審議 ・MECプログラムの見直しについて ・中間報告書の提出について	FD FD・SD	岡戸、谷口、志村、高橋、中村 （5名）
3	令和7年9月11日	<b>【人間学部・人間学研究科合同】</b> 第1回FDフォーラム テーマ：「基礎ゼミナールと講読ゼミ ナールに関する意見交換」 （座談会形式）	FD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、 笠井、加茂、水尾、和田、宮嶋、 櫻井、西村、畑中、加藤、原田、 西山、高橋、土屋、二村、中村、 深川（20名）
4	令和7年9月12日 ～9月16日	<b>【第3回 FD・SD委員会】</b> メール審議 FD・SD活動報告（中間）について	FD・SD	岡戸、谷口、志村、高橋、中村 （5名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和7年9月25日	教授会にて成績評価基準の平準化について議論 (9/4教務委員会審議を踏まえて)	FD	岡戸、伊藤(康)、伊藤(俊)、一ノ谷、ウエストビィ、笠井、加藤、加茂、櫻井、志村、高橋、谷口、土屋、西村、西山、二村、畑中、原田、ビーチ、和田、水尾、宮嶋、中村、荒川(24名)
6	令和7年10月16日	第2回人間学部FD・SDフォーラム 国際専門研修プログラム報告 講師：谷口先生	FD	岡戸、伊藤(康)、伊藤(俊)、一ノ谷、ウエストビィ、笠井、加藤、加茂、櫻井、志村、高橋、谷口、土屋、西村、西山、二村、畑中、原田、ビーチ、和田、水尾、宮嶋、中村、青山(24名)
7	令和7年11月6日 ～11月12日	【第4回FD・SD委員会】メール審議 ・MS-26戦略プランの見直しについて ・2026年度事業計画書(部署版)の作成について	FD・SD FD・SD	岡戸、谷口、志村、高橋、中村(5名)
8	令和7年11月27日	【人間学部・人間学研究科合同】SD学習会「人間学部の成り立ち－短期大学部と教職課程部からの変遷－」 講師：伊藤(康)先生、宮嶋先生、中村氏	SD	岡戸、伊藤(康)、伊藤(俊)、一ノ谷、ウエストビィ、笠井、加藤、加茂、櫻井、志村、高橋、谷口、西村、二村、畑中、原田、ビーチ、和田、宮嶋、中村、深川(21名)
9	令和8年2月13日	【人間学部・人間学研究科合同】第3回FDフォーラム「GPS-Academic」の結果比較からみる人間学部の学修の傾向について 話題提供：ベネッセiキャリア世登様	FD	岡戸、西村、笠井、原田、志村、加茂、櫻井、谷口、高橋、畑中、土屋、加藤、二村、西山、水尾、青山、深川、中村(18名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

人間学研究科 FD・SD 委員会は、委員長1名、委員3名（内1名は学部 FD・SD 委員長を兼務）、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD・SD 活動に取り組んでいる。令和8年1月までに以下に取り組んだ。

- 人間学部・人間学研究科 FD・SD 委員会の開催
- 人間学部・人間学研究科 FD・SD フォーラム
- 人間学部・人間学研究科 SD 学習会
- 授業アンケートの実施

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上①教育内容及び教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容（具体的取り組み）[達成度指標]は、以下の通りである。（1）学部の FD・SD 委員会と合同で教員の資質向上につながる FD・SD 活動を実施する [実施した FD・SD 活動回数]。（2）大学院生に対するアンケート調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する [アンケート実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、1年生には、面接による授業アンケート、2年生には、紙面による授業アンケートを実施した。院生が少ないことからくる制約は感じられた。研究科委員会において、アンケート結果を報告し、全教員での共有を図っている。

5月に開催した第1回人間学部・人間学研究科合同 FD・SD 委員会では、FD・SD 活動の年間計画および進め方に関して協議を行った。9月11日に人間学部の必修科目である「基礎ゼミナール」と「講読ゼミナール」をテーマとする人間学部・人間学研究科合同の第1回 FD・SD フォーラムを開催した。新しい試みとして新任教員2名と FD・SD 委員1名を加えた3名による座談会形式でまずは話題提供がなされた後、参加者全体で意見交換を行うかたちを採った。

11月27日には、2名の教員、及び1名の事務職員を講師とした人間学部・人間学研究科合同 SD 学習会を「人間学部の成り立ち－短期大学部と教職課程部からの変遷－」と題して開催した。

2月13日にはベネッセ i-Care キャリアの担当者をお招きし、人間学部1年次生と3年次生の GPS-Academic の結果に基づく傾向分析や課題抽出を行うための人間学部・人間学研究科合同第3回 FD・SD フォーラムを開催した。

## 2. 今後の課題、方向性

本研究科におけるFD・SD活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。今後の計画としては、作成された学位授与方針対応表に沿ったシラバスの作成と点検、後期アンケートの実施、また、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD委員会の開催
- FD・SDフォーラムの開催
- FD・SD情報の共有化のための活動

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和7年5月8日	<b>【第1回 FD・SD委員会】</b> (審議事項) ・「MS-26戦略プラン(部署版)」[2025年度 事業計画書(部署版)]の再提出について ・令和6年(2024)年度名城大学自己点検・評価報告書の確認について ・FD・SD取組の推進組織一覧表について	FD FD FD・SD	西村、笠井、岡戸、深川(4名)
2	令和7年5月21日	<b>【第2回 FD・SD委員会(学部合同)】</b> ・FD・SD活動の年間活動予定について	FD・SD	西村、岡戸(2名)
3	令和7年6月17日 ～23日	<b>【第3回 FD・SD委員会】</b> メール審議 ・2025年度前期授業アンケートの実施について	FD・SD	西村、笠井、岡戸、深川(4名)
4	令和7年9月11日	<b>【第1回 人間学部・研究科合同FDフォーラム】</b> テーマ:「新任教員による教授法」(座談会形式)	FD	西村、笠井、岡戸、伊藤(康)、伊藤(俊)、一ノ谷、加茂、水尾、宮嶋、櫻井、畑中、加藤、原田、西山、高橋、深川(16名)
5	令和7年9月19日	<b>【第4回 FD・SD委員会】</b> メール審議 ・2025年度前期授業アンケートの結果について ・人間学研究科FD・SD活動報告(中間)について	FD・SD FD・SD	西村、笠井、岡戸、深川(4名)
6	令和7年11月13日	<b>【第5回 FD・SD委員会】</b> ・MS-26戦略プランの見直しについて ・2026年度事業計画書(部署版)の作成について ・2025年度後期授業アンケートの実施について	FD FD FD・SD	西村、笠井、岡戸、深川(4名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和7年11月27日	<p><b>【人間学部・研究科合同SD学習会】</b>  「人間学部の成り立ち－短期大学部と教職課程部からの変遷－」</p> <p>講師：伊藤（康）、宮嶋、中村</p>	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加藤、加茂、櫻井、高橋、谷口、西村、畑中、原田、宮嶋、中村、深川（17名）
8	令和8年2月13日	<p>人間学部・研究科合同FDフォーラム  「GPS-Academic」について</p> <p>講師：ベネッセiキャリア世登様</p>	FD	岡戸、西村、笠井、原田、加茂、櫻井、谷口、高橋、畑中、加藤、西山、水尾、深川（13名）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

外国語学部 FD・SD 委員会は、委員長1名、委員2名、事務職員1名の計4名体制で運営されている。本学部では、教授会や各種委員会において、教育改善のための意見交換が定期的に行われ、これに基づき研修会が随時開催されている。例えば、教授方法の改善に関する研修、授業参観プログラムなどが挙げられるが、そのほか特に、本学部のコアカリキュラムを構成する英語科目については英語教育委員会が必修科目担当教員への支援を強化している。また学務委員会では、カリキュラムの改善や成績評価基準の平準化に加え、合理的配慮認定生の教学的対応について検討し、ICT 委員会は全教員の ICT スキルアップのための研修会を開催するなど、随時総合的な教育改善が目指されている。

### 今年度の活動方針と目標

全学共通テーマである「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」ならびに本学部で次年度より始まる新カリキュラムの運用にむけて、各種委員会が連携しながら、建学の精神や学部のディプロマポリシーに沿う形で FD・SD 活動を推進する。

### 今年度の活動内容と実績

(1) 全学共通テーマに関連した取り組みとして、以下のものを実施した。

- ・成績評価基準の平準化に関する検討

今年度前期の成績については、学務委員会（9/1）および教授会（9/4）にて検討した。

今年度後期の成績については、学務委員会および教授会にて、今後検討の予定である。

- ・GPS-Academic の実施と結果分析

1年生は今年度前期に、3年生は後期に実施し、それらを踏まえた結果分析を今後予定する。

(2) 学部独自の取り組みとして、「3. 活動記録」に記載の通り以下のものを実施した。

- ・新年度 FD・SD 委員会の開催と活動方針の確認
- ・授業参観プログラムの実施
- ・各種研修会の実施（学習支援関連）
- ・新カリキュラムに関する説明会
- ・新任教員の研究内容に関する研修会
- ・学部ディプロマポリシーに関わるイベントの開催
- ・新カリキュラムに関する検討
- ・合理的配慮認定生の学修評価をめぐる検討

## 2. 今後の課題、方向性

次年度は今年度の活動の中から新たに見えてきた課題を踏まえ、各種委員会や教員がこれまで以上に連携しながら、学部全体の教育改善に繋がる活動を継続的に進めてゆく。2026年度より始まる新カリキュラム運営にあたり想定される各種の問題点について精査し、また GPS-Academic の結果を踏まえながら、本学部の教育改善の方向性を具体的に検討してゆく予定である。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月10日	外国語学部第一回 FD・SD 委員会 場所：外国語学部資料室 時間：13時10分～13時50分 主催：外国語学部 FD・SD 委員会	FD	教員：呉、鈴木、豊田 事務：佐野（委任） 【計4名】
2 ～ 7	令和7年4月 ～7月	授業参観： 基礎演習1 日時：4/29、5/13、5/27、6/10、 6/24、7/8 時間：13時10分～14時50分 授業担当：西尾、増田、津村、池、 藤原、畑、宮崎、富岡、柳沢、宮下 教室：DW304、DW305、DW306、 DW401、DS304	SD	事務：有蘭 【計1名×6回】
8	令和7年5月8日	授業参観：海外留学入門 場所：DN301 時間：9時10分～10時40分 授業担当：マイネハン	SD	教員：鈴木 事務：有蘭 【計2名】
9	令和7年5月12日	ワークショップ： Artificial Intelligence Transcription Tools 場所：DN410 日時：15時～15時半 発表：ガラカー	FD	教員：ガラカー、ボイズ、小倉（非 常勤）、マイネハン 【計4名】
10	令和7年6月2日	ワークショップ： GenAI tools and strategies 場所：DN410 日時：15時～15時半 発表：ガラカー	FD	教員：ガラカー、ボイズ、マイネ ハン、メイヤ（非常勤） 【計4名】
11	令和7年6月5日	外国語学部2026年度新カリキュラム 説明会 場所：外国語学部資料室 日時：14時～15時 主催：富岡学部長	FD・SD	教員：富岡、西尾、池、ウイキン、 呉、津村、藤原、プレーバー、増田、 ロジャース、安達、畑、マイネハン、 マレー、豊田 事務：佐野、服部、有蘭、井奈波、 伊藤（キャリアセンター・元外国 語学部学務担当） 【計20名】

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和7年6月13日	研修会： 第二外国語新カリキュラム運営に伴う会議 場所：外国語学部資料室 日時：12時半～14時 主催：呉	FD	教員：呉、安達、豊田 【計3名】
13	令和7年6月26日	イベント： 新任教員による研究内容の紹介 ・増田教員：「ホワイトカラー・ゼネラリストの人材育成・能力開発ー何もしないほうが得な社会からの変革をめざしてー」 ・畑教員：「酒を描き、楽しむー江戸の物語に見る酒の文化ー」 場所：外国語学部資料室 日時：15時20分～16時10分 企画：外国語学部FD・SD委員会	FD・SD	教員：富岡、呉、藤原、宮崎、ウイキン、増田、ロジャース、池、マレー、宮下、安達、マイネハン、畑、鈴木、豊田 事務：井奈波、有蘭 【計17名】
14	令和7年6月26日	イベント： 難民映画祭「難民アスリート、逆境からの挑戦」 場所：DS101 時間：16時40分～19時 企画：宮下	FD・SD	教員：富岡、増田、宮崎、宮下、鈴木、豊田 事務：井奈波 【計7名】
15	令和7年7月10日	イベント：王恵珍先生講演会「戦後台湾の日本語文学——呉濁流の作品を中心に」 場所：DN301 時間：10時50分～12時20分 企画：豊田	FD	教員：鈴木、畑、豊田 【計3名】
16	令和7年7月11日	ワークショップ： Wikivoyage and Wikimedia Commons 場所：DN403 時間：15時～15時半 担当：ガラカー	FD	教員：ガラカー、ウイキン、ラム(非)、小倉(非) 【計4名】
17	令和7年9月4日	ワークショップ： 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について 場所：外国語学部資料室	FD	教員：富岡、西尾、池、ウイキン、呉、津村、藤原、プレーバー、増田、宮崎、柳沢、ロジャース、安達、マイネハン、マレー、宮下、豊田 事務：井奈波、有蘭 【計19名】
18	令和7年10月3日	ワークショップ： A.I. for tailored, engaging learning materials 場所：DN403 時間：15時～15時45分 担当：モリッシュ(非) 場所：DN403	FD	教員：モリッシュ(非)、ガラカー、ボイズ、マレー、ウイキン、ラム(非)、小倉(非)、メヒア(非) 【計8名】

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
19	令和7年10月11日	ワークショップ： 新専攻発足にむけた入学前オリエン テーション学部紹介ビデオ作成に関 するミーティング 場所：外国語学部資料室	FD	教員：富岡、西尾、池、増田、柳沢、 豊田 事務：井奈波、佐野 【計8名】
20	令和7年11月28日	ワークショップ： Duolingo English Test: The Basics 場所：DN412 時間：15時～15時45分 担当：ガラカー	FD	教員：ガラカー、ウイキン、ホール、 ラム（非）、小倉（非） 【計5名】
21	令和7年12月11日	ワークショップ： 合理的配慮認定生の卒論対応につい て 場所：外国語学部資料室	FD	教員：富岡、西尾、池、ウイキン、 呉、鈴木、津村、藤原、プレーバー、 増田、宮崎、柳沢、ロジャース、 安達、畑、マイネハン、マレー、 宮下、豊田 事務：井奈波、有蘭 【計21名】
22	令和8年3月12日	ワークショップ： 教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準の平準化について 場所：外国語学部資料室	FD	教員：富岡、西尾、池、ウイキン、 鈴木、藤原、プレーバー、増田、 宮崎、柳沢、ロジャース、畑、 マイネハン、マレー、宮下、豊田 事務：井奈波、有蘭 【計18名】
23	令和8年3月26日 予定	ワークショップ： 2025年度 GPS-Academic 受検結果報 告 場所：外国語学部資料室	FD	教員：富岡、西尾、池、ウイキン、 呉、鈴木、津村、藤原、プレーバー、 増田、宮崎、柳沢、ロジャース、 安達、畑、マイネハン、マレー、 宮下、豊田 事務：井奈波、有蘭 【計21名】
24	令和8年3月予定	外国語学部第二回 FD・SD 委員会 場所：外国語学部資料室	SD	教員：呉、鈴木、豊田 事務：佐野 【計4名】

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 情報工学部 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に係る取組として、新入生オリエンテーションでデータサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムの周知を行い、令和7年度1年次在籍者202名中186名の登録に至った。また、令和6年度データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムの自己点検評価結果を周知した。

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る取組として、成績評価が著しく易しい科目および著しく厳しい科目の抽出などを踏まえた検討結果を取りまとめ、分析結果と効果的な改善策について周知した。

入学前オリエンテーションおよびMECプログラムに関する状況分析および見直しに関する検討を行った。さらにGPS-Academicによる学修行動調査を実施し、その分析結果を教職員に共有するために、ベネッセi-キャリアの外部講師を招いた報告会を開催した。

## 2. 今後の課題、方向性

本学部で推進するPBL学習の学修効果をより詳細に分析し、外部との連携を含めたPBL学習の継続的な改善の検討を行う。また、学生の主体的な参加を促す授業形態の導入状況を調査し、課題を抽出して組織内で共有する。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月4日	データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラム登録の周知	SD	旭、宇佐見、亀谷、川澄、小中、佐川、鈴木、高比良、竹本、田中、寺本、中野、野崎、坂野、水沼、向井、柳田、山田（啓）、山田（宗）、山本、吉川、米澤 計22名
2	令和7年4月10日	データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムに関する点検・評価結果の周知	SD	旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、鈴木、高比良、竹本、田中、寺本、中野、野崎、坂野、水沼、向井、柳田、山田（啓）、山田（宗）、山本、吉川、米澤、辻永、中村、山木 計24名
3	令和7年5月8日	GPS-Academic受検結果に関する分析	FD	旭、宇佐見、鈴木、高比良、田中、柳田 計6名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和7年5月22日	情報工学部におけるFD・SD取組の推進組織および具体的取り組み内容の周知	FD・SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山本, 吉川, 米澤, 辻永, 中村, 都築 計24名
5	令和7年6月5日	入学前オリエンテーションおよびMECプログラムに関する検討	FD	旭, 宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 柳田 計6名
6	令和7年7月29日	授業エビデンスの保存に関する周知	SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤 計22名
7	令和7年7月31日	MECプログラムの見直しに関する検討	FD	旭, 鈴木, 田中, 野崎, 柳田 計5名
8	令和7年8月29日	GPS-Academicによる学修行動調査結果に関する検討	FD	旭, 宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 柳田 計6名
9	令和7年9月12日	前期成績の分析および概況報告	FD	旭, 宇佐見, 川澄, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎, 水沼, 柳田, 山本 計10名
10	令和7年10月2日	附属高校特別推薦者入学前指導に関する検討	FD	旭, 宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 柳田 計6名
11	令和7年11月24日	GPS-Academic実施報告書の作成	FD	旭, 鈴木, 高比良, 田中, 柳田 計5名
12	令和7年12月4日	GPS-Academic報告会	FD	鈴木, 田中, 向井, 水沼, 竹本 計5名
13	令和7年12月11日	GPS-Academicを使った学修行動調査報告	FD	旭, 宇佐見, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 杉原, 辻永, 山木 計23名
14	令和7年12月29日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討	FD	旭, 鈴木, 高比良, 田中, 柳田 計5名
15	令和8年1月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討結果の報告	SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山本, 吉川, 米澤, 杉原, 辻永, 山木 計23名
16	令和8年1月20日	授業エビデンスの保存に関する周知	SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤 計22名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）

## 1. 令和7年度の活動報告

本研究科では、FD・SDの取り組みを推進するために、教育検討部会を組織している。部会では、学生の学びや成長を促進できるよう授業設計を検討し、研究と教育の支援を行うことを目標としている。

令和7年4月12日（土）に「春季総合コアプログラム」、9月20日（土）に「秋季総合コアプログラム」を開催し、教員と院生がそれぞれ研究発表を行い、多様な分野の教員・職員・学生が討論に参加した。本プログラムは、単なる院生の研究発表にとどまらず、教員自らが最先端の研究を紹介し、それを題材に多角的な議論を行うものであり、FD・SD活動として教育・研究の質向上に資する取組である。また、学習者のニーズを把握し、教育・研究の質を高めることを狙いとして、9月の秋季総合コアプログラムの後に学生も交えた懇親会を実施した。

5月には、教育検討部会の活動目標や取組内容を見直し、研究科内で活動目標が共有された。また、11月には、教育課程の見直しに関する議論も行った。

12月には、9月に開催された全学のFD・SD研修会「学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性」に参加した教員から研修内容の報告が行われ、それを踏まえて研究科の授業にどのように活用できるかについて意見交換を行った。

## 2. 今後の課題、方向性

今年度は、初めての試みとして、全学のFD・SD研修会の内容を研究科内で共有し、意見交換を行った。研究科独自でFD・SD研修を継続的に実施することは容易ではないが、今後は、全学の研修会に教員が積極的に参加するとともに、その内容を研究科内に共有し、教育や業務に活かす機会を継続的に設けていきたい。

また、教員の教育力向上を目的としたFD活動に加え、教職員の知識・技能・資質の向上を図るSD活動についても、計画的に実施していく。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和7年4月12日	春季総合コアプログラム	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、鈴木、平松、和田、衣斐、香村、神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
2	令和7年4月17日	第1回博士前期課程部会 ・令和8年度学位授与方針対応表等 を用いた教育課程の自己点検の実 施について	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
3	令和7年5月22日	第2回博士前期課程部会 ・教育検討部会の活動目標・取組内 容の検討	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
4	令和7年6月5日	第3回博士前期課程部会 ・秋季総合コアプログラム開催要項 の検討	FD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 平松、和田、衣斐、香村、神藤、 本田、伊藤、飯田、岡田 計14名
5	令和7年7月17日	第5回博士前期課程部会 ・2025年度 卒業・終了時アンケー ト（9月・3月）の実施について	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
6	令和7年8月28日	第6回博士前期課程部会 ・秋季総合コアプログラム開催につ いて	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
7	令和7年9月11日	第7回博士前期課程部会 ・IR データを活用した点検・評価の 実施と「アセスメント・ポリシー」 及び「アセスメント・プラン」の 確認・修正について	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
8	令和7年9月20日	秋季総合コアプログラム	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
9	令和7年11月13日	第10回博士前期課程部会 ・大学院総合学術研究科博士前期課 程・博士後期課程の教育課程の改 正について	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名
10	令和7年12月11日	第11回博士前期課程部会 ・FD・SD 研修会の報告	FD	景山、田中、加藤、木村、志村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村、 神藤、本田、伊藤、飯田、岡田 計15名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）

## 1. 令和7年度の活動報告

### ・今年度の活動目標

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保と学芸員課程の充実を目標に、教職と学芸員に関する科目の授業改善に向けた研究交流および教育活動の効果的な運営を図るための研修を企画し、運営する。

### ・活動方針

上記を踏まえ、今年度の活動方針として、主に三つの取り組みを企画した。第一に、質の高い教員・学芸員養成を目指した教職・学芸員科目の授業改善に向けた研究、第二に、障がい学生支援に関する学習、第三に、学修成果の可視化、評価方法の研究（履修カルテ、アンケートの利用）である。

### ・活動内容および活動実績

(1) 質の高い教員・学芸員養成を目指した教職・学芸員科目の授業改善に向けた研究について

第一の取り組みとして、生成 AI の最新動向と教育現場での活用について情報共有を行った。前半では ChatGPT や NotebookLM の概要と具体的な活用事例を紹介し、後半は参加者によるディスカッションを通じて、実践例や課題、懸念点を共有した。AI との共存を前提とした今後の教育に向けて、多角的な視点から議論を深める機会となった。

また、二回にわたり「より効果的な教授法・学生にとって効果的な学習法を考える」と題した研究会を開催した。研究会では、授業改善や学習支援の工夫、ICT・教育 DX、業務改善や学生対応の工夫の三つのテーマを設定し、参加教員がそれぞれの関心に応じてテーマを選択し、実践報告を行った。これらの発表をもとに意見交換を行い、教員間での実践知の共有を通して、教育活動および学生支援の質の向上に向けた検討を深める機会となった。

(2) 障がい学生支援に関する学習について

第二の取り組みである障がい学生支援に関する学習では、二回の学習会を計画した。第一回目は、「障がいのある学生への合理的配慮」をテーマとした講演会を開催した。講師として障がい学生支援センター長を迎え、障害者差別解消法等を踏まえた具体的な対応事例や課題について講演いただき、障がい学生支援に関する理解を深める機会とした。

第二回目は、障がい学生への支援について、授業や学生対応等の具体的な場面を想定しながら教職員間で意見交換を行うことを目的として、学習会を実施する予定である。本学習会では、合理的配慮の基本的な考え方を共有した上で、事例をもとにした討議を行い、対応の視点や判断のプロセスについて理解を深めることを目指す。

### (3) 学修成果の可視化、評価方法についての研究について

第三の取り組みでは、学生に対してアンケートを実施し、これを分析した結果から、学修成果の可視化、評価方法について検討する予定である。学修成果の可視化を実現するための各教員の創意工夫を促進する研究の場とする。

### (4) 教職センター懇談会

教職センター懇談会では、教員・学芸員養成に関わる課題や今後の方向性について、授業担当者間で意見交換を行う予定である。

## 2. 今後の課題、方向性

### (1) FD の取り組みについて

本年度は、「より効果的な教授法・学生にとって効果的な学習法を考える」をテーマに、各教員が授業改善、学習支援、ICT・教育DX、業務改善等の観点から実践報告を行い、教育実践に関する知見の共有を行った。

来年度の取組では、これらの実践を踏まえ、教授法・学習支援の工夫が学生の学びにどのような影響を与えたのかという視点から、教育実践を振り返ることを目的とする。個々の実践を単なる事例紹介にとどめず、教育効果や課題を整理・共有することで、学内における教育改善の知を蓄積し、より質の高い大学教育の実現につなげる。

### (2) SD の取り組みについて

本年度のSD研修会では、障がい学生支援に関する合理的配慮の基本的考え方および判断の視点について、教職員間での共通理解を図った。

これらの取組を踏まえ、次年度のSD研修会では、実際の学生対応の現場において判断に迷いややすい場面を想定し、より実践的な対応力の向上を目的とした研修を実施する。すなわち、「学生対応の現場で迷わないためのケーススタディ—教職協働による支援を考える—」をテーマとし、心理的に不安定な学生への対応、合理的配慮の要求が強いケース、教員対応と事務対応の間に生じやすい認識の違い等、現場で想定される複数の事例を取り上げる。研修では、事例に基づくグループ討議を通して、「どのように判断するか」「どこにつなぐか」という視点から意見交換を行い、教職員間の考え方のすり合わせを図りたい。

### (3) 学修成果の可視化、評価方法の研究

学生の学修成果を経年で把握するためにも、今後も同様の調査・検討を行っていききたい。

### (4) 教職センター懇談会

本年度は、新型コロナ禍以降、初めての対面開催となったが、対面ならではの情報交換及び交流ができ、大変好評であった。したがって、来年度も同様の方式で実施したいと考えている。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和7年4月29日 (教職センター会議)	研究倫理教育の実施	SD	片山、榎田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口、上地 計8名
2	令和7年5月6日	第1回教職センターFD・SD委員会 今後の活動方針・内容について	FD・SD	木村、谷口 計2名
3	令和7年7月8日	第1回FD研究会(「生成AIの最新 動向と教育現場での活用」)	FD	片山、榎田、竹内、木村、谷口、 嶋口 計6名
4	令和7年7月22日	第1回SD研修会(「障がいのある学生 への合理的配慮」)	SD	片山、榎田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口、鈴木、神保 計9名
5	令和7年9月9日 (教職センター会議)	教員間、もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化についての検討	FD	片山、榎田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口 計7名
6	令和7年9月16日	第2回教職センターFD・SD委員会 FD研修会の詳細について	FD・SD	木村、谷口 計2名
7	令和7年10月14日	第2回FD研究会(「より効果的な教 授法・学生にとって効果的な学習法 を考える1」)	FD	片山、榎田、平山、竹内、木村、 嶋口 計6名
8	令和7年11月11日	第3回FD研究会(「より効果的な教 授法・学生にとって効果的な学習法 を考える2」)	FD	榎田、平山、竹内、木村、嶋口 計5名
9	令和8年1月8日	第27回FD・SDフォーラム (大学教育開発センター)	FD・SD	片山、榎田、平山、竹内、木村、 嶋口、神保 計7名
10	令和8年2月26日	教職センター懇談会	FD	教職センター専任教員(片山、 木村、榎田、竹内、平山、嶋口)、 教職センター開講科目担当非常勤 講師(鵜飼、岡田、加藤、小崎、 杉浦、竹内、平山、西牟田、山田、 山中)、事務職員(鈴木、神保)
11	令和8年3月17日	第2回SD研修会(「障がいのある学生 への支援について」)	SD	榎田、平山、竹内、木村、嶋口、 神保 計6名

## **5. 大学教育開発センター要項**



# 大学教育開発センター要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

## 6. おわりに



# あ と が き

## 大学教育開発センター

本報告書は、令和7年度の本学におけるFD・SD活動の詳細についてまとめたものです。

本学のFD・SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組みます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たにさせていただきますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。



令和8年3月

発行：名城大学 大学教育開発センター

編集：名城大学 大学教育開発センター

住所：〒468-8502  
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電話：(052)838-2032

FAX：(052)833-5230



**MEIJO**  
UNIVERSITY